

前回までに濃度基準値が了承された物質の調査結果一覧（令和4年度、令和5年度に了承されたものを含む）

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			提案理由	その他コメント	標的健 康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集法/分析法									
		八時間濃度 基準値	短時間濃度 基準値									捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評 価	備考				
3-(1-メチル-2-ピロジニル) ピリジン（別名：ニコチン）	54-11-5	0.5mg/m ³	-	雄性SDラット（対照群80匹、ばく露各群100匹）に0、1.14および4.56mg/kg/dayのニコチンを34週間飲水投与したところ、4.56mg/kg/day投与群で心筋のイソクエンチクロゲナーゼ活性およびβ-グルコニダーゼ活性の増加が認められた1）。以上より、動物実験の結果から、心筋への影響を臨界影響としたNOAELを1.14mg/kg/dayと判断し、不確実係数等を考慮した0.5mg/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。	経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある（皮膚吸収性有害物質）。	心筋のイソクエンチクロゲナーゼ活性およびβ-グルコニダーゼ活性の増加	ラット	01	Wenzel DG, Richards MH. Effects of chronic nicotine, acute hypoxia, and their interactions on myocardial enzymes. <i>Toxicol Appl Pharmacol.</i> 1970 May;16(3):656-67.		固体捕集－ガスクロマトグラフ分析方法	XAD-4捕集管 0.1～1.0 L/min 5～600 min	酢酸エチル with 0.01% トリエチルアミン 1mL	GC/NPD	○						
フェンチオン	55-38-9	0.05mg/ m ³	-	男性ヒトボランティアに0、0.02、0.07 mg/kg bw/dayのフェンチオン（純度98.1%）を4週間経口投与した結果、臨床症状は見られず、また赤血球コレステラーゼ（ChE）活性の障害は認められなかった1）。雄性Wistarラット各群10匹に0、1、3、16 mg/m ³ のフェンチオンのエアロゾル（純度98.2%）を2時間/日、5日/週、3週間頭部および鼻部への吸入ばく露をした結果、雄ラットでは最高用量まで症状はみられなかったが、雌ラットは3mg/m ³ 以上ばく露で行動障害が認められた。赤血球及び脳ChE活性の阻害は雌雄とも3mg/m ³ 以上ばく露群から有意にみられ、併せて呼吸器の炎症性変化が認められた2）。雌雄アカゲザル各群5匹に0、0.02、0.07、0.2mg/kg bw/dayのフェンチオン（純度98.1%）を2年間強制経口投与した結果、投与期間後の剖検では組織学的な異常は認めなかたが、0.2mg/kg bw/day投与群の雌雄で赤血球ChE活性阻害（20%以上）が投与期間後の雄2匹中9匹、雌2匹中2匹に認められた。著者らはこの結果よりNOAELを0.07mg/kg bw/dayとしている3）。雄性Wistarラット各群12匹に0、2、2.5、12.5ppm（雄0、0.13、1.63、8.5mg/kg bw/day、雌0.0、0.17、2.19、12.62mg/kg bw/day）のフェンチオンを90日間混餌投与した結果、25 ppm以上投与群の雌雄で活動性の低下および赤血球及びChE活性阻害（20%以上）等が認められ、12.5ppmでは協調運動障害、強直性歩行、持続的不随意運動（筋線維束性痙攣）が認められ、NOAELは雌雄で2ppm（雄:0.13 mg/kg bw/day、雌:0.17 mg/kg bw/day）であると考えられた4）。以上より、ヒトおよび動物試験の結果より、赤血球ChE活性阻害を臨界影響としたNOAELを0.07mg/kg bw/dayと判断し、不確実係数等を考慮した0.05 mg/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。	経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある（皮膚吸収性有害物質）。	赤血球ChE活性 阻害	ヒト及びサル	01	Griffin T, Rosenblum I, Coulston F. Safety evaluation of fenthion in human volunteers. 1979. Unpublished Mobay report No.68790 from the Institute of Comparative and Human Toxicology and International Center of Environmental Safety, Albany Medical College, New York, USA. Submitted to WHO by Bayer AG, Wuppertal, Germany. Cited in JMPR : 895_Fenthion (Pesticide residues in food : 1995 evaluations Part II Toxicological & Environmental)	文献1-4はいずれも原典収集不可であるが、いずれも二次文献において反復投与試験としてデザインが記載されている。文献1および3はヒトおよびサルの経口投与試験、文献2および4はそれぞれサル類の亜急性吸入ばく露、亜慢性反復投与（混餌）試験である。	固体捕集－ガスクロマトグラフ/質量分析方法	固体捕集 (Tenax 100mg/50mg) 3mL/100mg 2L/min (4時間で480L)	酢酸n-ブチル 3mL/100mg 内径:0.20 mm;長さ:12 m;固定相:HP5;膜厚:0.33 μm	ガスクロマトグラフ/質量分析方法 カラム材質:Quartz capillary; 内径:0.20 mm;長さ:12 m;固定相:HP5;膜厚:0.33 μm	○	・フェンチオンは肌への接触を防ぐ ・酢酸n-ブチルは吸入と接触に注意する。 ・作業中に眼を保護する。					
トリブチルズオキシド	56-35-9	スズとして 0.05mg/ m ³	-	雄性SDラット各群10匹にトリブチルズオキシド(TBTO)3,6,12mg/kg bw/日を13～26週間強制経口投与した結果、3mg/kg bw/日以上群で胸腺の重量低下および下垂体の重量増加を認めた。下垂体は前葉、後葉中間部で13週目に空胞化と局所的な壞死が観察され、26週終了時点では細胞の大部分が高度に空胞化した1）。新生児Long-Evans雄性ラット（匹数不明）に酢酸トリブチルズ10mg/kg bw/日を生後3～30日に強制経口投与した実験では、識別可能な神経学的異常は認められなかった2)3）。Wistarラット雌雄各60匹にトリブチルズオキシド、0.5、5、50mg/kg bw/日を106週間混餌投与した試験で、雌雄共に下垂体及び副腎臓質の腫瘍、雄に副甲状腺腺腫の発生がみられたが、これらの腫瘍の発生は中間用量（5mg/kg bw/日）では観察されず、著者はトリブチルズオキシドによる発生率増加の意義を疑問視している4）。以上の動物試験の結果よりトリブチルズ化合物のLOAELを3mg TBTO/kg bw/日と判断し、吸入への変換および不確実係数を考慮した濃度基準値0.05mg Sn/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。																	
トリブチルズアセート	56-36-0																				
トリブチルズクリド	1461-22-9											01	Funahashi N, Iwasaki I, Ide G. Effects of bis (tri-n-butyltin) oxide on endocrine and lymphoid organs of male rats. <i>Acta Pathol Jpn.</i> 1980 Nov;30(6):955-66.								
トリブチルズフルオリド	1983-10-4											02	Bouldin TW, Goines ND, Bagnell RC, Krigman MR. Pathogenesis of trimethyltin neuronal toxicity. Ultrastructural and cytochemical observations. <i>Am J Pathol.</i> 1981 Sep;104(3):237-49.	グラスファイバーフィルター+XAD-2 捕集管 (80 mg/40 mg) 1～1.5 L/min 33.3～500 min	脱着溶媒:アセトニトリル(内標準物質:酢酸) 高速液体クロマトグラフ/黒鉛炉原子吸光光度計(HPLC/GFAAS)	○	・本法の回収率は濃度基準値（参考）の1/10～2倍の濃度範囲であるが、評価は精度、偏り、正確さで示されている。				
トリブチルズ=メタクリラート	2155-70-6											03	Boyer JI. Toxicity of dibutyltin, tributyltin and other organotin compounds to humans and to experimental animals. <i>Toxicology.</i> 1989 May 15;55(3):253-96.	ろ過捕集－原子吸光分析方法 ろ過捕集－原子吸光分析方法 PVCフィルターを装着したポリチレンサンプラー；1 L/minか 2L/min, 200 min	1-プロパンールで溶 解 黒鉛炉原子吸光分析方法	○	・保存安定性試験の結果がないため、速やかに分析する ・検証データ数が少なく応急的な分析法であることに留意する。				
トリブチルズ=シクロヘンタンカルボキシラート及びその類似化合物の混合物（トリブチルズ=ナフテナート）	85409-17-2											04	Wester PW, Krajin EJ, van Leeuwen FX, Loerber JG, van der Heijden CA, Vaessen HA, Helleman PW. Chronic toxicity and carcinogenicity of bis(tri-n-butyltin)oxide (TBTO) in the rat. <i>Food Chem Toxicol.</i> 1990 Mar;28(3):179-96.								
参考	Snoeij NJ, Penninks AH, Seinen W. Biological activity of organotin compounds—an overview. <i>Environ Res.</i> 1987 Dec;44(2):335-53.																				

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果					捕集法/分析法								
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価			
クマホス	56-72-4	0.05mg/m ³	-	雌雄ビーグル犬各群4匹に0、1、30、90 ppm（雄：0.025, 0.775, 2.295 mg/kg/day, 雌：0.024, 0.705, 2.478 mg/kg/day）のクマホス含有餌(98.0-99.0%)を1年間混餌投与した結果、30ppmより90 ppm投与群に血清および赤血球チエニステラーゼ活性(Che)の低下が見られ、NOAELは1ppmと考えられた1)。雌雄Wistarラット各群70匹に0、1、5、25 ppm（雄：0, 0.05, 0.25, 1.22 mg/kg/day, 雌：0, 0.07, 0.36, 1.70 mg/kg/day）のクマホス含有餌 (99.2 %) を2年間混餌投与した結果、雄25 ppm投与群でより、雌5, 25ppm投与群で血清および赤血球Cheの低下が見られ、NOAELは1ppmと考えられた2)。雌雄F344ラットおよびB6C3F1マウス各群50匹（対照群は25匹）に0、10、20ppmのクマホス含有餌を103週間混餌投与した結果、すべての種および投与群で毒性所見は見られず、腫瘍の増加も見られなかった3)。2世代生殖試験として雌雄SDラット各群30匹に0、1、5、25ppmのクマホス含有餌を交配前、妊娠期、授乳期にわたる91日間投与した結果、妊娠前と授乳終了時ににおける同程度の血清および赤血球Che活性の低下が雌5, 25 ppm投与群で見られた。F1世代でもほぼ同様の結果であったが、その子供世代では低下は減少しており、生殖への影響も見られなかった4)。以上より、動物実験結果から赤血球Cheの低下を臨界影響としたNOAELを0.07 mg/kg/dayと判断し、不確実係数等を考慮した0.05 mg/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。	経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある（皮膚吸収性有害物質）。	Jones, R.; Elcock, L.; Dass, P.; et al. (1993) Chronic Feeding Toxicity Study of Technical Grade Coumaphos in Beagle Dogs: Lab Project Number: 91-276-JP: 74459. Unpublished study prepared by Miles, Inc. 1487 p. cited in U.S. Environmental Protection Agency: Re-registration: Eligibility Decision: Coumaphos List A Case 0018. EPA 738-R-96-014. U.S. EPA, Office of Pesticide Programs, Special Review and Re-registration Division, Washington, DC (1996). Eiben, R. (1988) Coumaphos: Studies on Chronic Toxicity and Carcinogenicity in Wistar Rats: Administration with Feed for 24 Months: Report No. 17131: Study No. T2020064. Unpublished Mobay study 73797 prepared by Bayer AG Institute of Toxicology, 2252 p. cited in U.S. Environmental Protection Agency: Re-registration: Eligibility Decision: Coumaphos List A Case 0018. EPA 738-R-96-014. U.S. EPA, Office of Pesticide Programs, Special Review and Re-registration Division, Washington, DC (1996). National Cancer Institute (1979): Bioassay of Coumaphos for Possible Carcinogenicity. Washington, D.C.: United States Department of Health, Education and Welfare, Public Health Service. (NCI Carcinogenesis technical report series no.96; DHEW publication no. (NIH) 79-1346) Astroff AB, Freshwater KJ, Eigenberg DA. Comparative organophosphate-induced effects observed in adult and neonatal Sprague-Dawley rats during the conduct of multigeneration toxicity studies. Reprod Toxicol. 1998 Nov-Dec;12(6):619-45.	01 02 03 04	赤血球Cheの低下	ラット									
ストリキニネ	57-24-9	0.15mg/m ³	-	ストリキニネは脊髄における抑制性神経伝達に関与するクリシン受容体の選択性のアンタゴニストであることから、脊髄反射の興奮性が亢進し、わずかな知覚刺激による反射性筋収縮から全身痙攣へと拡大する1)。60日齢の雌雄SDラット各群12匹にストリキニネを雌に0、2.5、雄に0、5、10mg/kg bw/dayを28日間経口投与した結果、各投与の10-20分後には筋緊張の増加わずかに震えが生じたが、1時間以内には徐々に回復した。2.5mg /kg bw/day投与群の雌ラットのうち1匹が投与19日目で、5mg/kg bw/day投与の雌ラットのうち1匹が投与5日目で、10mg/kg bw/day投与の雄ラットのうち5匹がそれぞれ投与3, 8, 10, 21, 27日で死亡した。ラットの死亡は経口投与後30分から6時間の間に見られ、筋緊張性収縮や呼吸麻痺といった急性ストリキニネ中毒の症状を呈しており、解剖の結果からは肺水腫とアノーゼが認められた。生存したラットには、体重増加についても対照群と投与群に差はなく、摂餌量、飲水量も変わらなかった。血算、血液生化学的検査項目についても対照群と投与群に差はなく、尿検査や眼科学的検査でも陰性だった。28日投与後でも行動学的にローテート試験による協調運動についても正常だった。各投与直後と28日間投与後の心電図所見も変化がなかった。臓器重量や組織学的検査でも変化はなかった1)。以上より、動物試験の結果から、筋緊張性収縮を臨界影響としたLOAELを2.5mg/kg bw/dayと判断し、不確実係数を考慮した0.15 mg/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。	筋緊張性収縮	ラット	01	Seidl Ivan and Gerhard Zbinden. (1982) Subchronic oral toxicity of strychnine in rats. Arch Toxicol. 51(3):267-271.										
1,2,3,4,5,6-ヘキサクロロシクロヘキサン（別名：リンデン）	58-89-9	0.2mg/m ³	-	雌雄ビーグル犬各群4匹にリンデンを0, 25, 50, 100 ppmの用量で104週間混餌投与を行ったところ、100ppm投与群の1匹が痙攣発症後に死亡した。50 ppm以上投与群では投与開始後1カ月から血小板数の増加、100 ppm投与群では投与開始後6カ月からカリオストッカーの上昇が認められた。全ての投与群で脾臓の絶対重量及び相対重量が増加した。病理組織学的变化は副腎（細胞質の空胞化の増加）と下垂体（前葉における嗜酸性細胞の増加）において、50 ppm投与群で認められていることより、NOAELは雌雄とも25 ppm (0.83 mg/kg bw/d) といている1)。雌雄Wistarラット各群50匹にリンデンを0, 1, 10, 100, 400 ppmの用量で1年間混餌投与したところ、100 ppm投与群の雌で脾臓および肝臓の絶対/相対重量の増加、小葉中心性肝細胞肥大が認められた。また400 ppm投与群では体重増加抑制（雄）、赤血球数・ヘモグロビン・ヘマトクリット値の低下（雌雄）、血中無機リんおよびカルシウム濃度の増加（雌雄）、総コレステロール値および尿素窒素値の増加（雄）、アルブミン/グロブリン比の減少（雌）、痙攣の出現（雌）、死亡率の増加（雌）が認められた。10 ppm以下の投与群では毒性所見が認められなかったことから、NOAELは10 ppm（雄；0.47 mg/kg/day, 雌；0.59 mg/kg bw/d）としている2)。以上より、動物試験の結果から、ラットにおける肝毒性（肝細胞の肥大）、血液毒性（貧血）、神経毒性（痙攣）を臨界影響とした10 ppm（雄；0.47 mg/kg bw/d）をNOAELとして、不確実係数等を考慮した0.2 mg/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。	GHS発がん性区分 1 Aであるが、遺伝毒性があるとの知見が十分ではないことから、閾値のある有害性として評価した。なお、近年生殖毒性・発生毒性の知見があることから、今後早期に確認・検討が必要である。 25°Cの飽和蒸気圧における濃度換算0.147 mg/m ³ と濃度基準値0.2 mg/m ³ との比が0.74であることから、粒子と蒸気の両方を捕集できる捕集方法が必要である。	Rivett, K.F., Sortwell, R.J., Spicer, E.J.F., Cheshire, P.J., Street, A.E. & Burrows, I.E. (1971) Lindane toxicity studies in beagle dogs (initial studies in dietary intake for 104 weeks). Unpublished report No. 4187/71/345. Cited in Lindane, Pesticide residues in food - 2002: toxicological evaluations. 2002:117-164. Amyes, S.J. (1990) Lindane: Combined oncogenicity and toxicity study by dietary administration to Wistar rats for 104 weeks. Unpublished report No. 90/CL002/0839. Cited in Lindane, Pesticide residues in food - 2002: toxicological evaluations. 2002:117-164.	01 02	肝毒性（肝細胞の肥大）、血液毒性（貧血）、神経毒性（痙攣）	ラット									

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果							捕集法/分析法				
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価	備考
メチルヒドラジン	60-34-4	0.01ppm	-	F344の雌雄ラットに0、0.02、0.2、2.5ppm（各群100匹、対照群のみ150匹）、C57BL/6J雌マウスに0、0.02、0.2、2ppm（各群400匹）、雄マムスターに0、0.2、2.5ppm（各群200匹）。雌雄ピーカル犬に0、0.2、2ppm（各群4匹）のメチルヒドラジンを6時間/日、5日/週で1年間吸入ばく露し、その後1年間ばく露なしで観察した。ラットでは、0.02ppm以上でばく露後を通じて持続する成長率の低下がみられたが、ばく露に関連した腫瘍の増加ばかり用量でもみられなかった。マウスでは、0.02ppm以上で、鼻の炎症・形質細胞症がみられ、0.2ppmで腎炎が、2ppmで水腎症がみられた。さらに肺腫瘍、鼻腺腫、鼻骨腫、血管腫、および肝腺腫と肝臓癌の発生率が2ppmでは対照群に比べ有意に高かった。マムスターでは、0.2ppm以上で鼻炎・胆囊囊胞数の增加が観察され、また5ppmで鼻ポリープ、腎臓の間質腫瘍化、および良性副腎腫瘍の増加が認められた。5ppmでは、体重の減少、鼻腺腫の発生率が増加した。イスでは、0.2ppm以上で一過性的貧血、ヘマクリットの減少、およびモグロビンの減少が認められ、2ppmではメヘモグロビン、アルカホスファターゼ、ピリビン、および血清GPTが可逆的に増加し、肝障害が示唆された1)。 以上のことより、動物実験の結果から0.02ppmをLOAELと判断し、不確実係数等を考慮した0.01ppmを濃度基準（時間加重平均）として提案する。	貧血、肝障害、腎障害	ラット	01	Kinkead, E.R.; Haun, C.C.; Verner, E.H.; et al.: A Chronic Inhalation Toxicity Study on Monomethylhydrazine. AFAMRL-TR-85-025. Air Force Aerospace Medical Research Laboratory, WrightPatterson Air Force Base, OH (1985)		ろ過（反応）-液体クロマトグラ法	硫酸含浸フィルタ-硫酸含浸捕集管1.0LPM	1.0 M 酢酸緩衝液5 mL+誘導体化試薬 0.2 M 5-Nitro-2-furaldehyde溶液10 µL	HPLC/可視	P	共存するアルdehyドやケトンとの反応によりメチルヒドラジンを過小評価するDNPHカラムでアルdehyドやケトを除去しながら捕集すれば、捕集後の損失を小さくすることができる誘導体化を用いるので、技術的に難しい	
ヒ酸	64-18-6	5ppm	-	雌雄F344/Nラット各群5匹及び雌雄B6C3F1マウス各群5匹に、0、31、62.5、125、250、500 ppmのぎ酸を6時間/日、週5日間、12日間で吸入ばく露をした結果、雌雄ラットの62.5ppm以上のばく露群で呼吸上皮の扁平上皮化生、125ppm以上のばく露群で炎症、250ppm以上のばく露群で壞死、雌マウスの62.5 ppm以上のばく露群で呼吸上皮の扁平上皮化生の病理学的所見がみられた1)。 雌雄F344/Nラット各群10匹に及び雌雄B6C3F1マウス各群10匹に、0、8、16、32、64、128 ppmのぎ酸を6時間/日、週5日間、13週間で吸入ばく露をした結果、ラットの128ppmばく露群で喉上皮軽度変性がみられたが、壞死は観察されず、肺病変はみられなかった。マウスでは64ppmばく露群で、喉上皮の変性が数匹でみられた。肺の絶対重量（雌ラットの64 ppm以上のばく露群において減少したが、その他の全身毒性はみられない） 濃度基準値を設定できるヒトでの報告はない。なお、げっ歯類はヒトよりも辛酸を二酸化炭素（CO ₂ ）に速く代謝するため、ヒトは辛酸に対してより敏感である可能性がある2)。 以上より、動物実験の結果から、喉上皮の変性を臨界影響とした32ppmをNOAELと判断し、不確実係数等を考慮した5ppmを八時間濃度基準として提案する。	喉上皮の変性	ラット	01 02	Thompson M. NTP technical report on the toxicity studies of Formic Acid (CAS No. 64-18-6) Administered by Inhalation to F344/N Rats and B6C3F1 Mice. Toxic Rep Ser. 1992 Jul;19:1-D3. Registration, Evaluation, Authorization & Restriction of Chemicals (REACH). Formic acid: Substance identity.2022		(ろ過+固体) 捕集-イオンクロマトグラフ分析方法 0.05~0.2 L/min 5~480 min	PTFE メンブランフィルター(孔径 5 µm)と、活性シリカゲル捕集管(400 mg/200 mg) 脱着溶媒：イオン交換水 5~480 min	イオンクロマトグラフ-電気伝導度検出器 (IC)	○	・活性シリカゲル捕集管の他に、洗浄済みシリカゲル捕集管も使用可能である（シリカゲルに不純物が見られなくなるまで洗浄を繰り返す必要がある）。		
ノルマル-プロピルアルコール	71-23-8	300ppm	-	雄Wistarラット各群6匹に0、1M(7.5%)のn-プロパノールを4か月間飲水投与した結果、1M群の摂取量や体重、肝臓の組織に影響はみられなかった。なお、ラットの飲水量を20mL/day、体重を400gと仮定すれば、1M群の摂取量は3,000 mg/kg/dayとなる1-4)。 雄Wistarラット各群30匹に、0、32%n-プロパノールを13週間飲水投与した結果、32%投与群では体重増加抑制を示した。肝細胞を観察したところ、32%投与群ではミトコンドリアの形態異常、ナトリウム酸化酵素及びミオシン酸化酵素の比活性の減少などみられた。なお、飲水量を20mL/day、体重を400gと仮定すれば、32%投与群は12,800 mg/kg/dayの用量となる5)。 以上より、動物実験の結果から、影響が見られない3,000 mg/kg/dayをNOAELと判断し、不確実係数等を考慮した300ppm (750mg/m ³) を八時間濃度基準として提案する。	-	ラット	01 02 03 04 05	Hillbom ME, Fransila K, Forsander OA. Effects of chronic ingestion of some lower aliphatic alcohols in rats. Res Commun Chem Pathol Pharmacol. 1974 Sep;9(1):177-80. IPCS (1990): Environmental Health Criteria. 102. 1-Propanol. 環境省 環境リスク初期評価書6巻 食品安全委員会 プロパノールを添加物として定めることによる食品健康影響評価に関する審議結果 Wakabayashi T, Horiuchi M, Sakaguchi M, Onda H, Iijima M. Induction of megamitochondria in the rat liver by N-propyl alcohol and N-butyl alcohol. Acta Pathol Jpn. 1984 May;34(3):471-80.	固体捕集-ガスクロマトグラ法分析方法 Anasorb747 0.05 L/min 240 min	N,N-ジメチルホルムアミド/ニ硫化炭素 (60/40) 2 mL	GC/FID	○				
1-ペントノール	71-41-0	100ppm	-	雄ASH/CSEラット各群15匹に0、50、150、1,000 mg/kg bw/dの1-ペントノールを週7日、13週間強制経口投与した結果、全ての群において体重増加、摂食量、摂水量、血液学的検査、血液生化学的検査、尿検査、腎機能、臓器重量及び病理組織学的検査等における毒性学的意義のある異常は認められなかった1)。 以上より、動物実験の結果から最高用量で毒性影響が見られなかったことよりNOAELを1,000 mg/kg bw/dと判断し、不確実係数等を考慮した100ppmを八時間濃度基準として提案する。	-	-	01	Butterworth KR, Gaunt IF, Heading CE, Grasso P, Gangolli SD. Short-term toxicity of n-amyl alcohol in rats. Food Cosmet Toxicol. 1978 Jun;16(3):203-7.	固体捕集-ガスクロマトグラ法分析方法 球状活性炭 0.2 L/min 240 min	二硫化炭素 5 mL	GC/FID	○	・捕集後できるだけ速やかに測定すること。			

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果					捕集法/分析法								
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健 康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価	備考		
クロメタン(別名: 塩化メチル)	74-87-3	10ppm	-	<p>高濃度ばく露（おそらく500 ppm以上のばく露と考えられる）では中枢神経系の抑制作用が生じ、嗜睡、判断力・視覚低下、歩行・平衡失調、言語障害などが起こり、さらに酩酊状態を経て痙攣、運動失調を惹起して死亡する（かかる1）。</p> <p>メチルクロロイド(クロロメタン)の吸入ばく露（25~10,000ppm）による8症例をピュアした結果、動物実験で見られたような呼吸器症状や発死の死亡事例は認められなかた。視野のぼやけや頭痛、協調運動障害などの症例で自顯者である。特に頭痛は1週間から10日程度間欠的に持続した。特徴的なのは、8人中6人で可逆的な性格の変化が見られ、1人には抑うつ症状が、1人に多幸福感がみられた（2）。</p> <p>雄性F344ラット各群12匹に0, 50, 225, 1,000ppmのクロロメタを6時間/日、5日/週、2年間全身吸入ばく露し、6, 12, 18, 24ヶ月目に絶対/相対精葉重量が対照群より減輕した。また、眼膜、組織学的所見より、精葉精細管の変性や萎縮がばく露6ヶ月目から認められ、18ヶ月の時点では匹数や程度が増加した。その他の不腫瘍性所見および腫瘍性所見は見られなかた（3）。</p> <p>雄性のB6C3F1マウス各群12匹に0, 50, 225, 1,000ppmのクロロメタを6時間/日、5日/週、2年間全身吸入ばく露した結果、1,000ppmばく露群において、神経機能学的障害（クラッチャ反応の喪失）が、雄ではばく露18および21ヶ月、雌ではばく露22ヶ月に対照群より有意認められた。これは、1,000ppmばく露群の組織病理学的検査（小脳の顆粒細胞層のニーロン数の減少及び顆粒細胞層の幅の減少）によて裏付けられ、50, 225ppmばく露群では観察されなかた。ばく露に関連する非腫瘍性所見として、肝病変（小葉中心性変性、巨大核、大型細胞）、腎皮質尿細管囊胞、腎乳頭管上皮過形成、精葉精細管変性および萎縮、腎臓萎縮、腎臓および胸腺のリバ球減少が雄の1,000ppmばく露群でみられた（3）。</p> <p>各群12匹の雄のC57BL/6マウスに5、50、100、150、200ppmのクロロメタンを連続的(22時間/日)または150、400、800、1,600、2,400ppmで断続的(5.5時間/日)に、それぞれ11日間吸入ばく露した結果、小脳の顆粒層の変性が認められ、50, 225ppmばく露群では100ppm以上群で、断続的(5.5時間/日)では400ppm以上で、それそれ観察された。これらの濃度では、ロードテストにて障害はなかった。NOAECは150ppmであった（4）。</p> <p>雄性Fischer-344ラット（各群雄4匹、雌80匹）に0, 150, 475, 1,500 ppmのクロロメタを6時間/日、5日/週、吸入ばく露による二世代生殖毒性試験を実施した結果、雌雄、500ppmばく露群でばく露10週間後の10~20%の体重増加抑制があり、475 ppmばく露群では57日目に以降に7%の体重増加抑制があった。10週間後にはばく露スケジュールを6時間/日、7日/週に変更し、各雄2匹の雌雄を交配させた。交配期間は2週間後に終了し、その時点では雄10匹/群を剖検した。ばく露に関連した唯一の病変は、1,500ppmばく露群の直腸の重度の精葉変性(10/10)と精葉上体の肉芽腫(3/10)であった。その後、1群あたり約30匹の雄をばく露から外し、2週間の間に60匹の未ばく露群と交配させた。ばく露された雌は交配開始から生後2日目までばく露を続けた(6時間/日、7日/週)。雌は妊娠18日目から出生後4日目までばく露されず、児は離乳前に直接ばく露されることなかった。交尾した雄の数にはばく露群と非ばく露群の間に有意差はなかった。1,500ppmばく露群では对照群と比較して産児数に有意差はなかった。475ppmばく露群では对照群よりも産児数が少なかった。475ppmばく露群、150ppmばく露群、对照P0群の間で、産児率、性比、児の成長に差は見られなかった。ばく露中止から10週間後に繁殖させたところ、1,500ppmばく露群のP0雄の5~20匹が正常な産児能力を回復していた。475ppmばく露群のP0雄は对照のP0雄(13/20)と同数(15/20)が繁殖可能であった。離乳後、0, 150, 475ppmばく露群のF1児を同じ濃度のクロロメタンに10週間ばく露し、交配を行った結果、475 ppmばく露群のF1群では受胎率が低下する傾向が見られた（5）。</p> <p>以上より、動物実験の結果から、神経毒性及び生殖毒性を臨界影響としたNOAELを150ppmと判断し、不確実係数等を考慮した10 ppmを八時間濃度基準値として提案する。</p>							01	後藤潤他(編):産業中毒便覧(増補版) 569-570, 医歯薬出版, 東京(1981)						
								02	MACDONALD JD. METHYL CHLORIDE INTOXICATION. REPORT OF 8 CASES. J Occup Med. 1964 Feb;6:81-4.									
								03	CIIT. 1981. Final report on a chronic inhalation toxicology study in rats and mice exposed to methyl chloride. Battelle-Columbus Laboratories. Submitted to the U.S. Environmental Protection Agency under section 4. 40-8120717. OTS0511310									
								04	Landry TD, Quast RJ, Gushow TS, Mattsson JL. Neurotoxicity of methyl chloride in continuously versus intermittently exposed female C57BL/6 mice. Fundam Appl Toxicol. 1985 Feb;5(1):87-98.									
								05	Hamm TE Jr, Raynor TH, Phelps MC, Auman CD, Adams WT, Proctor JE, Wolkowski-Tyl R. Reproduction in Fischer-344 rats exposed to methyl chloride by inhalation for two generations. Fundam Appl Toxicol. 1985 Jun;5(3):568-77.									
メチルメルカプタン	74-93-1	0.5 ppm	-	<p>雄性SDラット各群31匹にメチルメルカプタン0, 2, 17および57ppm（各群31匹づつ）で、を1日7時間、週5日、で3ヶ月間の吸入ばく露を行ったところの結果、死亡は観察されなかつた。曝露中すべての濃度でラットは～6匹で固まってチャバーの周辺に集まり、鼻をチャバーの外側の方向に向ける傾向が認められた。57ppmばく露群では全身影響として3か月後に出現する体重の有意な体重增加抑制（15%）が減少が認められた。他にも、肝での結節性過形成や肺の像や気腫性変化等が観察されたが、これらの機器所見が対照群でも認められていることや反応関係が見られないことを理由に、著らはれらはメチルメルカプタンばく露とはの関連性があるとは言えないないと判断し、NOELを17ppmとしている。</p> <p>以上より、動物実験の結果から全身影響（体重增加抑制減少）を臨界影響とした場合のNOAELを17ppmと判断し、不確実係数を考慮した0.5ppmを八時間濃度基準値として提案する。</p>					01	Tansy MF, Kendall FM, Fantasia J, Landin WE, Oberly R, Sherman W. Acute and subchronic toxicity studies of rats exposed to vapors of methyl mercaptan and other reduced-sulfur compounds. J Toxicol Environ Health. 1981 Jul-Aug;8(1-2):71-88.								
プロパン	74-98-6	1,000ppm	-	<p>男女4人のボランティアに、プロパン濃度77, 102, 107 ppm (141, 187, 196 mg/m³)であるイソブタン/プロパンの混合物を1回または2時間（男女各1人）、また同じトトボランティアにプロパン濃度100, 962, 1,030 ppm (183, 1,760, 1,885 mg/m³)であるイソブタン/プロパンの混合物を1回8時間（男女各2人）、それぞれ2日間吸入ばく露した結果、ばく露に関連する臨床症状は検出されず、心電図(ECG)への影響、脳波への影響、または肺機能障害も観察されなかた。検査されたすべての血液学的パラメータは正常範囲内だった。</p> <p>以上より、ヒトの知見から、1,030 ppmをNOAELと判断し、1,000 ppmを八時間濃度基準値として提案する。</p>					01	Stewart RD, Herrmann AA, Baretta ED, Forster HV, Sikora JJ, Newton PE, Soto RJ. Acute and repetitive human exposure to isobutane. Scand J Work Environ Health. 1977 Dec;3(4):234-43.								

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果						捕集法/分析法						
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価	備考	
エタンチオール	75-08-1	0.5ppm	-	3名のボランティアを対象として、エタンチオール10 mg/m ³ (4 ppm) を1日3時間、5日間(2名)または10日間(1名) ばく露した研究において、嗅覚閾値の上昇、疲労感、周期的な吐き気、口唇粘膜の刺激、頭重感の不快感がみられた。1ヶ月後に1 mg/m ³ (0.5 ppm)のばく露で同じ対象者に同一の試験を実施した結果、上述の症状はみられなかつた1)。 ウサギ、ラット(雌雄・系統・頭数不明)にエタンチオール100 mg/m ³ (約40 ppm) を5ヶ月間吸入ばく露した試験で、ウサギでは心血管系の調節不全を、ラットでは酸化還元プロセスの変化を引き起こした1)。 上記から、ヒボランティアのばく露研究での結果より、疲労感、吐き気、口唇粘膜の刺激、頭重感を臨界影響とした0.5 ppmをNOAELと判断し、八時間濃度基準値として0.5 ppmを提案する。	疲労感、吐き気、口唇粘膜の刺激、頭重感	ヒト	01	Blinova EA: Industrial standards for substances emitting strong odors. Gig Sanit 30(1):18-22(1965).									
ホルムアミド	75-12-7	5ppm	-	雌雄のF344Nラットに、20, 40, 80mg/kg (各群雌雄それぞれ50匹ずつ) のホルムアミドを週5日、104-105週間にわたり飲水投与した結果、雌80mg/kg群の平均体重は試験期間中ほとんど変動なく維持された。雄40mg/kgおよび80mg/kg群の平均体重は2週目で対照群と比べて減少していた。雄40mg/kg群での骨髄形成の発生率が有意に増加した。ホルムアミドのばく露に起因する新生物は認められなかつた1)。 一方、雌雄のB6C3F1マウスに、20, 40, 80mg/kg (各群雌雄それぞれ50匹ずつ) のホルムアミドを週5日、104-105週間にわたり飲水投与した結果、80mg/kg群で雄80mg/kg群の平均体重は2週目で対照群と比べて減少していた。また、雄80mg/kg群での骨髄形成の発生率が有意に増加した。肝血管肉腫の発生率は雌で正の傾向を示し、40および80 mg/kg群で有意に増加した1)。 以上より、動物実験の結果から、肝血管肉腫を臨界影響とした場合NOAEL= 20 mg/kgから不確実係数等を考慮して10 mg/m ³ ±5 ppmの八時間濃度基準値を提案する。	肝血管肉腫	マウス	01	National Toxicology Program. Toxicology and carcinogenesis studies of formamide (Cas No. 75-12-7) in F344/N rats and B6C3F1 mice (gavage studies). Natl Toxicol Program Tech Rep Ser. 2008 Jul;(S41):1-192.		固体捕集-ガスクロマトグラフ分析方法	活性炭管	ジクロロメタン /メタノール 10 mL	GC/FID	○	IFV評価値: 253 ・ミストが発生する場合はろ過捕集を追加する		
硫化ジメチル	75-18-3	10ppm	-	雌雄SDラット各群5匹に硫化ジメチルを0-48,000ppmの濃度で4時間ばく露した結果、14日間観察した。死/致死数はそれれ0/10 - 9/10でありC50は40,250ppmであった。SDラットに硫化ジメチルを24,000 ppmに達するまでばく露した場合、動物における急性の致死は見られなかつた1)。 雌雄Wistar (SPF)ラット各群15匹に硫化ジメチルを0、2.5, 25, 250mg/kg/日で、4週間(7日/週)強制経口投与した結果、休重、臓器重量、血液検査、組織学検査(腎臓、肝臓、肺)について、全投与量で標的毒性所見は示されなかつた2)。 以上より、動物実験の結果から NOAELを250 mg/kg/日(約1,000 ppm吸入相当量)と判断し、不確実係数等を考慮した10ppmを八時間濃度基準値として提案する。なお、短時間ばく露基準値は、適切な文献が認められないことから設定できなかつた。	-	-	01	Tansy MF, Kendall FM, Fantasia J, Landin WE, Oberly R, Sherman W. Acute and subchronic toxicity studies of rats exposed to vapors of methyl mercaptan and other reduced-sulfur compounds. J Toxicol Environ Health. 1981 Jul-Aug;8(1-2):71-88.									
トリクロロフルオロメタン(別名:CFC-11)	75-69-4	-	1,000ppm	CFC-11を大量に放出させ高濃度ばく露(濃度不明)を受けた作業員には麻酔作用が認められたことが報告されている。意識障害が出現した症例、内因性アドレナリン効果の増強と頻脈が認められた症例等が報告されている1)。 CFC-11吸入による致死中毒症例では、心臓、肺、脳、肝臓、血液、腎臓、脾臓でCFC-11が検出され、心臓での濃度が最も高かった。死因としては、心筋のデコルチシン感受性の増強によってした不整脈及び心停止、または閉鎖環境でCFC-11が飽和し、低酸素血症から窒息したことなどが考えられている2)。 ヒトボラティヤ(250, 500, 1,000 ppm)のCFC-11を1分間から8時間単回ばく露したが、臨床血液学、化膿、心電図、脳波、肺機能、神経学的パラメータ、認知テストを含む観察可能な影響は認められなかつた。また、1,000ppmのCFC-11に2-4週間、8時間/日、5日/週ばく露した被験者は、認知テストのスコアが有意に低下したが、著者らはこれをCFC-11ばく露の影響とは見なしていない3)。 以上の結果から、長期ばく露による影響の知見に乏しく、またヒトの急性中毒事例がみられていることよりトボランティアのばく露試験の結果から、八時間濃度基準値は設定せず、1,000ppmを短時間濃度基準値として提案する。	-	-	01	Thomas G. Narcotic effects of acute exposure to trichlorofluoromethane (Freon 11). Trans Assoc Ind Med Off. 1965 Jul;15(3):105-6.		固体捕集-ガスクロマトグラフ分析方法	ヤシ殻活性炭管 0.01~0.05 L/min 6~700 min	二硫化炭素 5 mL	GC/FID	○			
2-メチル-2-ブタノール	75-85-4	10ppm	-	雌雄CD-1マウス各群10匹、雌雄Fischerラット各群10匹、雄ビーグル犬各群1匹に0, 50, 225, 1,000 ppmの2-メチル-2-ブタノール(純度97.5%)を6時間/日、週5日、13週間(87日間)ばく露した結果、1,000ppmにばく露したマウスラットでは中枢神経抑制に起因する可逆的な運動障害が観察された。225 ppmにばく露群の雌ラットでは、ばく露3日目から激しい流涙が、1,000ppmにばく露群の雄ラットで肝臓の絶対重量及び相対重量の増加、雄ビーグル犬では、体重の増加、血液および尿の生化学的検査、臓器の病理組織学的検査について、全ての濃度でばく露に関連した影響は認められなかつた1)。 以上より、動物実験の結果から、ラットにおける眼刺激性(流涙)を臨界影響とした50ppmをNOAELと判断し、不確実係数等を考慮した10ppmを八時間濃度基準値として提案する。	眼刺激性(流涙)	ラット	01	Dow Chemical (1992) Initial submission: tertiary amyl alcohol: subchronic toxicity and pharmacokinetics in CD-1 mice, Fischer 344 rats and male Beagle dogs with cover letter dated 043092. OTS0539279, New Doc ID 920002262, NTIS, Springfield, VA, USA.		固体捕集-ガスクロマトグラフ分析方法	球状活性炭管 0.2 L/min 240 min	二硫化炭素 5 mL	GC/FID	○	・捕集後できるだけ速やかに測定すること。		
2,2-ジクロロプロピオン酸(別名:ダラポン)	75-99-0	5mg/m ³	-	雌雄のモンゴル犬(各群雄2匹、雌1匹)に2,2-ジクロロプロピオン酸ナトリウム(CAS 127-20-8)を65%含む製剤を0.5、15、50、100mg/kg bw/dayの用量で週5日、52週間投与し、腎重量の増加と対照群との比較を行った。雌雄アルビビラット(各群雄24、雌20匹)に2,2-ジクロロプロピオン酸ナトリウムを65%含む製剤を0.01、0.03、0.1%含有餌(0.5、15、50 mg/kg bw/day)、雌は高用量群投与とし、104週間混餌投与した結果、雄0.1%投与群の腎重量が対照群よりも増加していた。なお腎臓を含め、病理組織検査では異常がみられなかつた。雌雄アルビビラット(各群雄24、雌20匹)に2,2-ジクロロプロピオン酸ナトリウムを65%含む製剤を0.03、0.1、0.3% (0.5、15、50, 150mg/kg bw/day)含有餌を混餌投与した時、受精率や着床率などは対照群と差がない軽度変化などにも影響は見られなかつた1)。 妊娠6-15日のラットに、0, 500, 1,000, 1,500mg/kg bw/dayの2,2-ジクロロプロピオン酸を強制経口投与した結果、1,000, 1,500mg/kg bw/day群の児の体重は低下したが、投与に関連する骨格および内臓の形態学的な異常は見られなかつた2)。 以上より、動物実験の結果から、腎重量の増加を臨界影響としたNOAELを15 mg/kg bw/dayと判断し、不確実係数等を考慮した5mg/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。	腎重量の増加	ラット	01	Paynter OE, McCollister DD. Toxicology of Dalapon Sodium (2,2-Dichloropropionic Acid, Sodium Salt). Herbicide Toxicol: 8(1); 47-51. 1960.									
							02	Kenaga, E.E.: Toxicological and Residue Data Useful in the Environmental Safety Evaluation of Dalapon. Residue Rev. 53:109-151 (1974).									

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値		文献調査結果						捕集法/分析法					
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価
ベンタクロロエタン	76-01-7	2ppm	-	B6C3F1マウス雄雌各群50匹に0、250、500 mg/kg bw/dayの濃度のベンタクロロエタンを2時間強制経口投与した結果、雌雄とも肝細胞がんの濃度依存的な増加がみられた。しかし、被験物質がマウスの肝発がん性が知られているハサクロロエタンを4.2%含んでいたこと、B6C3F1マウスは肝細胞がんの自然発生率が高い系統であると、および、in vivoでの遺伝毒性が認められないこと1)から、本試験で認められた肝細胞がんは、高濃度での肝発がんが促進の可能性は否定できないものの、ベンタクロロエタンを週5日強制経口投与した13週間の毒性試験では、125mg/kg体重/日で体重増加が8%減少したことから1)、NOAELは50mg/kg bw/とした。	以上より、動物試験の結果から、体重増加抑制を鑑別影響としたNOAELを50mg/kg bw/dと判断し、不確実係数を考慮した2 ppmを八時間濃度基準値として提案する。	体重増加抑制	ラット	01	National Toxicology Program. Carcinogenesis Studies of Pentachloroethane (CAS No. 76-01-7) in F344/N Rats and B6C3F1 Mice (Gavage Study). Natl Toxicol Program Tech Rep Ser. 1983 Apr;232:1-149.	固体捕集-ガスクロマトグラフ分析方法	Porapak R 0.01~0.2 L/min 5~50 min	ヘキサン 2 mL	GC/ECD	○	・保存安定性の試験が低濃度で実施されているが、安定に保存できると推測できる。
水酸化トリフェニルズ	76-87-9							01	Duchosal, F., P. Thevenaz, H. Luetkemeier, O. Vogel, G. Papritz, P. Mladenovic and C. Terrier (1989): Fentin hydroxide (TPTH) technical grade. Subchronic (90-days) repeated dose inhalation toxicity study in rats. Research and Consulting Company AG (Unpublished). Cited in: IPCS (1999): Concise international chemical assessment document. No.13. Triphenyltin compounds.						
フッヒトリフェニルズ	379-52-2			雌雄Wistarラット各群10匹を用いて、水酸化トリフェニルズ(TPTH)を0.014、0.338、1.997 mg/m ³ の濃度で13週間(6時間/日、5日/週)吸入ばく露(鼻)した結果、1.997mg/m ³ ではすべての群および例の群の致死が認められた。また、両性において前鼻部粘膜、気管および肺の変性および炎症性変化を認めた。また0.338 mg TPTH/m ³ (0.11 mg Sn/m ³)で白血球数の低下等の血液学的およびIgM上昇等の生物学的変化が認められた1)。			02	Bouldin TW, Goines ND, Bagnell RC, Krigman MR. Pathogenesis of trimethyltin neuronal toxicity. Ultrastructural and cytochemical observations. Am J Pathol. 1981 Sep;104(3):237-49.							
塩化トリフェニルズ	639-58-7	スズとして0.003mg/m ³	-	新生児Long-Evans雌雄ラット(匹数不明)に酢酸トリフェニルズ30mg/kg bw/日を生後2~30日に強制経口投与した実験では、識別可能な神経学的異常は認められなかった2)3)。	短時間ばく露の評価に資する吸入ばく露による知見は濃度との関連が不明であることから、短時間濃度基準値は設定しない。なお、近年生殖毒性・発生毒性の知見があることから、今後早期に確認・検討が必要である。	血清学的変化(白血球数減少、IgM上昇)	ラット	03	Boyer JI. Toxicity of dibutyltin, tributyltin and other organotin compounds to humans and to experimental animals. Toxicology. 1989 May 15;55(3):253-98.						
酢酸トリフェニルズ	900-95-8			ラット及びマウスの混餌の水酸化トリフェニルズ37.5, 75 ppm)による73週間経口暴露試験で、姦娠性の傾向はなく、その他の毒性徴候も認められなかった4)。	ヒトの症例報告して、トリフェニルズを含有した農薬を空中散布したバロットの肝腫瘍、またトリフェニルズ20%を含む製品の樹脂作業者の皮膚および眼と鼻の粘膜刺激5)、フルオトリフェニルズを含む塗料を製造または使用していた作業者で、刺激性的接触皮膚炎、毛囊炎が報じられている6)。いずれもばく露濃度は不明である。			04	U.S. National Cancer Institute: Bioassay of Triphenyltin Hydroxide for Possible Carcinogenicity. Carcinogenesis Technical Report Series No. 139. DHEW (NIH) Pub. No. 78-1394, NCI, Bethesda, MD(1978).	ろ過捕集-高速液体クロマトグラフ分析方法及びICP/発光分光分析装置(HPLC-UV/ICP-AES)	PVC フィルター(φ37 mm, ポアサイズ 5 μ m) 1~4 L/min 25 min~2000 min	脱着溶媒:トロボロン、水、メタノール混合溶液	高速液体クロマトグラフ分析方法及びICP/発光分光分析装置(HPLC-UV/ICP-AES)	○	
				以上より、動物実験では鼻部以外の暴露は高濃度ばく露によるものであり、トリフェニルズ化合物のNOAELを0.014 TPTH mg/m ³ と判断し、不確実係数を考慮した濃度基準0.003 mg Sn/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。			05	U.S. National Institute for Occupational Safety and Health, Criteria for a Recommended Standard-Occupational Exposure to Organotin Compounds. DHEW (NIOSH) Pub. No. 77-115 (1976)							
							06	Andersen KE, Petri M. Occupational irritant contact folliculitis associated with triphenyl tin fluoride (TPTF) exposure. Contact Dermatitis. 1982 May;8(3):173-7.							
							参考	Snoeij NJ, Penninks AH, Seinen W. Biological activity of organotin compounds-an overview. Environ Res. 1987 Dec;44(2):335-53.							
ヘキサクロロシクロペンタジエン	77-47-4	0.005ppm	-	ウサギ3-6匹、ラット4匹、モルモット2匹、マウス5匹(いずれも雌雄・系統不明)に0.15-78ppmのヘキサクロロシクロペンタジエン蒸気を31条件の単回および反復吸入ばく露する試験が実施された。急性ばく露試験では、46.5ppmにばく露したすべての動物種でばく露後1-2分で流涙、流涎、あえぎ、および喘息が引き起され、1.24ppmでは数分で、1.0ppmでは数時間で同様の所見を認めた。0.33ppm蒸気を7時間/日で5日間ばく露した結果、軽度の自らの刺激や呼吸数の増加を認めた。0.15ppmの蒸気を7時間/日、216時間中150日間吸入ばく露した結果では、マウスに軽度の呼吸の変化を認めたが、他の動物種では刺激症状を認めなかつた。病理学的には、高濃度のばく露による男性変性変化(脳、心臓、肝臓、副腎、腎臓)で観察された。重度の肺水腫と充血、急性壞死性気管支炎(細気管支炎は刺激の重症度を示す)、発生率と重症度は濃度で依存した。0.15ppmの反復ばく露では、すべての種で軽度の(slight)肝臓と腎臓で変性変化が観察され、マウスでは肺水腫および炎症が、モルモットとラットの一部では肺炎の進行の顕微鏡的証拠が認められた1)。	雌雄SDラット各群4匹および雌雄カニクイザル各群6匹に0.01、0.05、0.20 ppm (0、0.11、0.56, 2.28 mg/m ³)のヘキサクロロシクロペンタジエンを6時間/日、5日/週、90日間吸入ばく露した結果、両動物とともに統計学的に有意な身体的または臨床的影響は認められず、頭蓋骨眼窓または組織学的変化も認められなかつた2-3)。	専門家会議では文献4の104週間吸入ばく露試験結果における呼吸上皮の色素沈着は本物質による有害影響とはみなさなかつた。	体重増加抑制および呼吸器の扁平上皮化生	マウス	01	TREON JF, CLEVELAND FP, CAPPEL J. The toxicity of hexachlorocyclopentadiene. AMA Arch Ind Health. 1955 Jun;11(6):459-72.					
							02	Rand GM, Nees PO, Calo CJ, Alexander DJ, Clark GC. Effects of inhalation exposure to hexachlorocyclopentadiene on rats and monkeys. J Toxicol Environ Health. 1982 May-Jun;9(5-6):743-60.							
							03	ALEXANDER, D.J., CLARK, G.C., JACKSON, G.C., HARDY, C.J., STREET, A.E., HEYWOOD, R.H., BUIST, D., PRENTICE, D.E., & ISAACS, K.R. (1980). Subchronic inhalation toxicity of hexachlorocyclopentadiene in monkeys and rats, Huntingdon, Huntingdon Research Centre, 373 pp (Report VCL14M/791081) (Prepared for Velsicol Chemical Corporation, Chicago). cited in EHC,120 (1991).	文獻2および3はラットとサルを用いた亜慢性の吸入ばく露試験であることより新たに採用了。	固体捕集-ガスクロマトグラフ分析方法	Porapak T捕集剤 0.01~0.2 L/min 450 min	ヘキサン 1 mL	GC/ECD	○	・捕集後できるだけ速やかに測定すること。
							04	National Toxicology Program. NTP Toxicology and Carcinogenesis Studies of Hexachlorocyclopentadiene (CAS No. 77-47-4) in F344/N Rats and B6C3F1 Mice (Inhalation Studies). Natl Toxicol Program Tech Rep Ser. 1994 Feb;437:1-308.							

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値		提案理由	その他コメント	標的健 康影響	対象	文献番号	文献調査結果		捕集法/分析法									
		八時間濃度 基準値	短時間濃度 基準値						根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評 価					
ジブチルスズ=ジラウラート	77-58-7	スズとして 0.1mg/m ³	-	雄のアルビノラット各群3匹にジブチルスズジラウラート0.17.5mg/kg bw/日を15日間強制経口投与した結果、肝臓ミクロソーム酵素活性低下とヘムオキシダーゼ活性の低下が認められた1)。 雄ラット（性別不明）各群6匹にジブチルスズクリド（DBTC）を0.20,50,75,100ppm(0.0,7.1,3.1,9.2,6 mg/kg bw/日に相当*1)を最長6ヶ月間混餌投与した試験では、50ppm以上のばく露群では体重減少および剖検での胆管の肥厚、拡張が認められたが、20ppmばく露群では異常所見は見られなかった2)。 Wistarラット雌雄各20匹に0.50,150ppmのジブチルスズクリドを2週間混餌投与した試験で150ppm以上投与群で胸膜重量の有意な低下を認めた。なお、50ppm群での胆管の異常は見られなかった3)。 Fischer344ラットおよびB6C3F1マウスの雌雄各50匹に0.66,5,133ppmのジブチルスズアセテートを78週間混餌投与した結果では、有意な発がんの知見は見られなかった4)。 ジブチルスズ化合物における神経影響における影響を認められなかった5)。 以上より、動物試験の結果における胆管の病理学的变化を臨界影響としたNOAELを20ppm DBTC /kg bw/日(0.7 mg DBTC/kg bw/日)と判断し、不確実係数等を考慮した0.1mg Sn/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。 *1：ラットの体重を400gとして換算						Mushtaq MM, Mukhtar H, Datta KK, Tandon SG, Seth PK. Toxicological studies of a leachable stabilizer di-n-butyltin dilaurate(DBTL): effects on hepatic drug metabolizing enzyme activities. Drug Chem Toxicol. 1981;4(1):75-88.	ろ過捕集-原子吸光分析方 法	MCEフィルター；1 L/min, 500 L	トルエン	黒鉛炉原子吸光 分析方法	○	・保存安定性試験の結果がないため、速やかに分析する ・検証データ数が少なく応急的な分析法であることに留意する。				
マレイン酸ジブチルスズ	78-04-6			BARNES JM, STONER HB. Toxic properties of some dialkyl and trialkyl tin salts. Br J Ind Med. 1958 Jan;15(1):15-22.					ろ過捕集-原子吸光分析方 法	MCEフィルター；1-2 L/min, 200 L以上	硫酸/30%過酸化 水素/塩酸分解	黒鉛炉原子吸光 分析方法	○	・保存安定性試験の結果がないため、速やかに分析する ・検証データ数が少なく応急的な分析法であることに留意する。						
ジブチルスズジクロリド	683-18-1			(ろ過+固体) 捕集-ガスクロマトグラフ分析方法					OVS(ガラス繊維ろ紙 +XAD-2)	氷酢酸1%/アセトニ トリル	GC/FPD	○								
ジブチルスズオキサイド	818-08-6			(ろ過+固体) 捕集-原子 吸光分析方法					OVS(ガラス繊維ろ紙 +XAD-2)；1-2 L/min, 100-250 L	氷酢酸10%/トルエ ン	黒鉛炉原子吸光 分析方法	○	・保存安定性試験の結果がないため、速やかに分析する ・検証については後段の捕集剤から検出されるかどうか、測定時に確認する							
ジブチルスズ二酢酸	1067-33-0			Seinen W, Vos JG, van Spanje I, Snoek M, Brands R, Hooykaas H. Toxicity of organotin compounds. II. Comparative in vivo and in vitro studies with various organotin and organolead compounds in different animal species with special emphasis on lymphocyte cytotoxicity. Toxicol Appl Pharmacol. 1977 Oct;42(2):335-53.																
ジブチルスズビス(2-エチルヘキシリチオグリコレート)	10584-98-2			U.S. National Cancer Institute: Bioassay of dibutyltin Diacetate for Possible Carcinogenicity. Carcinogenesis Technical Report Series No. 183. DHEW (NIH) Pub. No. 79-1739. NCI, Bethesda, MD (1979)																
ジブチルスズビス(イソオクチル=チオグリコレート)	25168-24-5			Boyer JI. Toxicity of dibutyltin, tributyltin and other organotin compounds to humans and to experimental animals. Toxicology. 1989 May 15;55(3):253-298.					(ろ過+固体) 捕集-液体 クロマトグラフ分析方法及び黒 鉛炉原子吸光分光分析方法 1~1.5 L/min	グラスファイバーフィル ター+XAD-2 捕集 管(80 mg/40 mg) 脱着溶媒：アセトニ トリル(内標準物質；酢酸) 33.4 ~ 500 min	高速液体クロマト グラフ/黒鉛炉原子 吸光度計(HPLC/GFAAS)	○	・本法の回収率は濃度基 準値(参考)の1/10~ 2倍の濃度範囲である が、評価は精度、偏り、正 確さで示されている。 ・サンプリング後の輸送、及 び保管は0°Cを推奨する。							
テトラエトキシシラン	78-10-4	10ppm	-	この動物実験に従事した作業者が、動物にばく露したテトラエトキシシラン(85, 250, 700, 1,200, 3,000ppm)のいずれの濃度で短時間ばく露した際の刺激性に係る記載があり、85ppmでは臭気のかかったが250 ppmで軽度の鼻と鼻の刺激がみられ、刺激は濃度依存的に増強した。著者らは700ppmのばく露ではヒトは30分以上は耐えられないとしている。1) 雄Wistarラットに対して、125 ppm のテトラエトキシシランを5, 10, 15回（各2匹）、25回(4匹)、30回(10匹)、各回7時間吸入ばく露した結果、病理組織学的に軽度～中程度の肺障害がみられている2)。 雄ICRマウス各10匹に50および100 ppmのテトラエトキシシラン蒸気を、6時間/日、5日/週、4週間吸入ばく露した結果、50 ppmで鼻部の炎症が、100 ppmでは腎臓への影響がみられた。また、血液検査の結果、50 ppmばく露群において、赤血球、ヘモグロビン、ヘマクリットの値が有意に減少したが、その変化は軽度であった3)。 以上より、動物試験の結果より鼻部の炎症および赤血球系の異常を臨界影響としたLOAELを50 ppmと判断し、不確実係数等を考慮した10 ppmを八時間濃度基準値として提案する。なお、短時間濃度基準値については、文献が不十分であることから設定しないことを提案する。	鼻部の炎症およ び赤血球系の異 常	マウス	01	Smyth HF, Seaton J (1940) Acute response of guinea pigs and rats to inhalation of the vapors of tetraethyl orthosilicate (ethyl silicate). J Ind Hyg Toxicol 22: 288-96.												
02	Rowe VK, Spencer HC, Bass SL. Toxicological studies on certain commercial silicones and hydrolyzable silane intermediates. J Ind Hyg Toxicol. 1948 Nov;30(6):332-52.																			
03	Omae K, Nakashima H, Takebayashi T, Uemura T, Ishizuka C, Yamazaki K, Sakurai H. No-effect level of subacute tetraethoxysilane inhalation on the mouse kidney. Sangyo Eiseigaku Zasshi. 1995 Jan;37(1):1-4.																			
トリ-4-トリル=ホスフート (別名: p-トリケルホス フェート)	78-32-0	設定できな い	-	トリ-4-トリル=ホスフートを単独で用いた試験情報は認められなかった。なお、本物質の異性体であるo-体には強い神経毒性があるが、m, p-体では神経毒性の原因となる環状ジケチステルを発生しないとされている1)。 以上より、本物質単独による有害性情報に乏しいことから、八時間濃度基準値は「設定できない」として提案する。	異性体混合物であ り、o-体とp-体 の間に神経毒性 がある。	-	01	環境省. 化学物質の環境リスク評価 第4巻 [18] , 2005. https://www.env.go.jp/chemi/report/h17-21/pdf/chpt1/1-2-2-18.pdf (アクセス:2024/09/10).	-	-	-	-	-	-	-	-				
過酢酸	79-21-0	-	0.5ppm				01	Janssen, P.J.M. 1989a. Acute Inhalation Toxicity Studies of Proxitane 1507 in Male Rats (I). Duphar B.V., Report No. S. 8906, Int. Doc. No. 56645/25/89, cited in US Environmental Protection Agency (US EPA): Peracetic acid. In: Acute Exposure Guideline Levels (AEGLs) (2008).												
Wistarラット(5匹/群)に市販の混合物からの130, 300, 320 mg/m ³ の過酢酸を30分ばく露した結果、激しい咳、流涕、流涎、協調性・注意力の低下、呼吸困難及び死亡(320 mg/m ³)を引き起こした1)。 雄のOFLマウス各8匹に純粋な過酢酸を1.8, 4, 6, 24ppm、および過酢酸混合物(過酢酸39%, 酢酸45%, 過酢酸水素6%) 1.6, 3.0, 5.6, 11.6ppmを60分間全身吸入ばく露した結果、ばく露直後より呼吸抑制が発生し、50%呼吸抑制濃度(RD50)が、純粋な過酢酸で55.4 ppm、過酢酸混合物では3.8 ppm(平均4.6 ppm)であった2)。 過酢酸の刺激性を評価するために、ヒト(人數不明)に、市販の混合物(過酢酸5%含有)が入った噴霧器2つからアロマリソルを23分間発生させて、計1時間50分観察した結果、過酢酸アロマリソル濃度2.0 ppm(6.23 mg/m ³)で耐え難い刺激を知覚し、不快感は0.5~1.5 ppm(1.56~4.68 mg/m ³)の濃度では程度とおり、0.5 ppm(1.56 mg/m ³)未満では不快感はなくなった3)。 以上より、ヒトの知覚から、過酢酸による目、皮膚、上気道の刺激を臨界影響としたNOAELを0.5ppmと判断し、短時間濃度基準値0.5 ppmを提案する。なお、慢性ばく露に係る知覚に乏しいことから八時間濃度基準値は「設定できない」を提案する。	目、皮膚、上気 道の刺激	ヒト	02	Gagnaire F, Marignac B, Hecht G, Héry M. Sensory irritation of acetic acid, hydrogen peroxide, peroxyacetic acid and their mixture in mice. Ann Occup Hyg. 2002 Jan;46(1):97-102.	(ろ過 (反応) +液体)- ガスクロマトグラフ分析方法	オキシ硫酸チタンコ ーティング石英ファイバ ー フィルター+イビン ジマー(捕集液:ア セトニトリル中に内標 準物質を添加したもの) 1 L/min 15 min	特になし	GC/FID	○	・サンプリングは液体捕集方 法										
			03	Fraser, J. A. L.; Thorbinson, A. 1986. Fogging Trials with Tenneco Organics Limited (30th June, 1986) cited in US Environmental Protection Agency (US EPA): Peracetic acid. In: Acute Exposure Guideline Levels (AEGLs) (2008).																

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果					捕集法/分析法							
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価	備考	
ジメチルカルバモイル=クロリド	79-44-7	設定できない	-	雄SDラット各群50匹に0、1 ppmのジメチルカルバモイル=クロリドを6時間/日、5日/週で6週間吸入ばく露した結果、ばく露開始から480日後の鼻腔がんによる調整済み死亡率は12%、600日後は17%であった1)。 雄ゴルテンマウス（対照群50匹）(偽ばく露)/120匹（末ばく露）、ばく露群100匹)に0、1 ppm のジメチルカルバモイル=クロリドを6時間/日、5日/週、生涯吸入ばく露した試験では、鼻腔扁平上皮がんの発生頻度は投与群(50/99)で対照群(0/50)と比較して有意に増加した2)。 なお本物質は、遺伝毒性物質として評価されている3-5)。 以上より、本物質は発がんが認められており、また遺伝毒性があることが指摘されていることから、濃度基準値は「設定できない」と判断する。	経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある（皮膚吸収性有害物質）	-	-	01 02 03 04	Snyder CA, Garte SJ, Sellakumar AR, Albert RE. Relationships between the levels of binding to DNA and the carcinogenic potencies in rat nasal mucosa for three alkylating agents. <i>Cancer Lett.</i> 1986 Nov;33(2):175-81. Sellakumar AR, Laskin S, Kuschner M, Rusch G, Katz GV, Snyder CA, Albert RE. Inhalation carcinogenesis by dimethylcarbamoyl chloride in Syrian golden hamsters. <i>J Environ Pathol Toxicol.</i> 1980 Aug;4(1):107-15. cited in IARC monographs on the evaluation of carcinogenic risk to humans, vol71. 有害性評価書, No.50 (有害性), ジメチルカルバモイル=クロリド(Dimethylcarbamoyl chloride), 2010年6月, 厚生労働省, 化学物質リスク評価検討会. IARC MONOGRAPHS ON THE EVALUATION OF CARCINOGENIC RISKS TO HUMANS, VOLUME 71, Re-evaluation of Some Organic Chemicals, Hydrazine and Hydrogen Peroxide, 1999.								
2-ニトロプロパン	79-46-9	設定できない	-	雄SDラット各群50匹および雄ニュージーランド白ウサギ各群5匹に0、25、200 ppm (実測値：0, 27, 207 ppm) の2-ニトロプロパン (2-NP, 純度94.45%) 蒸気を7時間/日、5日/週、6ヶ月間ばく露した結果、ラットの207ppmばく露群では1ヶ月目から軽度の肺水腫および肺剝離で暗出血量の増加を認め、6ヶ月目に肝絶対重量有意な増加を認めた。6ヶ月目に剖検した10匹のラットすべてに多発性的肝細胞がんおよび腫瘍性結節が観察された(对照群0匹)。なお、ウサギでは207ppmばく露群のうち3匹にはばく露に関連した顎微鏡レベルの変化が経過中認められたが、ばく露終了時にはばく露に関連した所見は見られなかった1)。 なお、本物質は遺伝毒性物質と評価されている2-4)。 以上より、本物質は動物試験での発がんが認められており、また遺伝毒性があることが指摘されていることから、濃度基準値は「設定できない」と判断する。	-	-	01 02 03 04	Lewis TR, Ulrich CE, Busey WM. Subchronic inhalation toxicity of nitromethane and 2-nitropropane. <i>J Environ Pathol Toxicol.</i> 1979 May-Jun;2(5):233-49. Propane, 2-nitro- (2-Nitropropane), Chemical Abstracts Service Registry Number 79-46-9, Environment Canada Health Canada, July 2010. SIAM 30, 20-22 April 2010, INITIAL TARGETED ASSESSMENT PROFILE, OECD Existing Chemicals Database. ROBUST STUDY SUMMARIES: Critical Studies Identified in Screening Assessment Targeted for Human Health, OECD Existing Chemicals Database (2010).		固体捕集-ガスクロマトグラフ分析方法	Chromosorb 106 0.01~0.05 L/min 10~200 min	酢酸エチル 1 mL	GC/FID	○	・濃度基準値を超える範囲では破過の可能性があるので、捕集流量を下げる、捕集時間を短縮するなどを検討する。(OELの1倍相当濃度の10.4L通気で5%が破過した)		
ビスフェノールA	80-05-7	2mg/m ³ 吸引性粉じん	-	雌雄Fischerラット各群30匹CO、10、50、150mg/m ³ のビスフェノールAの粉じん(MMAD = 2μm)1日6時間、週5日、13週間ばく露した結果、50、150mg/m ³ ばく露群では、用量依存的な体重増加の抑制が認められた。150mg/m ³ ばく露群では肝臓と腎臓の重量は減少し。50、150 mg/m ³ ばく露群では鼻腔における軽度の粘膜下層の慢性炎症および上皮形成が認められた。10mg/m ³ では症候はなかった1, 2)。 雌雄SDラット各群30匹に0、0.015、0.3、4.5、75、750、7,500ppmのビスフェノールAを混餌投与した3世代生殖毒性試験の結果、750ppm以上投与群で各世代の雌雄の親動物の体重増加抑制、肝臓及び腎臓重量の減少がみられた。7,500ppm投与群では各世代で着床部位数及び生存同巣児数の減少といった異常や、児で腔開口や包皮分离の遲延が認められた。以上から、NOAELは、親動物一般毒性に対する75ppm(5mg/kg bw/day相当)、生殖発生毒性に対する750ppm(50 mg/kg bw/day相当)とされている3)。 以上より、動物試験の結果から「粘膜下層の慢性炎症・上皮形成」および「親動物の体重増加抑制、肝臓及び腎臓重量減少」を臨界影響としたNOAELをそれぞれ10mg/m ³ および5mg/kg bw/day判断し、不確実係数等を考慮した2 mg/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。	近年生殖毒性・発生毒性の知見があることから、今後早期に確認・検討が必要である。	ラット	01 02 03	Dow Chemical Co. (1988) Bisphenol A: 13-week aerosol toxicity study with Fischer 344 rats. Study Report K-001304-011. Lomax LG, Nitschke KD (1988) The subchronic inhalation toxicity study of Bisphenol A in Fischer 344 rats. <i>Toxicologist</i> 8: 248. Tyl RW, Myers CB, Marr MC, Thomas BF, Keimowitz AR, Brine DR, Veselka MM, Fail PA, Chang TY, Seely JC, Joiner RL, Butala JH, Dimond SS, Cagen SZ, Shiotsuka RN, Stropp GD, Waechter JM. Three-generation reproductive toxicity study of dietary bisphenol A in CD Sprague-Dawley rats. <i>Toxicol Sci.</i> 2002 Jul;68(1):121-46.		ろ過-高速液体クロマトグラフ分析法	2ピース ガラス纖維フィルター 1.0 L/min 240 min	アセトニトリル 3 mL	HPLC/UV又はPDA	○	・破過試験はOELの1倍相当濃度で実施されているが、固体試料であるため破過の可能性は低いものと考えられる。		
2, 6, 6-トリメチルビクロ[3.1.1]ヘpta-2-エン(別名: α-ピネン)	80-56-8	5ppm	-	雌雄F344/Nラット各群10匹およびB6C3F1/Nマウス各群10匹に0、25、50、100、200、400 ppmのα-ピネンを5時間/日、5日/週で90日間吸入ばく露した結果、主な標的是、肝臓、泌尿器系、精巢上体であり、雌ラット25 ppm以上ばく露群では病理組織学的変化を伴わない肝相対重量の増加、雄マウス100ppm以上ばく露群では精巢上体尾部の精子数減少および膀胱の移行上皮過形成の発生率増加、雌マウス100ppm以上ばく露群では膀胱の移行上皮過形成の発生率の増加が認められた1)。 以上より、マウスの膀胱および精巢上体への影響を臨界影響としたNOAELを50 ppmと判断し、不確実係数等を考慮した5 ppmを八時間濃度基準値として提案する。	■雄ラット25ppmばく露群における腎臓病変の発生率の増加はα2u-グロブリン症(雄ラット特異的)であり、ヒへの有害影響とはみなさなかった。 ■雌ラット25ppmばく露群以上での臓器相対重量減少が見られているが、膀胱および精巢上体への影響をより重要な毒性影響と判断してNOAEL50ppmを臨界影響とした。	膀胱および精巢上体への影響	マウス	01	National Toxicology Program. Toxicity studies of α-pinene administered by inhalation to F344/N rats and B6C3F1/N mice. <i>Toxic Rep Ser.</i> 2016 May;(81):NTP-TOX-81.								

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文獻調査結果					捕集法/分析法									
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価				
フル酸ブチルベンジル（別名：BBP）	85-68-7	20mg/m ³	-	<p>雌雄20匹のSDラットに、0.360, 1,000, 2,100 mg/m³のBBPのエアロソル（粒径：4.7–9 µm15%, 1.1–3.3 µm70%, < 0.4–0.7 µm15%）を6時間/日、5日/週、4週間吸入ばく露した結果、2,100 mg/m³群で雄3匹、雌4匹死に、体重増加抑制、雄の脾臓および生殖器の萎縮が観察され1）、NOAECは1,000 mg/m³と考えられた。</p> <p>雌雄5匹のSDラットに、0.49, 144, 526 mg/m³のBBPのエアロソル（90%以上が粒径10 µm以下）を6時間/日、5日/週、4週間吸入ばく露した結果、526 mg/m³群で雄と体重増加が对照群と比較して17~19%抑制され、NOAEC 144 mg/m³であった2）。</p> <p>雌雄25匹のSDラットに、0.5, 218, 789 mg/m³のBBPのエアロソル（純度99.3%、粒径：< 10 µm90%で、1.1–4.7 µm80%）を6時間/日、5日/週、13週間吸入ばく露した結果、ばく露終了後解剖で、789 mg/m³群で雌雄の肝・腎臓の相対・絶対重量増加、雄で血糖値低下がみられた。肝・腎臓を含めてすべての臓器の組織学的所見は見られなかった3）。このようにNOAELは218 mg/m³と考えられた。</p> <p>以上より、ラットにおける組織学的変化伴わない肝・腎重量増加・血糖値低下を臨界影響としたNOAELを218 mg/m³と判断し、不確実係数等を考慮した20 mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>・血糖値低下は対照群102±13 mg/dLと比較して高濃度群で76±13 mg/dLとp<0.01で有意であるが、メニスムは確定されていない。</p> <p>・近年生産毒性・発生毒性の知見があることから、今後早期に確認・検討が必要である。</p>	ラット	01	Monsanto Co (1981) Subacute inhalation toxicity of benzyl butyl phthalate as an aerosol-vapor administered for four weeks to Sprague-Dawley rats. Report No. MSL 1497, 20.02.1981, Monsanto Company, Environmental Health Laboratory, St. Louis, Missouri, unpublished						ガラス纖維フィルター+ポリウレタンフォーム 1.0 L/min 15~60 min	固体捕集 - GC	1,4-ジオキサン	GC/MS	○	
							02	Hammond BG, Levinskas GJ, Robinson EC, Johannsen FR. A review of the subchronic toxicity of butyl benzyl phthalate. Toxicol Ind Health. 1987 Jun;3(2):79-98.											
							03	Monsanto Co (1982) Thirteen-week inhalation toxicity of benzyl butyl phthalate plasticizer vapor-aerosol to Sprague-Dawley rats. Report No. MSL 2713, 20.12.1982, Monsanto Company, Environmental Health Laboratory, St. Louis, Missouri, unpublished											
オルト-セカンタリーブチルフェノール	89-72-5	20mg/m ³	-	<p>雌雄SDラット各群13匹に0.12, 60, 300mg/kg bw/dayのオルト-セカンタリーブチルフェノールを、毎日1回、強制経口投与した（OECD-TG422に準拠）。投与期間は、雄に対して交配前2週間と交配期間（2週間）および交配期間終了後2週間（剖検前1日までの連続42日間）。また雌に対しては交配前2週間と最終2週間の交配期間（2週間）まで、さらに交尾後も成立した雌では妊娠期間を通して分娩後3日（分娩日=哺育0日、42日間）までとした。その結果、300mg/kg bw/day投与群では活動低下および投与後一過性の流涎が雌雄すべてのラットで見られ、雌では伏臥位と側臥位、失調性歩行、不完全な闇眼が観察された。その後のうち回復した。300mg/kg bw/day投与群では雌雄ともに肝臓の相対重量増加が見られ、病理組織検査では雄の肝細胞の小葉中心性肥大が認められた。なお、生殖・発達毒性に関する影響は認められなかった1-2）。</p> <p>以上より、動物試験の結果から、中枢神経症状を臨界影響としたLOELを60mg/kg bw/dayと判断し、不確実係数等を考慮した20mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある（皮膚吸収性有害物質）。</p>	中枢神経症状	ラット	01	o-sec-ブチルフェノールのラットを用いる反復経口投与毒性・生殖発生毒性併合試験、財団法人食品薬品安全センター（厚生省生活衛生局委託）						XAD-7捕集管 0.2 L/min 100 min	固体捕集 - ガスクロマトグラフ分析方法	メタノール 1 mL	GC/FID	○
							02	SIDS Initial Assessment Report For CoCAM2 Paris, France, 17th-19th April, 2012											
1-メチルナフタレン	90-12-0	0.3mg/m ³	-	<p>雌雄各10匹のF344ラットに0.、0.5、4、30ppm（0.2, 9, 23, 174mg/m³）の1-メチルナフタレン（1-MN）を6時間/日、5日/週、13週間吸入ばく露した結果、雄の全群と雌の4、30ppm群に上個頭組織の粘液細胞過形成が認められ、その重症度はばく露濃度と相関していた。なお著者らは、minimal/mild/moderateで評価されるこれらの反応のうちmoderate以上の所見が「刺激に対する適応反応」と結論付けるべきではないとしている1）。</p> <p>雌雄各50匹のB6C3F1マウスに0.075, 0.15%の1-MN合有餌を81週間投与した結果、肺胞白血病が雄では10.4, 46.0, 34.7%、雄では2.2, 46.0, 38.0%に見られた。1-MN総投与量は雌では42.6, 81.5 g/kg、雄では40.6, 79.5g/kgだった2）。</p> <p>雌15匹のB6C3F1マウスの背中に119mg/kgの混合MNを週2回30週間、合計7.14g/kg bw/day塗布した結果、II型肺細胞の過形成と肥大、およびそれに伴う肺胞蛋白症が100%に見られた3）。</p> <p>以上の動物実験結果より、上咽頭組織の粘液細胞の過形成を臨界影響として、LOELを2.9mg/m³とし、不確実係数等を考慮した0.3mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある（皮膚吸収性有害物質）。</p> <p>根拠論文1の吸入ばく露量がppmで記載されていることから、GHS政府分類がイタスに記載されている方法に基づきmg/m³に単位変換した。</p>	上咽頭組織の粘液細胞の過形成	ラット	01	Kim YS, Lee MJ, Seo DS, Kim TH, Kim MH, Lim CH. Thirteen-week inhalation toxicity study of 1-methylnaphthalene in F344 rats. Toxicol Res. 2019 Nov 26;36(1):13-20.						InertSep Slim-J AERO SDB 0.1 L/min 240 min	固体捕集 - ガスクロマトグラフ分析方法	ジクロロメタン 5 mL	GC/MS	○
							02	Murata Y, Denda A, Maruyama H, Konishi Y. Chronic toxicity and carcinogenicity studies of 1-methylnaphthalene in B6C3F1 mice. Fundam Appl Toxicol. 1993 Jul;21(1):44-51.											
							03	Murata Y, Emi Y, Denda A, Konishi Y. Ultrastructural analysis of pulmonary alveolar proteinosis induced by methylnaphthalene in mice. Exp Toxicol Pathol. 1992 Mar;44(1):47-54.											
1-(N-フェニルアミノ)-ナフタレン	90-30-2	1mg/m ³	-	<p>雌雄Wistarラット各群15匹に1-(N-フェニルアミノ)-ナフタレンを0（溶媒:コーンオイル）、5、25, 125 mg/kg bw/dayで1回/日、90日間強制経口投与した結果、雄において、25mg/kg bw/day以上の群で肝臓、腎臓の絶対・相対重量の有意な増加、小葉中心性肝細胞肥大、腎臓の近位尿管管の変性・再生、用量依存的に悪化した慢性腎症が認められた。一方、雄において、5 mg/kg bw/day以上の群で、脾臓に色素（ヘモジドリン沈着）が用量依存的に認められた。125mg/kg bw/dayの群で、肝臓、腎臓の絶対・相対重量の増加、重度の小葉中心性の肝細胞肥大が認められた4）。</p> <p>雌雄SDラット各群4匹に1-(N-フェニルアミノ)-ナフタレンを（溶媒:オリーブオイル）、4、20, 100, 500 mg/kg bw/dayで1回/日、28日間、強制経口投与した結果、雄において、100mg/kg bw/day以上の投与群で、脾臓で重度の臓外造血が認められた。一方、雌において、500mg/kg bw/dayの投与群で、脾臓で重度の臓外造血が認められ、肝臓、腎臓の絶対・相対重量の有意な増加、中等度の小葉中心性肝細胞肥大が認められた5）。</p> <p>以上より、動物試験の結果からヘモジドリン沈着を臨界影響としたLOAELを5mg/kg bw/dayと判断し、不確実係数等を考慮した1mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>25°Cの飽和蒸気圧における濃度換算値 0.098 mg/m³と濃度基準値 1 mg/m³との比が 0.098 (≈0.1) であることから、粒子と蒸気の両方を捕集できる捕集方法が必要である。</p>	ヘモジドリン沈着	ラット	01	BASF SE (2016 b) 1-Naphthylamine, N-phenyl-. Repeated dose 90-day combined oral toxicity-/neurotoxicity study in Wistar rats – administration by gavage. Project No 64C0068/14S024, 08 Apr 2016, BASF SE, Ludwigshafen, unveröffentlicht cited in REACH.						InertSep Slim-J AERO SDB 0.1 L/min 240 min	固体捕集 - ガスクロマトグラフ分析方法	ジクロロメタン 5 mL	GC/MS	○
							02	Tanabe, Shihori, et al. "Toxicity in repeated 28-day oral administration of N-phenyl-1-naphthylamine in rats." Fundamental Toxicological Sciences 4.5 (2017): 207-218.											
2-メチルナフタレン	91-57-6	0.3mg/m ³	-	<p>雌雄各5匹のウスターラットに0.、2, 10, 50 mg/m³(0.034, 1.72, 8.6 ppm)の2-メチルナフタレン（2-MN）を6時間/日、週5日、4週間吸入ばく露した結果、γ-GTP活性の上昇、赤球球造血系の刺激、コレステロール濃度の低下、小葉気管支における杯細胞数の増加（10 mg/m³ばく露群：雄4/5匹、雌3/5匹）、胆管過形成による非特異的肝毒性が認められ、4.34ppmがNOAELだった1）。</p> <p>雌雄各50匹のB6C3F1マウスに0.075, 0.15%の2-MN合有餌を81週間投与した結果、肺胞白血病が雄では55.1, 45.8%、雄では42.9, 46.9%に見られた。2-MN総投与量は雄では28.5, 61.0 g/kg、雄では42.8, 64.5 g/kgだった2）。</p> <p>雌15匹のB6C3F1マウスの背中に119mg/kgの混合MNを週2回30週間、合計7.14g/kg bw/day塗布した結果、II型肺細胞の過形成と肥大、およびそれに伴う肺胞蛋白症が100%に見られた3）。</p> <p>以上の動物実験結果より、小葉気管支における杯細胞数の増加を臨界影響として、NOAELを2mg/m³と判断し、不確実係数等を考慮した0.3 mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある（皮膚吸収性有害物質）。</p>	小葉気管支における杯細胞数の増加	ラット	01	Swiercz R, Wąsowicz W, Stetkiewicz J, Gromadzinska J, Majcherek W. 4-Week inhalation toxicity of 2-methylnaphthalene in experimental animals. Int J Occup Med Environ Health. 2011 Dec;24(4):399-408.						InertSep Slim-J AERO SDB 0.1 L/min 240 min	固体捕集 - ガスクロマトグラフ分析方法	ジクロロメタン 5 mL	GC/MS	○
							02	Murata Y, Denda A, Maruyama H, Nakae D, Tsutsumi M, Tsujuchi T, Konishi Y. Chronic toxicity and carcinogenicity studies of 2-methylnaphthalene in B6C3F1 mice. Fundam Appl Toxicol. 1997 Mar;36(1):90-3.											
							03	Murata Y, Emi Y, Denda A, Konishi Y. Ultrastructural analysis of pulmonary alveolar proteinosis induced by methylnaphthalene in mice. Exp Toxicol Pathol. 1992 Mar;44(1):47-54.											
ジベンゾイルペルオキシド	94-36-0	5mg/m ³	-	<p>ニューヨーク州の工場でジベンゾイルペルオキシド製剤を処理する際に、粉塵中濃度1.34~5.25 mg/m³のジベンゾイルペルオキシドにはばく露しても不快な自覚症状がみられなかつたが、12.2 mg/m³以上では、鼻と喉の刺激があったとの報告がある1）。</p> <p>雌雄25匹のラットにアルビマックスにジベンゾイルペルオキシド0, 28, 280, 2,800 mg/kgを80週間混餌投与した試験では、ラット2,800 mg/kg/kg群で体重増加抑制、ラットで精巢萎縮（2,800 mg/kg/kg群のみ有意）がみられているが、胸中のゼラニモドギベンゾイルペルオキシドにより破壊されたため栄養不良による精巢萎縮であり、ヒトには外挿できないと著者は推察している2）。</p> <p>以上より、ヒト知見から鼻と喉の刺激を臨界影響としたNOAELを5.25 mg/m³と判断し、5 mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>25°Cの飽和蒸気圧における濃度換算値 0.88 mg/m³と濃度基準値 (5 mg/m³)との比が 0</p>														

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値				文献調査結果						捕集法/分析法						
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価	備考		
1,2,4-トリメチルベンゼン	95-63-6	10ppm	-	雄のWistarラットに1,2,4-TMBを25、100、250 ppmの濃度で6時間/日、5日/週、3ヶ月間吸入ばく露（蒸気）した。全群の臨床所見に異常はみられず、体重も対照群と有意差がなかった。250 ppmでローランド試験での行動影響が、100、250 ppmで疼痛感受性の低下が有意に認められた1)。 雌雄のWistarラットに1,2,4-TMBを123、492、1,230mg/m ³ (25、100、250 ppm)の濃度で6時間/日、5日/週、3ヶ月間吸入ばく露（蒸気）した。赤血球の減少が雄250ppmでみられたが、ヘモグリビン量、ヘマトクリット値には影響がなかった。経固時間の短縮が雌の100、250 ppmで認められた。雌雄でばく露濃度に依存した肺胞マクロファージ数の増加が見られ、下気道への影響としている2)。 以上より、動物実験の結果から神経毒性（行動影響および疼痛感受性の低下）および赤血球系の異常を臨界影響としたNOAELを25ppmと判断し、不確実係数等を考慮した八時間濃度基準として10ppmを提案する。	トリメチルベンゼンは令和5年度に異性体混合物として濃度基準値を提案しているが、1,2,4-トリメチルベンゼン単独の試験結果があることから、それに基づき濃度基準値を導出した。	神経毒性（行動影響および疼痛感受性の低下）および赤血球系の異常	ラット	01	Korsak Z, Rydzyński K. Neurotoxic effects of acute and subchronic inhalation exposure to trimethylbenzene isomers (pseudocumene, mesitylene, hemimellitene) in rats. Int J Occup Med Environ Health. 1996;9(4):341-9.	固体捕集-ガスクロマトグラフ分析方法	活性炭管 (Anasorb CSC) 50 mL/min 240 min 1 mL	活性炭管 (Anasorb CSC) 50 mL/min 240 min 1 mL	二硫化炭素/N,N-ジメチルホルムアミド (99/1)	GC/FID	○			
p-tert-ブチルフェノール (PTBP)	98-54-4	0.5mg/m ³	-	Ebnerら(1979)は、PTBP 0.96 mg/m ³ の環境でばく露された34人の労働者のうち10人から白斑が見つかったとしている。なお、この濃度において刺激性反応は見られない1)。 以上のヒトの知見より、白斑を臨界影響としたLOAELを0.96 mg/m ³ と判断し、不確実係数等を考慮して0.5 mg/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。	・Kosakaら(1989)の結果より、PTBPにばく露された包装作業者15名の個人ばく露濃度の八時間時間加重平均値 (8h-TWA) の幾何平均値は0.39 mg/m ³ で、シフト後に採尿された包装作業者20名の幾何平均値は5.07 mg/Lであった。尿中PTBPの総量は、PTBPの推定絶対吸収量の2~3倍多く、皮膚吸収が推定された#1)。Ikedaら(1978)は、白斑説発を排除するために、尿中のPTBP濃度2 mg/Lを基準し、DFGでもこの値を生物学的許容値(BAT)として1990年に採用している#2)。以上のところから、皮膚吸収も含めたばく露評価手法（生物学的許容値等）をにより管理をすることが望ましく、今後検討する必要がある。なお、経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある（皮膚吸収性有害物質）。 #1) Kosaka M, Ueda T, Yoshida M, Hara I. Urinary metabolite levels in workers handling p-tert-butylphenol as an index of personal exposure. Int Arch Occup Environ Health. 1989;61(7):451-5. #2) Ikeda M, Hirayama T, Watanabe T, Hara I. GLC analysis of alkylphenols, alkylcatechols and phenylphenols in the urine of workers as a measure to prevent occupational leucoderma. Int Arch Occup Environ Health. 1978 Mar 15;41(2):125-38.	白斑	ヒト	01	Ebner, V.H., Helletzgruber, M., Hofer, R., Kolbe, H., Weissel, M. und Winker, N. (1979) Vitiligo durch p-tert. butylphenol, Beitrag zur frage interner manifestierungen dieser berufserkrankung. Derm. Beruf Umwelt, 27, 99-104. (引用元：独立行政法人製品評価技術基盤機構, 有害性評価書, Ver. 1.0, No.215. 4-tert-ブチルフェノール (2007) .									
アセトフェノン	98-86-2	20mg/m ³	-	雌雄SDラット（各群：雄10匹、雌5匹）に0、75、225、750mg/kg bw /dayのアセトフェノンを4週間強制経口投与した結果、試験期間中に死亡は観察されず、臨床症状は225、750mg/kg bw/day投与群で認められた。雄では225 mg/kg bw/day以上投与群において少数ながら投与前および投与後の流涎が見られ、750 mg/kg bw/day投与群では投与後の歩行不安定、さらに少数で投与後の尿汚れ、投与後29日目には前肢握力および活動量が対照群と比較して有意に減少していた。75mg/kg bw/day投与群の雄には顕著な臨床症状は観察されなかつた。雌では225mg/kg bw/day以上投与群で少数で尿汚れおよび投与後の流涎が観察され、750mg/kg bw/day投与群では脱毛、投与前の流涎、投与後の歩行不安定が観察された。75mg/kg bw/day投与群では雌の1匹に投与後の唾液分泌が1回観察されただけであった。体重、平均摂餌量、臓器重量については、毒性学的に有意な差ではなく、病理組織学的にはすべての投与群で腎臓の硝子滴変性が認められたが、この所見はヒトにおいて毒性学的に重要なものではないと考えられている1)。 以上より、動物実験の結果から、刺激性（局所影響）および神経毒性（全身影響）を臨界影響としたNOAELをそれぞれ75および225mg/kg bw/dayと判断し、不確実係数等を考慮した20mg/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。	近年生殖毒性・発生毒性の知見があることから、今後早期に確認・検討が必要である。	、刺激性（局所影響）および神経毒性（全身影響）	ラット	01	Thorsrud B: A Combined Repeated Dose Study and Reproduction/Developmental Screening Study in Sprague-Dawley Rats with Acetophenone. Study #3546.1 OECD Screening Information Data Set Program (SIDS) (2003).									
塩化ベンゾイル	98-88-4	設定できない	設定できない	ラットに塩化ベンゾイルを30分/日、2回/週で5ヶ月吸入ばく露し、その後14か月観察した結果、死亡、呼吸器病変、皮膚病変などが認められた1)。なお、本知見ではばく露濃度が不明であり、最小毒性量および用量-反応関係は判断できなかった。 以上より、詳細調査の結果、本物質の濃度基準値の導出に資する知見が認められなかったことより、濃度基準値は「設定できない」と判断する。		-	-	01	Yoshimura H, Takemoto K, Fukuda K, Matsushita H. [Carcinogenicity in mice by inhalation of benzotrifluoride and benzoyl chloride]. Sangyo Igaku. 1986 Sep;28(5):352-9. Japanese.	詳細調査を実施したが、ヒトの疫学は混合ばく露によるものであり、また動物試験では濃度基準値の導出に適した文献情報は認められなかった。	-	-	-	-	-			
m-ニトロトルエン	99-08-1	2ppm	-	雌雄F344ラット各群10匹に0、650、1,250、2,500、5,000、10,000ppmのm-ニトロトルエン（雄：0、46、86、171、342、662 mg/kg bw/d、雌：0、48、87、172、336、638mg/kg bw/d）を13週間混餌投与した結果、650 ppm (48mg/kg bw/d) 以上投与群の雌で脾臓のヘモジデリン沈着の増加を認めた。なお、発がん性があると知見は見られなかった1)。 以上より、動物実験の結果から脾臓のヘモジデリン沈着を臨界影響としたLOAELを48mg/kg bw/dと判断し、不確実係数等を考慮した2ppmを八時間濃度基準値として提案する。	・経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある（皮膚吸収性有害物質）。 ・NTPは1992年に実施した二クロトレニン異性体の2年間混餌投与試験の後、2002年にも2年間混餌投与試験をしているが、o-, p-のみでm-ニトロトルエンの結果の報告書は検索不能。なお、GHS政府分類（2021）ではm-の発がん性についてデータ不足のため分類できない（中略）本物質自体の肝臓は疫学、動物実験とも入手できないとしている。	脾臓のヘモジデリン沈着	ラット	01	Dunnick J. NTP Technical report on the toxicity studies of ortho-, meta-, and para- Nitrotoluenes (CAS Nos. 88-72-2, 99-08-1, 99-99-0) Administered in Dosed Feed to F344/N Rats And B6C3F1 Mice. Toxic Rep Ser. 1992 Nov;23:1-E4.									
p-ニトロトルエン	99-99-0	2ppm	-	雌雄F344ラット各群50匹および雌雄B6C3F1マウス各群60匹にp-nitrotolueneを0、1,250、2,500、5,000ppm（ラット雄：0、55、110、240 mg /kg bw/day、ラット雌：0、60、125、265 mg/kg bw/day、マウス雄：0、170、345、690 mg/kg bw/day、マウス雌：0、155、315、660 mg/kg bw/day）を2年間混餌投与した結果、雌雄ラットの1,250ppmばく露群以上で腎尿細管のヒアルロン酸および色素沈着、雌雄マウスの1,250ppmばく露群以上で肺胞上皮気管支形成が認められた。ラットを用いた2年間混餌投与による発がん性試験において、2,500 ppmにて肺に陰核膜の腫瘍とがんを合併した発生の有意が認められた1)。 以上より、雌雄ラットの腎尿細管障害を臨界影響としたLOAELを55mg /kg bw/dayと判断し、不確実係数等を考慮した2 ppmを八時間濃度基準値として提案する。	・近年発がんについての知見がみられることがあり、今後更なる確認・検討が必要である。	腎尿細管障害	ラット	01	National Toxicology Program. Toxicology and carcinogenesis studies of p-nitrotoluene (CAS no. 99-99-0) in F344/N rats and B6C3F1 mice (feed studies). Natl Toxicol Program Tech Rep Ser. 2002 May;(498):1-277.									

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果						捕集法/分析法								
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価	備考			
N-エチルモルホリン	100-74-3	15mg/m ³	-	<p>雌雄SDラットに0, 50, 200, 800 mg/kg bw/dayのN-エチルモルホリンを28日間強制経口投与した結果、200mg/kg bw/day以上投与群でケージ内を走る動作や咀嚼動作、800mg/kg bw/day投与群で雌雄で振戦、活動性低下、流涎等、また組織学的には肝臓小葉中心部での肝細胞肥大、腎臓尿細管上皮細胞の空胞化がみられた。また、800mg/kg bw/day投与群の雌雄で体重増加抑制、肝臓及び腎臓の相対重量増加、血中の無機リン濃度上昇、塩素塩素濃度低下、雄で副腎相対重量の増加、尿タンパクの減少、血中のカルシウム濃度・尿素塩素濃度の上昇、アレニン濃度の低下、プロロヒン時間及び活性部分トコホスチン時間の短縮等、雌では中のカイン体及びウロリノーゲンの増加、尿比重の低下、血中のアドrenaline及びアセチルセタノイド濃度の低下、血小板数の増加、白血球百分比のうち、好中球、単球の比率の上昇及び好酸球、リン球の比率の低下に有意差を認めた。著者らはこの結果からNOAELを50mg/kg bw/dayとしている。</p> <p>ラットに0、50、150、500mg/kg bw/dayのN-エチルモルホリンを、雄では交尾前2週から142日間、雌では交尾前2週から3日まで強制経口投与した結果、150mg/kg bw/day以上投与群の雌で哺育2日目に1/13匹の死亡がみられた。また、150 mg/kg bw/day以上投与群の雌及び500mg/kg bw/day群の雄で体重增加の有意な抑制を認めた。組織検査では生殖器の異常ではなく、交尾率、受胎率等の繁殖への影響もみられなかったが、500 mg/kg bw/day投与群で着床数、着床率の低下、産仔数、出産仔数の低下がみられた。出生仔に外表異常、内部器官の異常はなかった。著者らはこの結果から、母ラットのNOAELを50mg/kg bw/day、仔のNOAELを150mg/kg bw/dayとしている。</p> <p>以上より、動物試験の結果から、神経毒性（咀嚼様動作）および体重増加抑制を臨界影響とした50 mg/kg bw/dayをNOAELと判断し、不確実係数等を考慮した15mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>経皮吸収があることから、経皮く露防止対策に留意する必要がある（皮膚吸収性有害物質）。</p> <p>なお、ヒトにおいて高濃度ばく露による角膜浮腫（Dernenh 1966）＊、キー論文には採用せずの知見があるが、八時間濃度基準値15mg/m³であれば当該症状を予防することが可能と考えられる。</p> <p>* Dernenh CU. Health hazards associated with polyurethane foams. J Occup Med. 1966 Feb;8(2):59-62.</p>	01 02	ラット	神経毒性（咀嚼様動作）および体重増加抑制	化学物質点検推進連絡協議会(2004): 4-エチルモルホリンのラットを用いる28日間反復経口投与毒性試験。化学物質毒性試験報告。 化学物質点検推進連絡協議会(2004): 4-エチルモルホリンのラットを用いる経口投与簡易生殖毒性試験。化学物質毒性試験報告。	文献1および2はGLPに準拠した強制経口投与試験であることより信頼性の高い知見と判断した。									
メチレンビス(4,1-フェニレン)=ジイソシアート (別名: 4,4'-MDI)	101-68-8	0.05mg/m ³	-	<p>ジイソシアート化学物質が職業性喘息の最も一般的な原因であることが判明している。米国では、毎年約10万人の労働者が職場でジイソシアート化合物にばく露され、その5~10%が職業性喘息を発症している。どのく露労働者がジイソシアート職業性喘息を発症するかを予測するのに使用できる信頼できる危険因子やバイオマーカーは知られていない）。</p> <p>MDIは4,4'-MDIとそのオリマーに少量の他のモノマー、4,4'-MDIと2,2'-MDIを加えたものである。一般的に「ポリメチックMDI」と呼ばれ精製によってモノマー-MDI（本質的には4,4'-MDI）に変換される割合は比較的小ない。ポリメチックMDIに関するデータは、他のMDI類似体に関する結果よりも少ないので、MDIの過剰量や、（環境）毒性の主要な決定因子と考えられている同等の-NCO含有量など、密接に関連する組成物である。</p> <p>カゴーリアプローチは妥当である（考えられる2）。</p> <p>健康診断受診歴のある14人の労働者のうちフローラップ調査を実施でき144人の調査において、液体MDIモノマーおよびブロボリーにはばく露する可能性が最も高い区域の効率性を確認している。また、喘息様症状と呼吸保護具の離脱との間に有意な関連性があることが確認された3）。</p> <p>ラットを用いた二つの試験（TNO-study: polymeric MDI(MDI単体量を約50%含む)およびFraunhofer study: monomeric MDI(純度99.5%)を1日6時間、週5日、24ヶ月ばく露し、Fraunhofer-studyでは雌Wistarラット各群80匹に0.23, 0.70, 2.05 mg/m³MDI(純度99.5%)を1日18時間、週5日、24ヶ月ばく露を行った結果、ばく露濃度によって肺胞・細気管支上皮の増生、間質の線維症、粒子を貪食したマクロファージの集積の肺病変が認められた。肺胞上皮細胞の増生は高濃度群で発生率が有意に増加し、用量反応関係を示す傾向があり、高濃度群では呼吸機能の低下に関連している。すべての群の各評価点で肺相対重量是有意に増加した。なお著者は、二つの試験がNOAELを0.19mg/m³と算出し、不確実係数等を考慮した0.05 mg/m³を八時間濃度基準値（時間加重平均）として提案する。なお、短時間濃度基準値に資する情報がないことより、現時点では短時間濃度基準値は設定できないと判断する。</p>	<p>文献4 (Feron 2001) の研究デザインについては専門家会議で確認し、濃度基準値のある14人の労働者のうちFAS: follow-up Asthma-like symptoms) を認め、52.7%は新規発生 (NAS: New-onset Asthma-like symptoms)。</p> <p>・経皮吸収があることから、経皮く露防止対策に留意する必要がある（皮膚吸収性有害物質）。</p> <p>・呼吸器及び皮膚感作性GHS区分1であり、他のイソシアート類と同様に呼吸器感作性の可能性について留意することができる。なお、すでに感作された労働者については、濃度基準値よりも低い吸入濃度であっても喘息発作等を引き起こす可能性がある点について留意する必要がある。</p>	01 02 03 04	ラット	肺病変	Bernstein JA. Overview of diisocyanate occupational asthma. Toxicology. 1996 Jul 17;111(1-3):181-9. OECD-SIAR. Methyleneidiphenyl diisocyanate ('MDI') . CASRN 26447-40-5. SIAM 17, 11-14 November 2003 Petsonk EL, Wang ML, Lewis DM, Siegel PD, Husberg BJ (2000) Asthma-like symptoms in wood product plant workers exposed to methylene diphenyl diisocyanate. Chest 118: 1183-1193. Feron VJ, Kittel B, Kuper CF, Ernst H, Rittinghaus S, Muhle H, Koch W, Gamer H, Mallet AK, Hoffmann HD (2001) Chronic pulmonary effects of respirable methylene diphenyl diisocyanate (MDI) aerosol in rats: combination of findings from two bioassays. Arch Toxicol 75: 159-175.	文献1) MDIと職業性喘息に係るレビュー論文である。文献2はpolymeric-とmonomeric-を同等に評価が可能であることを示している。文献3)はヒトの事例であり、気中ばく露濃度の測定はされていない。作業カードで喘息の感作との関係、また呼吸用保護具の着脱と症状との関連が分析されている。なお感作成因の主要因として皮膚接触も重要な要素である。文献1)はpolymeric MDIとmonomeric MDIの二つの動物実験評価が濃度別になされている。なお、ばく露時間についてpolymeric MDI 調査では6時間/日に対してmonomeric MDI調査では18時間/日であるが、累積ばく露量により二つの実験の用量反応関係を示すため意図的なデザインと考られる。なお、本試験の両者の有害性が類似しているという著者の見解から、polymeric MDIを含めた結果での評価は可能と考えられる。	ろ過（反応） - 高速液体クロマトグラフ分析法 1-(2-ピリジル)ビペラジン含浸ガラスファイバーフィルター+カセット 1 L/min 240 min	アセトニトリル/DMSO(9/1) 4 mL	HPLC/FL	○					
N-イソプロピル-N'-フェニル-p-フェニレンジアミン (別名: IPPD)	101-72-4	10mg/m ³	-	<p>雌雄ラット各群10匹にIPPDを0, 180, 360, 720 ppm (0, 15, 29, 57 mg/kg/d) の用量で3ヶ月間、連続投与した。試験中に死亡例はなく、体重や食量に対する投与に問題なかった。また、毒物学的に重大な病理学的および臨床的变化は観察されなかった。高用量 (57 mg/kg/d) の群と雌の肝臓の相対重量は対照群よりも41%と52%増加し、肝臓の絶対重量は、それぞれ35%と48%増加した。高用量 (57 mg/kg/d) の雌では、腎臓と肺の相対重量がそれぞれ20%と26%増加した。なお、これらの臓器重量の変化は病理学的变化を示さなかった。</p> <p>以上より、動物試験の結果から、肝臓の相対重量増加を臨界影響としたNOAELを360 ppm (29 mg/kg/d)と判断し、不確実係数等を考慮した八時間濃度基準値10 mg/m³を提案する。</p>	肝臓の相対重量増加	ラット	01	Biodynamics Inc, BD-88-389 (1988b). A sub-chronic (3 month) oral toxicity study with Santonflex IP in the rat via dietary admixture. Cited in OECD SIDS N-ISOPROPYL-p'-PHENYLENDIAMINE, 11月28日アクセス https://hpvchemicals.oecd.org/UI/handler.axd?id=7b63976e-35f2-4170-89cf-a202982098fa .		疎水性PTFEフィルター(IFVサンプラー) 1 L/min 240 min	アセトニトリル HPLC/UV	○	IFV評価値 : 0.038 ・固体であるためろ過捕集のみで良い(2段目のガス捕集部分は使用しないで良い)						
2-(ジ-n-ブチルアミノ)エタノール	102-81-8	2ppm	-	<p>雄SDラット1群5匹で、コントロール群、DBAE 70 ppmで5日間、DBAE 33 ppmで1週間、DBAE 22 ppmで1、4、15、27週間（すべて6時間/日）のばく露実験結果が報告されている。70 ppmばく露では、ばく露開始約4時間後から振戦、痙攣発作、眼と鼻の明るい刺激、色素沈着、5日後には約50%の体重減少が肝・腎相対重量増加、血清bilirubin増加があり、凝固時間、白血球数、ヘマクリットは正常であった。33 ppmばく露では、体重は増加せず、軽度の腎相対重量の増加、軽度の鼻腔刺激を示す症状があった。22 ppmばく露の1、4、15、27週間ばく露および29日目の検査では、症状、体重増加、組織学的所見、血清等測定値にコントロール群と差は無かった。</p> <p>観察された痙攣の原因は、本物質の神経接合部のアセチルコリニンエスター酶(AChE)阻害作用によるのであつた2)。</p> <p>以上より、動物試験の結果から、22 ppmをNOAELとみなし、不確実係数等を考慮した2 ppmを八時間濃度基準値として提案する。</p>	-	-	01 02	Cornish HH, Dambravasas T, Beatty LD. Oral and inhalation toxicity of 2-N-diethylaminoethanol. Am Ind Hyg Assoc J. 1969 Jan-Feb;30(1):46-51. Hartung R, Pittle LB, Cornish HH. Convulsions induced by 2-N-Di-n-butylaminoethanol. Toxicol Appl Pharmacol. 1970 Sep;17(2):337-43.											

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果					捕集法/分析法					
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価
アクリル酸2-エチルヘキシル	103-11-7	2ppm	-	雌雄Wistarラット各群10匹(週齢不明)に0、10、30、100ppm(約75, 225, 750mg/m ³)のアクリル酸2-エチルヘキシル(純度99.7%)を6時間／日、週5日で90日間全身吸入ばく露した結果、ばく露期間中、30および100ppmばく露群で嗜眠および眼瞼下垂が認められた。100ppmばく露群の雌雄ともに体重増加抑制がばく露期間中およびばく露終了時認められ、ばく露21日目以降は雌雄平均体重の減少が認められた。雌30ppmばく露群で体重増加量に一過性の減少が認められ、さらに、100ppmばく露群では雌雄で肝機能障害(AST値およびALP値上昇)、雌雄で絶タノク、アルゴン、およびグルコースの低下が認められた。雄100ppmばく露群で肝臓の絶対重量低値が認められた。なお雌雄30ppmばく露群およびアルゴンの低下が認められたが、雌についてはアルゴンの減少傾向、との記載であり有意差については不明である。病理組織学的所見として、100ppmばく露群のラットで、鼻腔前部の嗅粘膜の変性が認められた。30ppmばく露群の変性の発生率が増加したが、重篤度は上昇しなかった。10ppmばく露群には、投与に関連した鼻腔の病変は認められなかった。以上から鼻粘膜に対する局所刺激作用のNOAECが10ppm、全身影響(体重および体重増加量の減少、肝機能障害)のNOAECが30ppmと結論している1)。 以上より、動物実験の結果から、体重および体重増加量の減少、肝機能障害を臨界影響とした10ppmをNOAELとして、不確実係数等を考慮した2ppmを八時間濃度基準値として提案する。	体重および体重増加量の減少、肝機能障害	ラット	01	BASF AG (1989). Unveröffentlichte Untersuchungen, Bericht zur Inhalationstoxizität von 2-Ethylhexylacrylat an Ratten, Projekt-Nr. 50/081/8502 vom 30th August 1989.Cite in EU RAR, 2-ethylhexyl acrylate.		固体(反応)捕集－ガスクロマトグラフ分析方法	4-tert-butylcatechol添着ヤシ殻活性炭管 0.1 L/min 120 min	二硫化炭素 1 mL	GC/FID	○	・捕集剤は輸入品だが入手可能。
ノルマル-ブチルベンゼン	104-51-8	10ppm	-	雌雄SDラット各群24匹に0、30、100、300 mg/kg bw/dayの用量でn-ブチルベンゼンを強制経口投与し、親動物の繁殖能力と児動物の発生・発育に及ぼす影響を検討した。F0雌親動物は、5週齢から交配前10週間、交配(交尾完了まで最大14日間)およびその後の期間から剖検前1日までを含む約16週間投与を受けた。F0雌親動物の投与期間は、5週齢から交配前10週間、交配期間は妊娠期間、出産後21日目までの期間を含む約14-16週間であった。F1雌親動物の投与期間は離乳時3週齢から交配前10週間、交配期間(交尾完了まで最大14日間)、剖検前1日まで約18週間であった。F1雌親動物では離乳時3週齢から交配前10週間、交配期間、妊娠期間、出産後21日目までの約19-21週間であった。F1動物では100 mg/kg bw/day以上投与群で雄の腎相対重量、300 mg/kg bw/dayで雄の腎臓絶対重量及び雄の腎絶対相対重量が増加した。F0世代では30 mg/kg bw/day投与群でのみ雄の腎絶対相対重量及び雌の腎相対重量が有意に増加した。F1及F0♂の腎重量増加は雌でも認められるため、雄ではn-ブチルベンゼンによる精子減少や近位尿細管への変化が認められたが、他の機序の間も否定できないと考えられた。また、300 mg/kg bw/day投与群で雄の肝臓に肝細胞肥大を伴う肝相対重量(F1)及び絶対相対重量(F0)の増加が見られた。 ¹⁾ 以上より、動物試験の結果から、親動物の腎臓重量の増加を臨界影響としたNOAELを100 mg/kg bw/dayと判断し、不確実係数等を考慮した10 ppmを八時間濃度基準値として提案する。	親動物の腎臓重量の増加	ラット	01	Izumi H, Kimura E, Ota T, Shimazu S. A two-generation reproductive toxicity study of n-butylbenzene in rats. J Toxicol Sci. 2005 Dec;30 Spec No.:21-38.		固体捕集－ガスクロマトグラフ分析方法	球状活性炭管 0.2 L/min 240 min	二硫化炭素 5 mL	GC/FID	○	・捕集後できるだけ速やかに測定すること。
酢酸sec-ブチル	105-46-4	20ppm	150ppm	ヒトおよび動物の本物質単独のばく露による健康影響について、濃度基準値の導出に資する報告は見当たなかった1)。 雌雄CD1マウス各群30匹および雌雄SDラット各群10匹に0、100、400、1,600 ppmの酢酸tert-ブチルを6時間／日、7日／週、13週間吸入ばく露(蒸気)した結果、マウスでは400ppm以上の濃度で一過性の多動が、雄ラットでは1,600ppmで運動量の増加が見られ、両種とも1,600ppmでは肝臓重量の増加もみられた。なお、血液検査、組織病理学的検査で有害影響は認めず、ラット肝臓の重量については検査ラボのヒストカルコントロール内であつた2)。 雌雄SDラット各群5匹に0、580、2,100、7,900 mg/m ³ (0、120、440、1,660 ppm)の酢酸tert-ブチルを6時間／日、5日／週で2週間吸入ばく露(鼻部)し、翌週に追加ばく露した結果、1,660ppmの雄ラットで肝臓重量が増加し、小葉中心性肝細胞肥大が同時に全ての雄および400ppmばく露群の雄1/5匹にみられた3)。 男女10名のボンティニアガスチャーネット内で、異なる濃度の酢酸sec-ブチル蒸気(異性体不明)に2-5分間ばく露した結果、200ppmでは3-5分間ばく露では被験者の大多数が喉の刺激を訴え、300ppmばく露では大多数が目や鼻の刺激と重度の喉の刺激を訴えた4)。 以上より、酢酸sec-ブチルの異性体を用いた動物試験結果から、肝細胞肥大および神経毒性(一過性の多動)を臨界影響としたNOAELを100ppmと判断して、不確実係数等を考慮した20ppmを八時間濃度基準値として提案する。また、ヒトの刺激性にかかる知見より150ppmを短時間濃度基準値として提案する。	本物質を用いた信頼性のある知見に乏しいことから、酢酸ブチル(異性体)を用いた試験から濃度基準値を導出した。 肝細胞肥大および神経毒性(一過性の多動)	ラット	01 02 03 04	Concise International Chemical Assessment Document 64, BUTYL ACETATES. Published under the joint sponsorship of the United Nations Environment Programme, the International Labour Organization, and the World Health Organization, and produced within the framework of the Inter-Organization Programme for the Sound Management of Chemicals. Faber W, Kirkpatrick D, Coder P, Li A, Borghoff S, Banton M. Sub-chronic, reproductive, and maternal toxicity studies with tertiary butyl acetate (TBAC). Regul Toxicol Pharmacol. 2014 Apr;68(3):332-42. Kenney TJ (2000) Report to Lyondell Chemicals Worldwide. Tertiary-butyl acetate: 14 day repeat dose snout only inhalation toxicity range finding study in rats. Huntingdon, Cambridgeshire, Huntingdon Life Sciences Ltd, pp. 1-107.Cited in CICAD. Nelson KW, Ege JF, Ross M, et al. Sensory response to certain industrial solvent vapors. J Ind Hyg Toxicol 1943; 25: 282-285.	固体捕集－ガスクロマトグラフ分析方法	ヤシ殻活性炭管 0.05 L/min 240 min	二硫化炭素 1 mL	GC/FID	○	・捕集後できるだけ速やかに測定すること。	

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果					捕集法/分析法				
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法
p-トルイジン	106-49-0	4mg/m3	-	<p>ヒトがToluidines (o-トルイジン(OT), m-トルイジン(MT), p-トルイジン(PT)) 40 ppmに60分間ばく露すると重篤な中毒、ばく露時間が長くなるとわずか10 ppmでも自觉症状や体調不良が表れやすい。</p> <p>イギリスで1961～1980年に届出された職業性チアノーゼ310症例中36例がPT、6例がOTであった。気温の高い7～9月に169例が発症し、そのうち経皮吸収が77人(45.6%)、吸入ばく露が36人(27.2%)、経皮および吸入吸収が26人(15.3%)であった。なお、メヘモクロビンが測定された47例中6例が50%以上(最大65%)であった。</p> <p>雄ラット(系統不明)各群10匹に、p-トルイジンを0, 10, 13.8, 66.8, 125.7 mg/kg bw/day×4週間投与した結果、66.8mg/kg/day以上の群で肝相対重量の増加、125.7mg/kg/day群で体重増加の抑制を認めたが、肉眼的病理で所見はみられなかっただ。</p> <p>雄Wistarラット各群8匹に、OT, MT, PTをそれぞれ0, 40, 80, 160 mg/kg bw/dayで3ヶ月間、混餌投与した結果、全異性体で肝相対重量の増加、メヘモクロビン、肝還元型GHSO有意な増加、OT, PT 40 mg/kg bw/day投与群およびMT 80 mg/kg bw/day投与群で肝脂質過酸化指標(オキシリピード誘導物質 : TBARS)の有意な増加、OT 40mg/kg bw /day以上投与群、PT 160 mg/kg bw/day投与群で体重増加の有意な抑制が観察された。</p> <p>21種類の芳香族ニル化合物およびその誘導体の毒性・発がん性について、雄SDラット各群25匹に、PT塗膜塗布もしくは肝脂質過酸化指標(オキシリピード誘導物質 : TBARS)の有意な増加、OT 40mg/kg bw /day以上投与群、PT 160 mg/kg bw/day投与群で体重増加の有意な抑制が観察された。</p> <p>以上より、動物試験の結果から、メヘモクロビン、肝脂質過酸化指標の増加を臨界影響として、40 mg/kg/dayをLOAELと判断し、不確実係数を考慮した八時間濃度基準値4 mg/m3を提案する。</p>	経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある(皮膚吸収性有害物質)。	メヘモクロビン、肝脂質過酸化指標の増加	ラット	01 02 03 04 05	Goldblatt MW. Research in industrial health in the chemical industry. Br J Ind Med. 1955 Jan;12(1):1-20. Sekimpi DK, Jones RD. Notifications of industrial chemical cyanosis poisoning in the United Kingdom 1961-80. Br J Ind Med. 1986 Apr;43(4):272-9. Industrial Bio-Test Laboratories, Inc. Toluidines. Data Sheet No. 31-4/73. Northbrook, IL (1973) (SIDIS Initial Assessment Report For SIAM: P-Toluidine. 2005年引用) Jodinsky-Liebert J, Bennicelli HA. Effect of dietary fat on selected parameters of toxicity following 1- or 3-month exposure of rats to toluidine isomers. Int J Toxicol. 2005 Sep-Oct;24(5):365-76. Weisburger EK, Russfield AB, Homburger F, Weisburger JH, Boger E, Van Dongen CG, Chu KC. Testing of twenty-one environmental aromatic amines or derivatives for long-term toxicity or carcinogenicity. J Environ Pathol Toxicol. 1978 Nov-Dec;2(2):325-56.	ろ過(反応) 捕集 - ガスクロマトグラフ分析法	硫酸含浸ガラス繊維フィルター 1.0 L/min 100 min	0.17N水酸化ナトリウム3 mL + ルエン2 mL	GC/ECD	○
n-ブタン	106-97-8	500ppm	-	<p>8人のトボランティア(男性4名、女性4名)に環境制御チャバード内で1分間または1、2、8時間、250, 500, 1,000 ppmのイソブタンを単回ばく露したところ、投与関連の有害影響は観察されなかった。また、500 ppmのイソブタンに1日1、2、8時間、週5日、2週間にばく露し、生理学的測定のために、心臓及び肺の反応の評価、血液パラメータ、自発脳波、視覚誘発電位、認知検査、及びACTH刺激を実施した結果、有意な影響は見られなかった1)。</p> <p>雌雄F344ラット(ばく露時8週齢)の(対照群の雄40匹、雌20匹、ばく露群の雄各群20匹、雌各群10匹)に0, 1,000, 4,500 ppmのn-ブタン-ヘンダーミックス(50:50)およびイソブタン/イソヘンタノン混合物(50:50)を、6時間/日、5日/週、最大90日間吸入ばく露した結果、用量相関性のない臨床症状(一過性の円背位、嗜眠、断続的振戦)を示した。イソブタン/イソヘンタノン混合物1000ppmばく露群では、期間中の28日目の剖検で特徴的な腎臓の変化に伴う腎スコアの上昇がみられたが、ばく露終了時の腎スコアは両群での差は見られず、また他のばく露群では有意な臟器毒性の証拠は観察されなかった2)。</p> <p>以上より、n-ブタンとしてばく露によるヒトのNOAECを500 ppm (1,200 mg/m3)と判断し、これを八時間濃度基準値として提案する。</p>	-	ヒト	01 02	Stewart RD, Herrmann AA, Baretta ED, Forster HV, Sikora JJ, Newton PE, Soto RJ. Acute and repetitive human exposure to isobutane. Scand J Work Environ Health. 1977 Dec;3(4):234-43. Aranyi C, O'Shea WJ, Halder CA, Holdsworth CE, Cockrell BY. Absence of hydrocarbon-induced nephropathy in rats exposed subchronically to volatile hydrocarbon mixtures pertinent to gasoline. Toxicol Ind Health. 1986 Jul;2(1):85-98.	固体捕集 - ガスクロマトグラフ分析方法	Carbosieve S-III 2本を連結する 0.05 L/min 60 min	二硫化炭素 1 mL	GC/FID	○	
2-プロピル-1-オール	107-19-7	1ppm	-	<p>雌雄F344ラット各群10匹(0, 4, 8, 16, 32, 64ppmのプロパルギルアルコール(2-プロピル-1-オール)を1日6時間、週5日、14週間全身吸入ばく露した結果、肉眼的病変やその他の顕著な毒性反応は見られなかった。雄ラットでは16ppm以上ばく露群で雌雄に嗅上皮過形成が用量依存的に検出され、32ppm以上ばく露群では雌雄で嗅上皮の壊死が発生した。32および64ppmばく露3日後の雌で血清コレステロール活性の有意な低下が検出されたが、雄では23日目まで影響は認められなかった。なお、ブチリコレステラーゼ特異的な阻害剤を用いた分析により、これらの低下はブチリコレステラーゼによるものと考えられた。32および64ppmばく露3日後および23日目の雌雄で血中尿素窒素の有意な増加が観察されたが、ばく露終了時には有意差は見られなかった。血液学的パラメータは影響を受けなかった1)。</p> <p>雌雄Wistarラット各群10匹に1, 5, 25ppmのプロパルギルアルコール蒸気(純度99%)を1日6時間、週5日、合計65回ばく露した結果、死亡率や毒性の臨床症状、臨床化学および血液学的評価は認められなかった。最初の2週間に雄で統計的に有意な体重增加の抑制が認められたが、試験終了時には体重増加に有意な影響は認められなかった。25ppmばく露群では、腎臓の絶対および相対重量が増加した。これらのラットでは血清コレステロール活性もわずかに低下したが、肉眼的または病理組織学的な影響は認められなかった2)。</p> <p>以上より、動物試験の結果から、嗅上皮の過形成を臨界影響とした8 ppmをNOAELと判断し、不確実係数等を考慮した1 ppmを八時間濃度基準値として提案する。</p>	経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある(皮膚吸収性有害物質)。	嗅上皮の過形成	ラット	01 02	National Toxicology Program. Toxicology and carcinogenesis studies of propargyl alcohol (CAS No. 107-19-7) in F344/N rats and B6C3F1 mice (inhalation studies). Natl Toxicol Program Tech Rep Ser. 2008 Sep;(552):1-172. BASF AG. 1992b. Study on the Inhalation Toxicity of Propargyl Alcohol as a Vapor in Rats- 90 Day Test [in German]. Project No. 5010969/ 88100, BG No. 116. BASF, Ludwigshafen, Germany. November 4, 1992. cited in Acute Exposure Guideline Levels for Selected Airborne Chemicals, Vol.14, pp176-209. Committee on Acute Exposure Guideline Levels Committee on Toxicology Board on Environmental Studies and Toxicology Division on Earth and Life Studies.	文献1 2は共にGLPに準じたデザインでの試験が実施されており、亜慢性実験であることからキー論文候補とした。	臭化水素酸処理 Anasorb 747 捕集管(100 mg/50 mg) 0.05 L/min 120 min	脱着溶媒：トルエン(内標準物質を含まない) ガスクロマトグラフ-電子捕獲型検出器(GC/ECD)	○	

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果					捕集法/分析法								
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健 康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価	備考		
りん酸ジ-ノルマル-ブチル	107-66-4	5mg/m ³	-	雄性SDラット（雄9週齢、雌8週齢）各群10匹に0, 30, 100, 300, 1,000 mg/kg/日（雄44日間、雌40~51日間）のりん酸ジ-ノルマル-ブチル（DBP）を強制経口投与したところ、雄ラットにおいて、100 mg/kg/日以上の投与群では、膀胱粘膜に変性や潰瘍の形成を伴う上皮の過形成が、300 mg/kg/日以上投与群では、胃の前胃部上皮の角化亢進や過形成による粘膜の肥厚が認められた。さらに、1,000mg/kg/日投与群には、上皮の変性を伴った盲腸の拡張が認められ、体重増加は抑制され、死亡も認められた。一方、雌ラットについても、100mg/kg/日以下の投与群で、雄ラットと同様に膀胱・胃の粘膜障害が認められ、1,000mg/kg/日投与群では死亡も認められたほか、肝重量が増加していた。さらに、100mg/kg/日以上の投与群で、分娩あるいは分娩後に出産児の全例が死亡した雌ラットが認められた。これらの雌ラットには、胃粘膜びらんや潰瘍が共通して認められ、さらに、肝細胞の脂肪化および副腎皮質細胞の空胞化なども認められた。以上より、動物実験の結果から胃および膀胱における粘膜障害を臨界影響としたNOAELを30mg/kg/日と判断し、不確実係数等を考慮した5 mg/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。	経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある（皮膚吸収性有害物質）。	胃および膀胱における粘膜障害	ラット	01	Japanese Ministry of Health and Welfare: <i>Dibutyl Phosphate (CAS No 107-66-4)</i> , pp 55–58 in <i>Toxicity Testing Reports of Environmental Chemicals</i> , Vol 2, Rpt No ISSN 1340-3842, Chemicals Investigation Promoting Council, Tokyo, Japan (1995) (化学物質毒性試験報告 2巻)									
2-メチルベンタン	107-83-5	200ppm	-	SDラット（匹数不明）に1,500 ppmの2-メチルベンタン（純度98%）を9時間/日、5日/週、14週間吸入ばく露した結果、有意な体重増加抑制が認められた（抑制率不明）、神経活性を含む全身または局部的な所見は見れなかった。雄性SDラット各群10匹に0, 290, 1,160, 4,640 ppm（実測0, 281, 1,163, 4,636 ppm）の2-メチルベンタン（純度93.63%）を9時間/日、5日/週、13週間吸入ばく露した結果、4,640 ppmばく露の雄において、尿細管の壊死性変化および尿細管の再生が認められた（注：290, 1,160 ppmでも尿細管の再生が認められるが、对照群との差が見られないどちらも有害影響とはしなかった）。その他のばく露群において、雌雄ともに有害影響は認められなかつた。）以上より、動物実験の結果から尿細管の壊死性変化および再生を臨界影響としたNOAELを1,160ppmと判断し、不確実係数等を考慮した200ppmを八時間濃度基準値として提案する。	尿細管の壊死性変化および再生	ラット	01	Frontali N, Amantini MC, Spagnolo A, Guarasci AM, Saltari MC, Brugnone F, Perbellini L. Experimental neurotoxicity and urinary metabolites of the C5-C7 aliphatic hydrocarbons used as glue solvents in shoe manufacture. <i>Clin Toxicol.</i> 1981 Dec;18(12):1357-67.										
4-メチル-2-ペントノール	108-11-2	20ppm	40ppm	12人の男女ボランティアに本物質工業品の50 ppmをチャンバー内で15分間ばく露した結果、眼の刺激を生じたが、臭気は感知されなかった。鼻と喉の刺激は50 ppmへのばく露後のみ生じた。）雄性ラット（系統不明）各群12匹に0, 0.211, 0.825, 3.70 mg/L (0, 50.5, 198, または886 ppm) のMIBC蒸氣に6週間、週5日、6週間吸入ばく露した結果、死亡例、毒性の臨床症状、体重への影響、は認められなかつた。高用量投与群では血漿アルカホスカターゼの増加、腎臓重量増加および尿蛋白が検出されたが、ばく露に関連した病理組織学的影响（腎臓を含む）は観察されなかつた。）以上より、動物実験の結果から、臨界影響を腎障害としたNOAELを198 ppmと判断し、不確実係数等を考慮した20 ppmを八時間濃度基準値として提案する。また、ヒトのばく露試験の結果から短時間濃度基準値として40 ppmを提案する。	経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある（皮膚吸収性有害物質）。	腎障害	ラット	01	Silverman L, Schulte HF, First MW. Further studies on sensory response to certain industrial solvent vapors. <i>J Ind Hyg Toxicol.</i> 1946 Nov;28(6):262-6	文献1は短時間ばく露による影響として、本物質単独の試験結果が記載されている。文献2はMIBC (Methyl Isobutyl Carbinol; 4-メチル-2-ペントノール) 単独投与による希少な実験結果である。なお、最大投与量で有害性影響が認められなかつたとしている。	固体捕集 – ガスクロマグラフ分析方法	ヤシ酸活性炭管 (100 mg/50 mg) 溶媒脱着：二硫化炭素	0.01~0.2 L/min 5~1000 min	ガスクロマトグラフ–水素炎イオン化検出器(GC-FID)	○			
m-トルイジン	108-44-1	4mg/m ³	-	ヒトがToluidines (o-トルイジン(OT), m-トルイジン(MT), p-トルイジン(PT))40 ppmに60分間ばく露すると重篤な中毒、ばく露時間が長くなるとわずか10 ppmでも自覚症状や体調不良を実感する。雄性SDラット各群13匹に0, 30, 100, 300 mg/kg bw/dayのMTを、交配前・交配期間各2週間、さらに雌では交配期間終了後2週間、雌では妊娠期間・分娩後保育3日間で強制経口投与した結果、100 mg/kg bw/day以上投与群で有意な大球性貧血、肝及び脾の色沈着及び網内造血の亢進等溶血性貧血、30 mg/kg bw/day投与群で脾の赤色沈着及び網内造血の亢進等溶血性貧血、30 mg/kg bw/day投与群では腎臓を含む）は観察されなかつた。）以上より、動物実験の結果から、臨界影響を腎障害としたNOAELを198 ppmと判断し、不確実係数等を考慮した20 ppmを八時間濃度基準値として提案する。また、ヒトのばく露試験の結果から短時間濃度基準値として40 ppmを提案する。	経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある（皮膚吸収性有害物質）。	メトヘモグロビン、肝脂質過酸化指標の増加	ラット	01	Goldblatt MW. Research in industrial health in the chemical industry. <i>Br J Ind Med.</i> 1955 Jan;12(1):1-20.									
1,3,5-トリメチルベンゼン	108-67-8	10ppm	-	雄のWistarラットに1,2,3-TMB(CAS 526-73-8)および1,2,4-TMB(CAS 95-63-6)をそれぞれ25、100、250 ppmの濃度で6時間/日、5日/週、3ヶ月間吸入ばく露（蒸気）した。全くばく露群の臨床所見は異常は認められず、体重も对照群と有意差がなかつた。1,2,3-TMBばく露群では、100, 250ppmで一タリック試験での行動影響が、250 ppmで疼痛感受性の低下が、有意に認められた。1,2,4-TMBばく露群では、250ppmで一タリック試験での行動影響が、100, 250ppmで疼痛感受性の低下が、有意に認められた。）雄のWistarラットに1,2,3-TMB(CAS 95-63-6)を123, 492, 1,230 mg/m ³ (25, 100, 250 ppm)を1日6時間、週5日、3ヶ月間吸入ばく露したところ、雌では25 ppm以上で赤血球系の異常、雄では250 ppmで赤血球系の異常、赤血球数が減少したが、ヘモグロビン量、ヘモクリット値には影響がなかつた。凝固時間の延長が雌の100, 250ppmで認められた。雌雄ではばく露濃度に依存して肺胞マクロファージ数の増加が認められ、下気道への影響している。）以上より、動物実験の結果から神経毒性（行動影響および疼痛感受性の低下）および赤血球系の異常を臨界影響としたNOAELを25ppmと判断し、不確実係数等を考慮した八時間濃度基準値として10ppmを提案する。	1,3,5-トリメチルベンゼン単独の試験結果は調査した範囲では認められなかつたが、異性体による毒性の差は上記結果から顕著でないと考えられ、混合物の濃度基準値10ppmを用いて評価してよいと判断した。	神経毒性（行動影響および疼痛感受性の低下）および赤血球系の異常	ラット	01	Korsak Z, Rydzyński K. Neurotoxic effects of acute and subchronic inhalation exposure to trimethylbenzene isomers (pseudocumene, mesitylene, hemimellitene) in rats. <i>Int J Occup Med Environ Health.</i> 1996;9(4):341-9.									
							02	Korsak Z, Stetkiewicz J, Majcherek W, Stetkiewicz I, Jajte J, Rydzyński K. Subchronic inhalation toxicity of 1,2,3-trimethylbenzene (hemimellitene) in rats. <i>Int J Occup Med Environ Health.</i> 2000;13(3):223-32.	固体捕集–ガスクロマグラフ分析方法	活性炭管 (Anasorb CSC) 50 mL/min 240 min	二硫化炭素/N,N-ジメチルホルムアミド (99/1) 1 mL	GC/FID	○					
							03	Korsak Z, Stetkiewicz J, Majcherek W, Stetkiewicz I, Jajte J, Rydzyński K. Sub-chronic inhalation toxicity of 1,2,4-trimethylbenzene (pseudocumene) in rats. <i>Int J Occup Med Environ Health.</i> 2000;13(2):155-64.										

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果						捕集法/分析法									
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価	備考				
メチルシクロヘキサン	108-87-2	100ppm	-	<p>F344ラット(ばく露群と対照群を合わせて雄n=65、雌n=65)、ゴールデンシラハムスター(ばく露群と対照群を合わせて雄n=100)、C57BL/6Jマウス(ばく露群と対照群を合わせて雄n=200)、純血種のビーグル犬(ばく露群と対照群を合わせてn=8)にメチルシクロヘキサン0、400、2,000ppmを6時間/日、5日/週、1年間吸入ばく露した結果、雄ラットの2,000ppmばく露群で腎臓質の石灰化と腎乳頭上皮の過形成が有意に増加した。しかし、雌ラット、雌マウスおよびビーグル犬の2,000ppmばく露群では腎臓の変化は認めなかった1)。また、腫瘍については、ラット、マウス、ハムスターについて有害影響は認められなかった(ビーグル犬は腫瘍性病変の評価がされていない)1)。</p> <p>雌雄SDラット各群5匹に100、300、1,000mg/kg/dayのメチルシクロヘキサン1回/日、7日/週、28日間経口投与した結果、300以上投与群の雄ラットで腎臓の膀胱滴性が有意に認められ、雌では1,000mg/kg/dayで膀胱滴が認められた2)。</p> <p>SDラット(雌各群5匹、雌各群5匹)に250mg/kg/day以上投与群の雄ラットで腎尿細管に両側の膀胱滴が認められた。また、250以上投与群の雌ラットについて、肝臓、腎臓の絶対および相対重量が有意に増加した3)。</p> <p>以上より、動物試験の結果から、腎臓質の石灰化と腎乳頭上皮の過形成を臨界影響とした400ppmをNOAELと判断し、不確実係数等を考慮した100ppmを八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>文献2および3はACGIH-TLVのdocumentationにて引用されている。文献2において腎毒性は雌雄に見られており、本物質では♂20-クロシン以外の要因による腎毒性があると考えられる。</p>	<p>腎臓質の石灰化 と腎乳頭上皮の過形成</p>	ラット	01	Kinkead E, Haun C, Schneider M, Vernot E, Macewen J. Chronic inhalation exposure of experimental animals to methylcyclohexane. Dayton (OH); 1985.			<p>ヤシ殼活性炭管 (100 mg/50 mg) 脱着溶媒：二硫化炭素 20~400 min</p>	<p>固体捕集－ガスクロマトグラフ分析方法 0.01~0.2 L/min</p>	<p>ガスクロマトグラフ・水素炎イオン化検出器(GC/FID)</p>	○					
							02	REACH. Methylcyclohexane. Repeated dose toxicity: Oral, 002 Supporting-Experimental result. 2022.												
							03	REACH. Methylcyclohexane. Repeated dose toxicity, 001 Key-Experimental result. 2022.												
n-ブチルアミン	109-73-9	2ppm	-	<p>雌Wistarラットに0、51、151、460mg/m3(約0、17、50、1.52ppm)で1日6時間、妊娠6日から妊娠19日まで吸入ばく露した結果、母体では51mg/m3(17ppm)以上のすべての群で、呼吸上皮における扁平上皮化生および炎症細胞の浸潤が観察された。これらの症候を示した個体の割合は、17 ppm群では10%および30%であり、NOAEL <17 ppmと結論されている1)。なお17ppmでの影響は軽度と考え、LOELを17 ppmとした。</p> <p>雌Wistarラットに0、67、267、667 mg/kg/day(塩酸塩として)0、100、400、1,000 mg/kg/day)を妊娠6日～15日まで強制経口投与した結果、母体では最高用量でも影響は認められなかったが、胎児では267 mg/kg/day以上で内臓奇形が認められ、67 mg/kg/dayがNOAELであった1)。</p> <p>以上より、動物試験の結果から、呼吸上皮における扁平上皮化生および炎症細胞の浸潤を臨界影響としたLOELを17 ppmと判断し、不確実係数等を考慮した、2 ppmを八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>近年生殖毒性・発生毒性の知見があることから、今後早期に確認・検討が必要である。 ・経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある(皮膚吸収性有害物質)。</p>	<p>呼吸上皮における扁平上皮化生および炎症細胞の浸潤</p>	ラット	01	Gamer AO, Hellwig J, van Ravenwaay B. Developmental toxicity of oral n-butylamine hydrochloride and inhaled n-butylamine in rats. Food Chem Toxicol. 2002 Dec;40(12):1833-42.											
1-ブタンチオール	109-79-5	1ppm	-	<p>雌雄SDラット各群15匹に0、9、70、150 ppm (0、33、260、550 mg/m3) の1-ブタンチオールを6時間/日、5日/週、13週間全身吸入ばく露した結果、雌70ppm以上ばく露群で赤血球数の有意な低下がみられた。また、雌雄150ppmばく露群では肺胞マクロファージの増加が認められた1)。</p> <p>妊娠雌CDラット各群25匹に10、75、150ppmの1-ブタンチオールを6時間/日、14日全身吸入ばく露した結果、催奇形作用や母体毒性は認められなかつた2)。</p> <p>以上より、動物試験の結果から、血液系への影響を臨界影響としたNOAELを9 ppm (33 mg/m3)と判断し、不確実係数等を考慮した1ppm (3.7 mg/m3)を八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある(皮膚吸収性有害物質)。</p>	<p>血液系への影響</p>	ラット	01	International Research and Development Corp. 1982. Thirteen-week inhalation toxicity study of n-butyl mercaptan in rats. Unpublished study. cited in OECD HPV Chemical Program, SIDS Dossier approved at SIAM 30 (20-22 April 2010).											
							02	Thomas WC, Seckar JA, Johnson JT, Ulrich CE, Klonne DR, Schardelin JL, Kirwin CJ. Inhalation teratology studies of n-butyl mercaptan in rats and mice. Fundam Appl Toxicol. 1987 Feb;8(2):170-8.												
亜酸エチル	109-94-4	-	100ppm	<p>4種のカルボン酸、3種のアミン、半酸エチルを含む3種のエクステル、3種のケトン/アルコールおよびアンモニア塩化水素の嗅覚刺激についてヒボランティアを対象としたばく露実験を実施した。第一回目の実験では、72人の非喫煙者ヒボランティアから選ばれた対象者(人数不明)に、半酸エチルをおよそ45分間にばく露した結果、「嗅覚閾値」と「刺激閾値」の中央値はそれぞれ30 ppmと13,800 ppmであった。第二回目の実験では、48人のホランティアから選ばれた対象者(人数不明)に、半酸エチルを9段階の濃度(刺激閾値よりもやや高い濃度を基準に1/2.5-1/40で希釈)でばく露した際の臭気、刺激性、不快感の強度を点数化し、濃度と点数(中央値)との関連を一次回帰で評価した結果、100 ppmを超えた半酸エチルばく露では、臭気が中程度、刺激性が弱～中程度、不快感が弱～中程度であった。なお刺激性的スコアは100ppmよりも低いばく露で急峻に減少した1)。</p> <p>以上より、ヒトのボランティア実験から、45分間にばく露による上気道刺激性のNOAELを100 ppmと判断し、短時間濃度基準値として100 ppmを提案する。</p>		気道刺激性	ヒト	01	van Thriel C, Schäper M, Kiesswetter E, Kleinbeck S, Juran S, Blaszkiewicz M, Fricke HH, Altmann L, Berresheim H, Brüning T. From chemosensory thresholds to whole body exposures-experimental approaches evaluating chemosensory effects of chemicals. Int Arch Occup Environ Health. 2006 Apr;79(4):308-21.											
テトラヒドロオフェン	110-01-0	25ppm	-	<p>雌雄SDラット各群10匹に0、50、275、1,500 ppm (0、180、1,000、5,400 mg/m3) のテトラヒドロオフェンを6時間/日、5日/週で90日間吸入ばく露した結果、すべての群で尿済および唾液分泌が認められた(50ppmばく露群では統計学的には有意ではなかった)。その他の健影響は認められなかつた1)。</p> <p>以上より、動物試験の結果から、皮膚粘膜刺激症状を臨界影響としたLOELを50ppm(180mg/m3)と判断し、不確実係数等を考慮した25ppm(90mg/m3)を八時間濃度基準値として提案する。</p>		皮膚粘膜刺激症状	ラット	01	Pennwalt Corporation. 1998. Tetrahydrothiophene - 90-day inhalation. Huntingdon Research Centre. Report PWT 50/871158. June 1988, cited in US-EPA, Provisional Peer Reviewed Toxicity Values for Tetrahydrothiophene.									・捕集後できるだけ速やかに測定すること。		

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果					捕集法/分析法							
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価		
シクロヘキセン	110-83-8	20ppm	-	<p>雌雄Crj:BDFlマウス各群10匹に、0, 20, 40, 75, 150, 300 ppmのシクロヘキセンを1日6時間・週5日、13週間ばく露した結果、投与最終日の体重（対照群比）は、雄の300 ppm群90%、150 ppm群93%、75 ppm群92%、40 ppm群で91%、20 ppm群で95%となり、軽度な体重増加の抑制が認められた。雌では300 ppm群でも変化は認められなかった。</p> <p>雌雄F344ラット各群10匹に、0, 150, 300, 600, 1,200, 2,400 ppmのシクロヘキセンを1日6時間・週5日、13週間ばく露した結果、150 ppmでは全群で明らかな変化は認められなかった。</p> <p>雌雄Crj:BDFlマウス各群50匹に、0, 75, 150, 300 ppmのシクロヘキセンを1日6時間・週5日、10週間ばく露した結果、体重は300 ppm群の雌雄で最終体重は対照群と差を認めなかた。また、腫瘍/非腫瘍性病変とともにばく露による影響を認めなかた（3）。</p> <p>雌雄F344ラット各群50匹に、600, 1,200, 2,400 ppmのシクロヘキセンを1日6時間・週5日、10週間ばく露した結果、雌の肝臓では、肝海绵状変性的発生増加が1,200 ppm以上群に認められた（4）。</p> <p>以上より、動物試験（マウス）の結果からNOAELを300 ppmと判断し、不確実係数を考慮した20 ppmを八時間濃度基準値として提案する。</p>		-	マウス	01		日本バイオアッセイ研究センター：シクロヘキセンのマウスを用いた吸入による13週間毒性試験報告書(2000) 厚生労働省		固体捕集－ガスクロマグラフ分析方法	ヤシ殻活性炭管 0.01L/min 400 min	二硫化炭素 1 mL	GC/FID	○	
ビス(2-クロロエチル)エーテル	111-44-4	0.5ppm	-	<p>9週齢の雌雄 Crj:CD(SD)ラット各群12匹に2,2'-ジクロロエチルエーテル（オリーブ油）、0.6、3.15 mg/kg/dayを14日間強制経口投与後、最長14日間の交配期間を設けた後、雄は投与開始後42日目まで雌は分娩4日後まで投与した結果、雌雄動物の15mg/kg群で分娩率の低値がみられた。また、児動物に異常はみられないものの、0.6mg/kg以上群では生存率の低値及び着床後妊娠率の高値がみられた。なお、反復投与毒性に関するパラメータではなくて検査項目に被験物質投与の影響はみられなかつた。これらの結果より、本試験条件下における2,2'-ジクロロエチルエーテルの反復投与毒性に関する無毒性量(NOAEL)及び作用影響量(NOL)は、雌雄とともに被験物質投与の影響は認められなかつたため、雌雄いずれも最高用量である15 mg/kg/dayとした1）。なお0.6mg/kg以上の群では生存率及び着床後妊娠率の高値がみられたが、著者らは実測値である妊娠黄体数・着床痕数・出産児数及び生存出産児数を尊重して、これらの変化を無毒性量（NOAEL）の根拠とはしなかつた、としている1）。</p> <p>以上より、動物試験の結果から、毒性影響の見られなかつたNOAELを15 mg/kg/dayと判断し、不確実係数等を考慮した0.5 ppmを八時間濃度基準値として提案する。</p>		-	ラット	01	Chemicals Evaluation and Research Institute. Combined repeated dose and reproductive/developmental toxicity screening test of 2,2'-dichlorodieethyl ether by oral administration in rats. C11-0013. 2007.	文献1）はGPLのGLPに沿って実施されたものであり、生殖毒性のほか反復投与による毒性の評価がされている。	固体捕集－ガスクロマグラフ分析方法	ヤシ殻活性炭管 (100 mg/50 mg) 0.01~1 L/min 2~1500 min	ガスクロマトグラフ－水素炎イオン化検出器(GC/FID)	○			
ジエチレングリコール	111-46-6	10ppm	-	<p>雌雄Wistarラット各群10匹に0, 0.085, 0.17, 0.4, 2.0%（雄：0, 51, 105, 234, 1,194 mg/kg/day、雌：0, 64, 126, 292, 1,462 mg/kg/day）のジエチレングリコールを225日間混餌投与した結果、2.0%投与群では雌雄ともに対照群よりも体重の増加有意に減少した。0.4%および2.0%投与群の雄では、絶度の腎機能障害（飲水制限後の尿量の有意な増加）が認められた。また、0.4%および2.0%投与群では雌雄ともに尿中シウ酸塩結晶の出現率が有意に高かつた。尿中シウ酸塩濃度については、2.0%投与群では投与期間を経て对照群よりも有意に高く、0.4%投与群では、13週目以降は雄で、19週目以降は雌で、19週目以降の雌雄ともに对照群よりも有意に高かつた。</p> <p>0.17%投与群では19週目の雄で有意に高かつた（13.3%の増加）が、0.085%投与群では、期間を通して対照群と同等であった。なお、この尿中シウ酸塩の排泄量の増加は、ジエチレングリコールの一部がシウ酸に代謝されることの指標として捉えられており、毒性の指標と見なすことには議論の余地がある、としている1）。</p> <p>以上より、動物試験の結果から、毒性影響の見られなかつたNOAELを105mg/kg/day (0.17%投与相当値)と判断し、不確実係数等を考慮した10ppmを八時間濃度基準値として提案する。</p>		腎機能障害	ラット	01	Gaunt IF, et al. Studies of the toxicity of diethylene glycol in rats. BIBRA (The British Industrial Biological Research Association) Inf Bull 15: 217-218 (1976). cited in SIDS DOSSIER ON THE HPV CHEMICAL DIETHYLENE GLYCOL CAS No.: 111-46-6.								
2-(2-エキシエチキシ)エタノール 別名 ジエチレングリコールモノエチルエーテル	111-90-0	5mg/m ³	-	<p>雌雄SDラット各群5匹に0, 90, 270, 1,100 mg/m³のジエチレングリコールモノエチルエーテル（最高濃度ではスリト蒸気が50%、その他の濃度では蒸気ばく露）を6時間/日/週、4週間鼻腔吸入ばく露した結果、270, 1,100 mg/m³ばく露群は非特異的な上気道の刺激症状が認められ、これらの変化では喉頭の腹側軟骨の壊死症が認められた。また、最高濃度では鼻腔粘膜の嗅上皮での好酸性封入体がみられた。その他の検査項目（摂食量、体重、臨床症状、血液学的及び生化学的検査）では影響は観察されなかつた。著者らはこの結果からNOAELを90 mg/m³といている1）。</p> <p>以上より、動物試験の結果から、上気道の刺激症状および喉頭軟骨の壊死を臨界影響としたNOAELを90 mg/m³と判断し、不確実係数等を考慮した5mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>		-	上気道の刺激症状 および喉頭軟骨の壊死	ラット	01	Hardy CJ, Coombs DW, Lewis DJ, Klimisch HJ. Twenty-eight-day repeated-dose inhalation exposure of rats to diethylene glycol monoethyl ether. Fundam Appl Toxicol. 1997 Aug;38(2):143-7.							
ジエチレングリコールジメチルエーテル	111-96-6	1ppm	-	<p>ジエチレングリコールジメチルエーテル(DEGDME)の臨界影響は生殖毒性であるが、単独ばく露での疫学情報はなく、副次的な代謝産物の2-メトキシ酢酸が原因であることが支持されている1, 2）。</p> <p>CDラット各群20匹、雌10匹に、実測平均濃度0, 110, 370, 1,100 ppmのDEGDMEを6時間/日/5日/週、2週間鼻部ばく露した結果、雄では110 ppm以上ばく露群で10%超の体重增加抑制、白血球減少、370 ppm以上ばく露群でALP減少、前立腺・精巣重量減少、1,100 ppmばく露群で小腸・膀胱・精巣・精索・睪丸・上体を認め、雌雄ラット1,100 ppmで赤血球系減少、骨髄低形成、リンパ組織萎縮、血清蛋白減少が観察された3）。</p> <p>脚挫で確認された妊娠CD-1マウス22-24匹の妊娠6-15日に0, 62.5, 125, 250, 500 mg/kg bw/day DEGDMEを強制経口投与した結果、250 mg/kg bw/day以上投与群と母動物の体重減少、子宮蓄積低下、着床異常増加、先天性異常が認められ、125 mg/kg bw/day以上投与群で胎兒体重減少、100 ppmばく露群では先天性異常の増加はなかつたが、有意な未発達肋骨(rudimentary rib)変異の発生率が用量依存性に増加した4）。</p> <p>脚挫で確認された妊娠CD-1マウス22-24匹の妊娠6-15日に0, 62.5, 125, 250, 500 mg/kg bw/day DEGDMEを強制経口投与した結果、250 mg/kg bw/day以上投与群と母動物の体重減少、子宮蓄積低下、着床異常増加、先天性異常が認められ、125 mg/kg bw/day以上投与群で胎兒体重減少、100 ppmばく露群では先天性異常の増加はなかつたが、有意な未発達肋骨(rudimentary rib)変異の発生率が用量依存性に増加した4）。</p> <p>以上より、動物試験での生殖毒性を臨界影響としたLOAELを25 ppmと判断し、不確実係数等を考慮した1ppmを八時間濃度基準値として提案する。</p>		-	生殖毒性	ラット	01	MAK Commission. Diethylene glycol dimethyl ether. MAK Value Documentation, supplement. DFG 2021							

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果						捕集法/分析法				
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価
6,7,8,9,10,10-ヘキサクロロ-1,5,5a,6,9,9a-ヘキサヒドロ-6,9-メタノ-2,4,3-ベンツオキサチエビン=3-オキシド(別名:エンドスルファン)	115-29-7	0.1mg/m ³	-	雌雄SDラット各群50匹に、0,3,7,5,15,75ppm相当のエンドスルファンを2年間経口投与した結果、75ppm投与群で、雌雄において有意な体重増加抑制、雄において急速進行性糞球体腫瘍(0.42; historical range = 0.10-0.38)と腎動脈瘤(0.27; historical range=0.04-0.18)の発生率の軽度増加がみられた。同様に、雌雄のNMRJマウス各群60匹に、0,2,6,18ppm相当のエンドスルファンを2年間経口投与した結果、18ppm投与群で、雌の死亡率が高く、雄の体重増加抑制がみられた。いずれのばく露群においても、腫瘍の発生はコントロールと比較して有意な変化は認めなかったことより、ラット15ppm(雄:0.6mg/kg, 雌:0.7mg/kg)、マウス6ppm(雄:0.84mg/kg, 雌:0.94mg/kg)がNOAELと考えられた1)。雌雄ビーグル犬各群5匹(♂, 3, 10, 30ppm(雄:0.2, 0.7, 2mg/kg bw/day, 雄:0.2, 0.2, 1.8mg/kg bw/day))のエンドスルファンを12ヶ月経口投与した試験では有意な毒性所見は見られなかつた2)。なお遺伝毒性試験は、複数の哺乳類(ラット、マウス)および細胞において行われているが、positive/negativeの結果が混在しており、評価ができない2)。以上から、動物の知見から体重増加抑制を臨界影響とした0.6mg/kg bw/dayをNOAELと判断し、不確実係数を考慮した0.1mg/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。	経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある(皮膚吸収性有害物質)。	体重増加抑制	ラット	01	Hack R; Ebert E; Leist KH: Chronic toxicity and carcinogenicity studies with the insecticide endosulfan rats and mice. Food Chem Toxicol 33:941-950 (1995)	(ろ過+固体) 捕集-GC	OVS捕集管(グラスファイバーフィルター+XAD-2) 1.0 L/min 60 min	トルエン 3 mL	GC/ECD	○	IFV評価値: 0.0162 農薬として用いられるごとから、使用方法を考慮して固体捕集を組み合わせる。
テトラフルオロエチレン	116-14-3	2ppm	-	テトラフルオロエチレン(TFE)をF344/Nラット雌雄各60匹およびB6C3F1マウスに、6時間/日、5日/週、95週間(マウス)または103週間(ラット)、156 ppm(雄ラットのみ)、312、625、1250 ppm(雌雄ラット、雌マウス)をばく露した吸入試験の結果、統計学的に有意であった156 ppm、雄ラットおよび雌マウスにおける種々のタイプの腎臓および肝臓に関し、統計学的に有意であった312ppmが示されている1)。 以上の結果に基づき、雌マウスにおける肝細胞腫瘍および腎尿細管変性的LOAELを156ppmと判断し、不確実係数等を考慮した濃度基準値(時間加重平均) 2ppmを提案する。	厚生労働省の有害性評価書(2020)では遺伝毒性は無しと判断されている。 文献1)では156ppm以下のばく露濃度での有害性の有無が判断できないため、引き続き低濃度ばく露による有害性についての知見の整理が必要である。	肝細胞腫瘍、腎障害	ラット	01	US National Toxicology Program: Toxicology and Carcinogenesis Studies on Tetrafluoroethylene (CAS No. 116-14-3) in F344/N Rats and B6C3F1 Mice (Inhalation Studies). NTP TR 450. DHHS(NIH) Pub. No. 97-3366. NTP, Research Triangle Park, NC27709 (1997)	FTIR直読式センサー	FTIR直読式センサー	P	NIOSH NMAM 3800 (検証済) ☆一般的な捕集分析法が提案できないときにセンサーや検知管を採用できるか、の議論が必要		
1,2,3,4-テトラヒドロナフタレン	119-64-2	2ppm	-	雌雄F344/Nラット各群10匹および雌雄B6C3F1マウス各群10匹に0, 7.5, 15, 30, 60, 120ppmのテトラヒドロナフタレンを1日6時間、週5日、14週間ばく露した。ラットでは別途、雌雄各10匹のグループと同じ濃度に最大6週間にばく露して臨床病理学的検査を行い、またラット5匹のグループを2週間にばく露して、腎毒性を調査した。その結果、30ppm以上ばく露群ではラットマウス共にばく露4週間に褐色尿を認め、ラットでは雄の60ppm以上ばく露群および雌の5ppmばく露群以上に赤血球系の異常(ヘモグロビン4%、赤血球数8%)、マウスでは20ppmばく露群で赤血球系の低下(ヘマトクリット6%、赤血球10%の減少)腎毒性とともに認められ、網状赤血球の増加は、ラットマウスともに認められた。12週間後の尿検査では、雌雄ラットともに30ppm以上ばく露群で尿中のAST活性が有意に上昇し、60ppm以上ばく露群の雄ラットでLDH活性が有意に上昇し、原典ではこれは腎臓の損傷を示す所見であるとしている。雌ラット60ppm以上ばく露群では絶対腎臓重量が、雄ラット15ppm以上ばく露群との相対腎臓重量がそれぞれ有意に増加した。雌マウス30ppm以上ばく露群では肝臓の相対腎臓重量が有意に増加した。嗅上皮の壞死率はラット30ppm以上ばく露群で有意に高く、ラット60ppm以上ばく露群の嗅上皮の再生是有意に増加し、雌雄マウス60ppm以上ばく露群では嗅上皮再生がみられた1)。 以上より、赤血球系の異常を臨界影響とした15ppmをLOELと判断し、不確実係数等を考慮した2ppmを八時間濃度基準値と提案する。	文献1)では2年間の長期ばく露試験も実施されているが、対照群およびばく露群の生存率が低いことから採用せず、14週間にばく露試験の結果を用いた。	赤血球系の異常	ラット	01	National Toxicology Program. Toxicology and carcinogenesis studies of tetralin (CAS No. 119-64-2) in F344/N rats and B6C3F1 mice (inhalation studies). Natl Toxicol Program Tech Rep Ser. 2011 Apr;(561):1-198.						
1,2,4-トリクロロベンゼン	120-82-1	0.5ppm	-	SDラットに0, 3, 10 ppm (0, 23, 75 mg/m ³)の1,2,4-トリクロロベンゼン(1,2,4-TCB)を1日6時間、週5日、3ヶ月間吸入ばく露した結果、10 ppm群でウロボルフィリンの尿中排泄量の軽度の増加が観察され(影響は可逆的)、NOAELは3ppmと考えられた1)。 雄ラット各群20匹(0, 30, 100 ppm (0, 226, 754 mg/m ³)の1,2,4-TCBを1日7時間、週5日、44日間で30回吸入ばく露した結果、100 ppm群で肝重量および腎臓の相対重量に統計学的に有意な増加が認められ、30 ppmばく露群以上でウロボルフィリンの尿中排泄量が増加したことから、LOAECは30 ppm (226 mg/m ³)と考えられた2)。 SD系の離乳期の雌雄ラット各群10匹に1, 10, 100, 1,000 ppmの1,2,4-TCB 13週間混餌投与した結果、雄では高用量群で、肝臓の相対重量、腎臓重量および腎臓の相対重量が統計学的に有意に増加し、肝臓には集簇性の好塩基性増加、および脂肪浸潤による小葉間導管空胞化を特徴とする変化が認められた。甲状腺では胞巣の萎縮等が認められた。このことからNOAELは雌雄ともに100 ppm(雄:8.8 mg/kg bw/day, 雌:5.8 mg/kg bw/day)であった3)。 雌雄F344ラット各群50匹(0, 100, 350, 1,200 ppm (雄:0.55, 18.9, 66.7 mg/kg bw/day, 雌:0.6, 22.9, 79.3 mg/kg体重/日)の1,2,4-TCBを104週間混餌投与した結果、350 ppm投与群において、腎乳頭の石灰化および肝臓の脂肪変性の発生率が軽微に上昇したことに基づき、全身毒性のLOAELは350ppm、NOAELは100 ppmと考えられた4)。 以上より、ラットの腎臓および肝臓への影響を臨界影響としてNOAELを6.7 mg/kg bw/dayと判断し、不確実係数等を考慮した0.5 ppmを八時間濃度基準値として提案する。	腎臓および肝臓への影響	ラット	01	Watanaabe, P. G., H. O. Yakei, and R. J. Kociba. "Subchronic Toxicity Study of Inhaled 1, 2, 4-Trichlorobenzene in Rats." Dow Chemical USA. NTIS/OTS 84003A Doc. ID 878221105 (1977).							
トリエチルアミン	121-44-8	0.5 ppm	1ppm	ボランティア名を用いた制御された条件下でトリエチルアミン0.72ppmを4時間ばく露した結果、視力もしくはコントラスト感度に変化を及ぼさなかったが、1.56 ppmでは視力とコントラスト感度の測定可能な変化を、9.74 ppmでは視力とコントラスト感度の両方を損ねた1)。ヒトのトリエチルアミンのばく露による初期の明瞭な有害反応としての症状は角膜の変化であり、かすみ、ぱやけ及び輪状結膜炎を惹起する。ボランティアフォーム製作作業場の労働者19人を対象とした調査ではこれらの症状が3-4 ppmで発生したが、1-1.25 ppmでは発生しなかったことが報告されている2)。ボランティア名にリ江チルアミン10, 18, 34および48mg/m ³ を4~8時間のばく露した試験では、10mg/m ³ (2.4ppm)で視覚影響はみられなかった3)。 以上より、ヒトのばく露による影響から濃度基準値(時間加重平均) 0.5ppm、短時間ばく露による影響から濃度基準値(短時間ばく露限界) 1ppmを提案する。	視覚異常	ヒト	01	Järvinen P, Engström K, Riihimäki V, et al. Effects of experimental exposure to triethylamine on vision and the eye. Occup Environ Med 56:1-5 (1999)	固体捕集(反応)-ガスクロマトグラフ質量分析法	メタノール2mLを添加して振とう後500μLを分取し0.1N NaOH-MeOH溶液500μL加えて降り混ぜる	GC/MS	P			
							02	Åkesson B; Bengtsson M; Florén I: Visual disturbances after industrial triethylamine exposure. Int Arch Occup Environ Health 57:297-302 (1986).							
							03	Åkesson B, Florén I, Skerfving S. Visual disturbances after experimental human exposure to triethylamine. Br J Ind Med 42: 848- 850 (1985)							

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果					捕集法/分析法				
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法
ヘキサヒドロ-1,3,5-トリニトロ-1,3,5-トリアジン（15質量%の水で湿性としたものに限る）（別名シクロナイト）	121-82-4	0.5mg/m ³	-	<p>雌雄F344ラット各群75匹に0、0.3, 1.5, 8, 40mg/kg bw/dのシクロナイト(RDX)を2年間混餌投与した結果、40mg/kg bw/dでは、過活動、痙攣が先行する死亡率上昇が認められ、24週まで全て死んだ(平均生存期間14.6ヶ月)。なお、神経学的病理所見は検査されていない。血液学的には雌雄40mg/kg bw/d投与群で貧血がみられた軽度であり、網赤血球数の増加等の代償反応は見られなかった。雌雄40mg/kg bw/d投与群で血小板および白血球数の増加、雄8mg/kg bw/d投与群で血小板の増加がみられた。量反応関係は明確ではなくた。骨髄は正常範囲内であり、雄1.5 mg/kg bw/d投与群以上腎臓のモジテイン様色素の増加が認められ、雌雄40mg/kg bw/d投与群で腎外造血が認められたことから、貧血は末梢性であると考えられた。肉眼的な剖検所見には脾臓の肥大が示唆されたが、臟器重量分析ではこれを裏付けることができなかった。肝・腎の臟器重量の増加(雄40mg/kg bw/d投与群および雌8mg/kg bw/d投与群で認められ、低コストロール血症、低トリグリセリド血症、血清アルブミン/総タンパク質の低下、およびアルバムン/ガルターゼ活性の上昇により、肝毒性が示唆された)。40mg/kg bw/d投与群では腎臓では腎乳頭壞死、膀胱内腔の拡張および膀胱炎を伴う膀胱の拡張、生殖細胞変性および精巢萎縮が認められた。なお、雄1.5mg/kg bw/d以上投与群では白内障の発生率上昇が観察された。</p> <p>1)。雄性B6C3F1マウス各群85匹に0、1.5, 7, 35, 100mg/kg bw/dのRDXを104週間混餌投与した(最高用量は1週目に致死率が高いことから175mg/kg bw/dより減量された)結果、雌35mg/kg bw/d投与群以上および雄175/100mg/kg bw/d投与群で肝腫大が認められ、また雄35mg/kg bw/d投与群以上および雄175/100mg/kg bw/d投与群で腎重量の増加が見られたが、投与に関連した組織学的な有意な変化は明かでなかった。雌7mg/kg bw/d以上投与群では肝細胞んおよび腎臓の発生率が有意に増加した。ヒトカルコトロールを含めた解析では雌35mg/kg bw/d以上投与群で有意であった。統計的に有意ではないが、雄175/100mg/kg bw/d投与群で腎臓/尿管支管の増加、雄35mg/kg bw/d投与群以上で精巢変性の発生率の増加が見られた2)。</p> <p>文献2のB6C3F1マウス研究は保存されている組織学的切片で再評価された。以前の評価では、3%の用量(7, 35, 175/100 mg/kg bw/d)の雌マウスにおいて肝細胞腫瘍/癌の発生率が統計的に有意に増加していることが示された。再評価では、雌マウスの各用量レベルにおける発生率がやや低くなれた。肝細胞新生物の減少は、現在の診断基準に従って肝細胞腫瘍を細胞質変化的病変として再分類したことによる原因である。再評価は病理学ワーキンググループ(PWG)によって検討され、各病変の分類についてコンセンサスに達した。PWGはコーセンサス診断に基づき、対照群と比較して有意な増加を示したのは雄175mg/kg bw/d投与群である。肝細胞新生生物の発生率はB6C3F1雌マウスにおける自然発生の肝細胞新生生物の発生率の範囲内であった。RDXを35mg/kg bw/dの用量で投与した雌マウスにおける肝細胞新生生物の発生率の増加は、発がん作用の疑わしい証拠と解釈された3)。</p> <p>雌雄Fischer344ラット各群10匹に0, 4, 8, 10, 12, 15 mg/kg bw/dの用量で13週間、週7日投与した結果、雌雄とも8, 10, 12, 15mg/kg bw/d投与群で覚醒状態の変化、眼瞼下垂、唾液分泌の増加、口および鼻の周囲の血液の付着、粗い毛並み、震え、痙攣などが見られ、8 mg/kg bw/d以上投与群で雌雄合わせて2/20、5/20, 8/20, 7/200死亡が認められた。なお神經病理学的異常は見られなかった。雄では12および15 mg/kg bw/d投与群における脳重量の増加、10mg/kg bw/d以上投与群における体重および脳重量に対する相対的な精巢重量の減少、8mg/kg bw/d以上投与群における体重および脳重量に対する相対的な精巢重量の減少が見られた。雌では、10, 12(腎臓のみ)、または15mg/kg bw/d投与群で腎臓、肝臓、および腎臓の重量が増加し、10mg/kg bw/d以上投与群で相対的な脳の重量が増加し、10および15mg/kg bw/d投与群で相対的な脳に対する腎臓、肝臓、および腎臓の重量が増加した。赤血球平均細胞容積(MCV)の有意な増加は8(腎のみ)、10および12mg/kg bw/d投与群で観察され、8mg/kg bw/d以上投与群で雄のコレステロール値に有意な減少が観察された。病理組織学的の変化の発生率に有意な増加は観察されなかっ。12週目に雌15mg/kg bw/d投与群では絶縁の発現率は高かったが、この用量レベルではNOAEL/LOAEL境界のすぐ下にある可能性が高く、その影響の深刻さからLOAELと考られた4)。</p> <p>サル(雌雄不明)に0, 0.1, 1, 10mg/kg bw/dを連続90日間強制経口投与した結果、10mg/kg bw/d群で嘔吐及び流涎、強直性痙攣などの中枢神経系障害が頻繁にみられ、症状のみられた時の血清中の本物質濃度が2-3.7mg/Lだった。血液成分、血液生化学、臓器重量に投与に関連した影響は認められなかったが、10mg/kg bw/d群で実施された組織検査では、骨髄で巨核球の壊死、変性、肝臓で鉄を含む物質の沈着がみられた5)。</p> <p>以上より、動物実験の結果から、化膿性炎症を伴う前立腺肥大を臨界影響としたNOAELを0.3mg/kg bw/dと判断し、不確実係数等を考慮した0.5mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>雌雄F344ラット各群75匹に0、0.3, 1.5, 8, 40mg/kg bw/dのシクロナイト(RDX)を2年間混餌投与した結果、40mg/kg bw/dでは、過活動、痙攣が先行する死亡率上昇が認められ、24週まで全て死んだ(平均生存期間14.6ヶ月)。なお、神経学的病理所見は検査されていない。血液学的には雌雄40mg/kg bw/d投与群で貧血がみられた軽度であり、網赤血球数の増加等の代償反応は見られなかった。雌雄40mg/kg bw/d投与群で血小板および白血球数の増加、雄8mg/kg bw/d投与群で血小板の増加がみられた。量反応関係は明確ではなくた。骨髄は正常範囲内であり、雄1.5 mg/kg bw/d投与群以上腎臓のモジテイン様色素の増加が認められ、雌雄40mg/kg bw/d投与群で腎外造血が認められたことから、貧血は末梢性であると考えられた。肉眼的な剖検所見には脾臓の肥大が示唆されたが、臟器重量分析ではこれを裏付けることができなかった。肝・腎の臟器重量の増加(雄40mg/kg bw/d投与群および雌8mg/kg bw/d投与群で認められ、低コストロール血症、低トリグリセリド血症、血清アルブミン/総タンパク質の低下、およびアルバムン/ガルターゼ活性の上昇により、肝毒性が示唆された)。40mg/kg bw/d投与群では腎臓では腎乳頭壞死、膀胱内腔の拡張および膀胱炎を伴う膀胱の拡張、生殖細胞変性および精巢萎縮が認められた。なお、雄1.5mg/kg bw/d以上投与群では白内障の発生率上昇が観察された。</p> <p>1)。雄性B6C3F1マウス各群85匹に0、1.5, 7, 35, 100mg/kg bw/dのRDXを104週間混餌投与した(最高用量は1週目に致死率が高いことから175mg/kg bw/dより減量された)結果、雌35mg/kg bw/d投与群以上および雄175/100mg/kg bw/d投与群で肝腫大が認められ、また雄35mg/kg bw/d投与群以上および雄175/100mg/kg bw/d投与群で腎重量の増加が見られたが、投与に関連した組織学的な有意な変化は明かでなかった。雌7mg/kg bw/d以上投与群では肝細胞んおよび腎臓の発生率が有意に増加した。ヒトカルコトロールを含めた解析では雌35mg/kg bw/d以上投与群で腎臓/尿管支管の増加、雄35mg/kg bw/d投与群以上で精巢変性的発生率の増加が見られた2)。</p> <p>文献2のB6C3F1マウス研究は保存されている組織学的切片で再評価された。以前の評価では、3%の用量(7, 35, 175/100 mg/kg bw/d)の雌マウスにおいて肝細胞腫瘍/癌の発生率が統計的に有意に増加していることが示された。再評価では、雌マウスの各用量レベルにおける発生率がやや低くなれた。肝細胞新生物の減少は、現在の診断基準に従って肝細胞腫瘍を細胞質変化的病変として再分類したことによる原因である。再評価は病理学ワーキンググループ(PWG)によって検討され、各病変の分類についてコンセンサスに達した。PWGはコーセンサス診断に基づき、対照群と比較して有意な増加を示したのは雄175mg/kg bw/d投与群である。肝細胞新生生物の発生率はB6C3F1雌マウスにおける自然発生の肝細胞新生生物の発生率の範囲内であった。RDXを35mg/kg bw/dの用量で投与した雌マウスにおける肝細胞新生生物の発生率の増加は、発がん作用の疑わしい証拠と解釈された3)。</p> <p>雌雄Fischer344ラット各群10匹に0, 4, 8, 10, 12, 15 mg/kg bw/dの用量で13週間、週7日投与した結果、雌雄とも8, 10, 12, 15mg/kg bw/d投与群で覚醒状態の変化、眼瞼下垂、唾液分泌の増加、口および鼻の周囲の血液の付着、粗い毛並み、震え、痙攣などが見られ、8 mg/kg bw/d以上投与群で雌雄合わせて2/20、5/20, 8/20, 7/200死亡が認められた。なお神經病理学的異常は見られなかった。雄では12および15 mg/kg bw/d投与群における脳重量の増加、10mg/kg bw/d以上投与群における体重および脳重量に対する相対的な精巢重量の減少、8mg/kg bw/d以上投与群における体重および脳重量に対する相対的な精巢重量の減少が見られた。雌では、10, 12(腎臓のみ)、または15mg/kg bw/d投与群で腎臓、肝臓、および腎臓の重量が増加し、10mg/kg bw/d以上投与群で相対的な脳の重量が増加し、10および15mg/kg bw/d投与群で相対的な脳に対する腎臓、肝臓、および腎臓の重量が増加した。赤血球平均細胞容積(MCV)の有意な増加は8(腎のみ)、10および12mg/kg bw/d投与群で観察され、8mg/kg bw/d以上投与群で雄のコレステロール値に有意な減少が観察された。病理組織学的の変化の発生率に有意な増加は観察されなかっ。12週目に雌15mg/kg bw/d投与群では絶縁の発現率は高かったが、この用量レベルではNOAEL/LOAEL境界のすぐ下にある可能性が高く、その影響の深刻さからLOAELと考られた4)。</p> <p>サル(雌雄不明)に0, 0.1, 1, 10mg/kg bw/dを連続90日間強制経口投与した結果、10mg/kg bw/d群で嘔吐及び流涎、強直性痙攣などの中枢神経系障害が頻繁にみられ、症状のみられた時の血清中の本物質濃度が2-3.7mg/Lだった。血液成分、血液生化学、臓器重量に投与に関連した影響は認められなかったが、10mg/kg bw/d群で実施された組織検査では、骨髄で巨核球の壊死、変性、肝臓で鉄を含む物質の沈着がみられた5)。</p> <p>以上より、動物実験の結果から、化膿性炎症を伴う前立腺肥大を臨界影響としたNOAELを0.3mg/kg bw/dと判断し、不確実係数等を考慮した0.5mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>01</p> <p>Levine, B.S.; et al.: Determination of the Chronic Mammalian Toxicological Effects of RDX: (Twenty Four Month Chronic Toxicity/Carcinogenicity Study of Hexahydro-1,3,5-Trinitro-1,3,5-Triazine (RDX) in the Fischer 344 Rat), Phase IV, Vol. 1, NTIS Pub. No. AD- A160774. U.S. National Technical Information Service, Springfield, VA (1984).</p> <p>02</p> <p>Lish, P.M.; et al.: Determination of the Chronic Mammalian Toxicological Effects of RDX. Twenty-four Month Chronic Toxicity/Carcinogenicity Study of Hexahydro-1,3,5-Trinitro-1,3,5-Triazine (RDX) in the B6C3F1 Hybrid Mouse. Phase 6, Vol. 1. NTIS Pub. No. AD-A181766. U.S. National Technical Information Service, Springfield, VA (1987).</p> <p>03</p> <p>Parker GA, Reddy G, Major MA. Reevaluation of a twenty-four-month chronic toxicity/carcinogenicity study of hexahydro-1,3,5-trinitro-1,3,5-triazine (RDX) in the B6C3F1 hybrid mouse. Int J Toxicol. 2006 Sep-Oct;25(5):373-8.</p> <p>04</p> <p>Crouse, LCB; Michie, MW; Major, M; Johnson, MS; Lee, RB; Paulus, HI. (2006). Subchronic oral toxicity of RDX in rats. (Toxicology Study No. 85-XC-5131-03). Aberdeen Proving Ground, MD: U.S. Army Center for Health Promotion and Preventive Medicine.</p> <p>05</p> <p>Martin, D.P. and E.R. Hart (1976): Subacute toxicity of RDX and TNT in monkeys. NTIS/AD-A044650 (引用先：環境省リスク評価書 6巻（健康影響に関する暫定的有害性評価）)</p>	<p>ラット</p> <p>化膿性炎症を伴う前立腺肥大</p> <p>化膿性炎症を伴う前立腺肥大</p> <p>化膿性炎症を伴う前立腺肥大</p> <p>化膿性炎症を伴う前立腺肥大</p>	<p>ラット</p> <p>ラット</p> <p>ラット</p> <p>ラット</p> <p>ラット</p>	<p>グラスファイバーフィルター パックアップ トグラフ分析法</p> <p>ろ過-高速液体クロマトグラフ分析法 アセトニトリル 3 mL 1.0 L/min 120 min</p>	<p>HPLC/UV</p>	<p>○</p>	<p>・検出下限はOELの0.1倍を大きく下回っていたため測定可能と考えられるが、検量線は分析時に作成して確認する。 ・低濃度での保存安定性データがないので、捕集後速やかに分析する。</p>		
シマジン	122-34-9	0.5mg/m ³	-	<p>雌雄SDラット(慢性影響試験は対照群、高用量群は各40匹、低用量群、中用量群は各30匹)、発がん試験は各群50匹)C0, 10, 100, 1,000ppm(雄：0, 0.41, 4.17, 45.77mg/kg bw/day、雌：0, 0.52, 5.24, 63.1mg/kg bw/day)の用量のテニカルグレードのシマジン(純度96.9%)を2年間混餌投与した結果、雌雄の高用量投与群で体重増加抑制(雄：27.4%、雌：28.1%)がみられた。中用量および高用量投与群の雌ラットでは、赤血球数、ヘモグロビン、ヘマクリットの有意な減少、MCH、MCHC、白血球数の有意な増加が認められ、これらの影響に対する最低無影響量(NOEL)は10ppm(0.52mg/kg bw/day)であった。中用量以上投与群の雌のラットでは乳頭肥大(ん腫)の有意な増加が認められた1)。</p> <p>雌SDラット各群25匹C0, 30, 300, 600mg/kg bw/dayのシマジンを妊娠6-15日の期間中に強制経口投与した結果、300mg/kg bw/day以上投与群で胚/胎兒では骨化不全が、母体では体重増加抑制(10%前後)が認められた2)。</p> <p>以上より、動物実験の結果から、化膿性炎症を伴う前立腺肥大を臨界影響としたNOAELを0.5mg/kg bw/dayと判断し、不確実係数等を考慮した0.5mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>01</p> <p>Chronic toxicity/ Oncogenicity- rat- MRID 40614405, cited in US Environmental Protection Agency (US EPA): Memorandum: Simazine, review and/or reevaluation of data evaluation reports for SRR. From: HW Spencer to J Yowell, 8/24/1989 (1989).</p>	<p>体重増加抑制</p>	<p>ラット</p>	<p>02</p> <p>Teratology- rat- MRID 40614403, cited in US Environmental Protection Agency (US EPA): Memorandum: Simazine, review and/or reevaluation of data evaluation reports for SRR. From: HW Spencer to J Yowell, 8/24/1989 (1989).</p>						

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果					捕集法/分析法								
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健 康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価	備考		
2-フェノキシタノール	122-99-6	1mg/m ³	-	<p>雌雄Wistarラット各群5匹に0, 48.2, 246, 1,070 mg/m³の2-フェノキシタノールを1日6時間、週7日、14日間頭部のみ吸入ばく露した。蒸気濃度と濃度は約40mg/m³であるため、ミスト(エアリル)の割合は、低濃度群では約20%、高い2群では85%~90%（中濃度群）や100%（高濃度群）であった。その結果、肺では246 mg/m³以上ばく露群で呼吸上皮の軽微・軽度の過形成が認められ、鼻腔では246 mg/m³以上ばく露群で呼吸上皮の軽微・中程度の過形成、変性、化生、軽微・中程度の炎症細胞浸潤が主な影響と考えられた。なお著者らは、246mg/m³以上ばく露群で検出された喉頭での扁平上皮の変化は有害とはみなされないものであるとしている。</p> <p>雌雄F344ラット各群50匹に2,500, 5,000, 10,000ppmの2-フェノキシタノールを104週間混水経口投与した結果、雄に腎臓重量の増加、腎臓の尿路上皮過形成、および乳腺の鉢済沈着と壞死の発生増加、雌に腎臓重量の増加が認められた。また、血漿生化学的検査値の変化が雌雄ともに認められ変化があった。従ってNOAELは、雌雄とも5,000ppm群のみに認められた変化であった。従ってNOAELは、雌雄とも2,000ppm（雄：1.815g/kg bw/d、雌：2.144g/kg bw/d）であると考えられる。ながらん原性を示す証拠は得られなかった。</p> <p>雌雄B6D2F1マウス各群5匹に0, 10,000, 20,000ppmの2-フェノキシタノールを104週間混水経口投与した結果、雌雄とも10,000ppm以上の群で摂水量及び摂餌量の低下による体重増量の抑制は認められ、2-フェノキシタノールの毒性を考えられる変化は最高濃度の20,000ppm群でも認められなかった。従って、NOAELは雌雄とも20,000ppm（雄：1.815g/kg bw/d、雌：2.144g/kg bw/d）であると考えられる。ながらん原性を示す証拠は得られなかった。</p> <p>以上より、動物試験の結果から鼻腔及び肺での呼吸上皮への影響を臨界影響としたNOAELを48.2 mg/m³と判断し、不確実係数等を考慮した1mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>文献1は未出版文献であるが、DFG-MAKのdocumentationに詳しい実験デザインおよび結果の記載があることから、DFG-MAKのdocumentationの記載を引用した。</p>		01	BASF AG and The Dow Chemical Company (2007 c) Phenoxyethanol, subacute 14-day inhalation study in Wistar rats, liquid aerosol exposure. Experimental Toxicology and Ecology, BASF AG, Project No. 3610498/01187, BASF AG, Ludwigshafen, The Dow Chemical Company, Midland, MI, USA, unpublished report. Cited in DFG-MAK documentation "2-Phenoxyethanol", The MAK Collection for Occupational Health and Safety 2019, Vol 4, No 1.						Tenax TA + 石英 フィルター ろ過+固体 0.066L/min 60min	GC/MS	○	・粒径インハラブルに規定しない ・IFV評価値：20.4	
						02	日本バイオアッセイ研究センター、2-フェノキシタノールのラットを用いた経口投与によるがん原性試験（混水試験）報告書（2007）											
						03	日本バイオアッセイ研究センター、2-フェノキシタノールのマウスを用いた経口投与によるがん原性試験（混水試験）報告書（2007）											
プロピオンアルデヒド	123-38-6	20ppm	-	<p>雌雄各4匹のSPFラット（系統不明）に1,300 ppmのプロピオンアルデヒドを6時間×6回吸入ばく露した結果、肝細胞の空胞化がみられ、90 ppmを6時間×20回吸入ばく露した結果、何ら異常性兆候は見られなかった。</p> <p>雌雄1群各15匹のCDラットに0, 150, 750, 1,500 ppmのプロピオンアルデヒドを1日6時間、週7日、雄は52日間吸入ばく露し、雌は14日間ばく露後交配し、授乳4日目までばく露した結果、全てのばく露群で体重、体重増加、臨床症状と对照群と差がなかった。</p> <p>組織学的には、雌雄の喉上皮の空胞化は150ppmより750ppmばく露群では見られたが、1,500ppmでは見られず、喉上皮の萎縮は750ppm以上ばく露群で見られた。扁平上皮化生は雄750ppmばく露群で見られた。効率率や子の生存率など、生殖指標に影響は見られなかった。</p> <p>雄B6C3F1マウス各群3-4匹に1,052, 1,464, 2,062, 4,546 ppm、雄Swiss-Websterマウス各群3-4匹に590, 820, 1,450, 2,074 ppmのプロピオンアルデヒドを10分間ばく露し、呼吸数を測定したところ、呼吸数50%減少値(RD50)は約2,000 ppmだった。</p> <p>職業性ばく露限界値が存在する、刺激性を有する89の化学物質について、さまざまな系統の雄マウスで得られた154個のRD50値について、職業性ばく露限界値とRD50値を比較したところ、職業性ばく露限界値と0.03 × RD50値に高い相関 (R² = 0.78) があることが示された⁴⁾。</p> <p>以上より、動物実験結果における呼吸数の低下(RD50)を標的影響とし、本物質のRD50のばく露濃度である2,000ppmを基に、不確実係数等を考慮した20 ppmを八時間濃度基準値として提案する。</p>		呼吸数の低下 (RD50)	マウス	01	Gage JC. The subacute inhalation toxicity of 109 industrial chemicals. Br J Ind Med. 1970 Jan;27(1):1-18.				酸性化された1.0 mgの2,4-ジニトロフェニルヒドランジでコー ティングされた 0.35 gのシリカ ゲル捕集管 0.1~1.5 L/min 0.7~150 min					
						02	Union Carbide, Inc.: Bushy Run Research Center Report 91UO086. Draft. Union Carbide, Inc., Export, PA (1992).											
						03	Steinhagen WH, Barrow CS. Sensory irritation structure-activity study of inhaled aldehydes in B6C3F1 and Swiss-Webster mice. Toxicol Appl Pharmacol. 1984 Mar 15;72(3):495-503.											
						04	Schaper M. Development of a database for sensory irritants and its use in establishing occupational exposure limits. Am Ind Hyg Assoc J. 1993 Sep;54(9):488-544.								・高濃度での破過試験 データがないため、高濃度の場合サンプラーを2本直列とする。			
2-アミノ-2-メチルプロパノール	124-68-5	1ppm	-	<p>雌雄ビーグル犬各群6匹に2-アミノ-2-メチルプロパノール (AMP-HCl (47.1%)) を0, 0.1, 1.1, 11.0 ppm（雄：0, 0.031, 0.31, 2.98 mg/kg bw/day、雌：0, 0.29, 0.31, 2.55 mg/kg bw/day）で1年間経口投与した結果、行動、体重、摂食量、眼底検査、臨床化学および血液学検査、臓器重量、病理組織学的検査において、いずれの投与量で影響は認められなかった。NOAELは、雄で2.98mg/kg bw/day、雌で2.55mg/kg bw/dayと判断した¹⁾。</p> <p>雄のSwissマウス各群4匹に185-1,600mg/m³の2-アミノ-2-メチルプロパノールを濃度80分間、単回吸入ばく露し、その後20分間室内空気のみばく露を実施した結果、RD50（呼吸数50%減少濃度）は640mg/m³ (175ppm) であった²⁾。</p> <p>以上より、動物実験結果の結果から、有害影響を認めない2.98mg/kg bw/dayをNOAELと判断し、不確実係数等を考慮した1ppm (3.64 mg/m³) を八時間濃度基準値として提案する。</p>			01	Dow Chemical Company (2010), IUCLID 2-amino-2-methylpropanol. Robust Summaries & Test Plan: 2-amino-2-methylpropanol.										
						02	Detwiler-Okabayashi KA, Schaper MM. Respiratory effects of a synthetic metalworking fluid and its components. Arch Toxicol. 1996;70(3-4):195-201.											
2-クロロ-1, 3-ブクジエン (別名：クロロブクジエン)	126-99-8	1ppm	-	<p>2年間のマウスおよびラットの、12.8, 32, 80 ppmの吸入ばく露試験から雄マウスのすべての投与群で肺、循環器および腎臓に腫瘍性病変を誘発することが報告されている¹⁾。2007年に報告された5000人以上の労働者を対象とした60年間の追跡調査研究においては平均濃度5.23 ppmではもん quo死率は有意な増加はないとしている²⁾。また、発がんについてヒトではマウスよりも感受性が低いとの報告がある³⁾。以上のことから、腫瘍性病変の発生に対する12.8 ppmをLOAELとし、不確実係数等を考慮した1 ppmを濃度基準値（時間加重平均）として提案する。</p> <p>ヒトへの発がんについては現時点では懷疑的であるが、クロロブクジエンリスク評価書において遺伝毒性あり評価されていることから、今後検討が必要</p>		複数臓器での腫瘍性病変	マウス・ラット	01	National Toxicology Program. NTP Toxicology and Carcinogenesis Studies of Chloroprene (CAS No. 126-99-8) in F344/N Rats and B6C3F1 Mice (Inhalation Studies). Natl Toxicol Program Tech Rep Ser. 1998 Sep;467:1-379.									
						02	Marsh GM, Youk AO, Buchanich JM, Cunningham M, Esmen NA, Hall TA, Phillips ML. Mortality patterns among industrial workers exposed to chloroprene and other substances. II. Mortality in relation to exposure. Chem Biol Interact. 2007 Mar 20;166(1-3):301-16.											
						03	(種間のPBPKモデルの検討)		Allen BC, Van Landingham C, Yang Y, Youk AO, Marsh GM, Esmen N, Gentry PR, Clewell HJ 3rd, Himmelstein MW. A constrained maximum likelihood approach to evaluate the impact of dose metric on cancer risk assessment: application to β-chloroprene. Regul Toxicol Pharmacol. 2014 Oct;70(1):203-13.									
										合成樹脂活性炭管 SIBATA 100mg/50mg 0.1 L/min 2~4時間	10%アセトン/二硫化炭素 2mL	GC/FID	○					

物質名	CAS-RN	八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	濃度基準値提案箇		その他のコメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	文献調査結果	捕集法/分析法								
				提案理由								捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価	備考			
フタル酸ジメチル	131-11-3	5mg/m ³	-	フタル酸ジメチル（蒸気）を吸入すると、上気道、結膜、特に鼻粘膜が刺激される。吸入が長引くと中枢神経系に作用し、麻痺を引き起こす可能性がある。また、ネビマスを使用して実験が実施された。ネコに2, 10 mg/l (2,000, 10,000 mg/m ³) のフタル酸ジメチル（蒸気）を吸入させた結果、2,000mg/m ³ 群では、粘膜の激しい刺激、唾液の分泌、落ち葉のなさが見られた。10,000 mg/m ³ 群では、動物（動物種不明）は落としたように見え、1匹が死亡した1)。	AICIS(NICNAS)では、文献4のフタル酸ジエチル (CAS 84-66-2) を用いた知見に基づきNOAELの設定について「構造類似性およびトレンド分析の結果より、フタル酸ジメチルの高用量における生殖能力および発育への影響を補完するうえで適切であると考えられる」としており、専門家会議では当該意見を採用した。NICNAS 2014, Dimethyl phthalate, No37,	ラット	血清テストステロン値の減少、精子の形態異常	01 Flury, Klimmer, and Eller, 1937 cited in Lefaux R: Industrial toxicology of monomers and various metals. In: Practical Toxicology of Plastics, pp. 66 - 153. Chemical Rubber Co., Cleveland, OH (1968). 02 Timofievskaia LA, Aldyrev, MV, & Kazbekov IM (1974) Experimental studies on the effect of phthalate plasticizers on the organism. Gigiena i sanitarija, 12: 26-28. Cited in Dimethyl Phthalate. 03 U.S. National toxicology program. Developmental toxicity of dimethyl phthalate (CAS NO. 131-11-3) administered to CD rats on gestational days 6 through 15. NTP Study TER88066. NTP, Research Triangle Park, NC(1989). 04 Fujii S, Yabe K, Furukawa M, Hirata M, Kiguchi M, Ikka T. A two-generation reproductive toxicity study of diethyl phthalate (DEP) in rats. J Toxicol Sci. 2005 Dec;30 Spec No.:97-116.												
				ラットSD (CD) ラットにフタル酸ジメチルを0, 0.25, 1.0, 5.0% (推定値0, 200, 840, 3,570 mg/kg bw/day)、妊娠6-15日間に摂餌投与した。(同条件の試験を2回実施、15匹/群)試験) 結果、母動物の3,570 mg/kg bw/day投与群において体重増加抑制が認められた。また、児については、いずれの投与群においても、胚/胎児の生存、成長、骨格、奇形の発生率など特に影響は認められなかつた3)。																
				雌雄Crj: CD (SD) IGSラット各群24匹にフタル酸ジエチル (CAS 84-66-2、純度99.8%) を0, 40, 197, 1,016 mg/kg bw/dayで15-17週間混餌投与する二世代生殖毒性試験の結果、197 mg/kg bw/day投与群で血清テストステロン値の減少 (F0) 、精子の形態異常が認められ (F0, F1) 、1,016 mg/kg bw/day 投与群で新生児出生後21日目 (F1, F2) の体重減少が認められた4)。																
				以上より、動物試験の結果から血清テストステロン値の減少、精子の形態異常を臨界影響としたNOAELを40 mg/kg bw/dayと判断し、5 mg/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。																
キャプタン	133-06-2	5mg/m ³	-	ニージーランド白色種 (NZW) の雌ウサギ各群14-18匹の妊娠7-19日に0、10、40、160mg/kg bw/dayのキャプタン (溶媒:0.5%カルボキシメチセルロース(CMC)) 溶液を強制経口投与した結果、40mg/kg bw/day以上投与群において母動物で体重増加抑制、160 mg/kg bw/day投与群の胎児で骨格変異が認められ、NOAELは母動物で10 mg/kg bw/day、胎児で40 mg/kg bw/dayと考えられた。催奇形性は認められなかつた1)。	高濃度ばく露での動物での発がん及びin vitroでの遺伝毒性の可能性が指摘されていることから、引き続き情報の収集が必要である。	ウサギ	体重減少（母動物）、骨格変異（児）	01 Rubin, Y. & Nyska, A. Captan teratology study in the rabbit. Unpublished report No. MAK/099/CAP from Life Science Research Israel Ltd. Submitted to WHO by Makhteshim Chemical Works, Beer-Sheva, Israel, 1987 cited in JMPR: "CAPTAN (addendum)", Pesticide residues in food – 2004. Report of the Joint Meeting of the FAO Panel of Experts on Pesticide Residues in Food and the Environment and the WHO Expert Group on Pesticide Residues. 02 Tinston D.J (1991) Captan: teratogenicity study in the rabbit. Unpublished report No. CLT/P/3039 from ICI Americas. Submitted to WHO by Makhteshim Chemical Works, Beer-Sheva, Israel, 1991. cited in JMPR: "CAPTAN (addendum)", Pesticide residues in food – 2004. Report of the Joint Meeting of the FAO Panel of Experts on Pesticide Residues in Food and the Environment and the WHO Expert Group on Pesticide Residues. 03 Goldenthal, E.; Warner, M.; Rajasekaran, D.; et al. (1982) 2-year Oral Toxicity/Carcinogenicity Study of Captan in Rats: 153-097. (Unpublished study received Nov 18, 1982 under 476-2099; prepared by International Research and Development Corp., submitted by Stauffer Chemical Co., Richmond, C), cited in The Reregistration Eligibility Decision of Captan, UNITED STATES ENVIRONMENTAL PROTECTION AGENCY, WASHINGTON, D.C. , 1999. (農業評価書「キャプタン」(第3版), 2021, 食品安全委員会にて引用) .									0.1Mトリエチルアミンrin酸塩含有(0.2%)アセトニトリル溶液(pH6.9-7.1)2 mL	HPLC/UV	◎	IFV評価値: 0.0315 ・農薬でスプレー散布を行ったため、ろ過捕集と固体捕集の組合せ捕集とする ・メタノールや水溶液中では冷凍保存でなければ解する。
				雌雄NZWウサギ各群20匹の妊娠7-19日に0、10、30、100 mg/kg bw/dayのキャプタン (溶媒:コーン油) を塗抹経口投与した結果、100 mg/kg bw/day投与群の例に流産の兆候が観察された。母動物では30 mg/kg bw/day以上投与群において体重減少等が、胎児では第13肋骨過剰等の骨格変異が認められた。この結果NOAELは母動物及び胎児ともに10 mg/kg bw/dayと考えられた2)。																
				雌雄SDラット (発がん性試験群:各群50匹、12、18か月後及び殺群:各群10匹) に25, 100, 250 mg/kg bw/dayのキャプタンを2年間経口投与した結果、雌雄ともに100 mg/kg bw/day以上投与群において、体重増加抑制、肝肥大等が認められた。腫瘍性病変は認められなかつた3)。																
ビス(N,N-ジメチルジチオカルバミン酸)亜鉛 (別名: ジラム)	137-30-4	0.01mg/m ³	-	雌雄F344ラット各群80匹に0, 20, 200, 2,000 ppm (雌: 0, 0.7, 6.9, 74 mg/kg bw/day, 雄: 0, 0.83, 8.5, 91 mg/kg bw/day) のジラムを2年間摂餌投与した結果、雌雄200ppm以上投与群で甲状腺濾胞上皮過形成が観察された。また、雌雄2,000 ppm投与群で体重低下、座骨神経変性、血清カリシウム低下、雄で後肢屈曲、膝関節伸展制限、脛骨・大腿骨骨端閉鎖不全、甲状腺濾胞上皮過形成、精巢間質細胞腫、雌2,000 ppm投与群で赤血球数低下を認めた1,2)。	気道・肺への局所影響	ラット	01 Enomoto A, Harada T, Maita K, Shirasu Y. Epiphyseal lesions of the femur and tibia in rats following oral chronic administration of zinc dimethylthiocarbamate (ziram). Toxicology. 1989 Jan;54(1):45-58. 02 Maita K, Enomoto A, Nakashima N, Yoshida T, Sugimoto K, Kuwahara M, Harada T (1997) Chronic toxicity studies with ziram in F344 rats and beagle dogs. J Pestic Sci 22: 193-207 03 UCB, Elf Atochem, FMC Foret (2001) Ziram technical, 28 day repeat dose snout only inhalation toxicity study in rats with a 28 day reversibility report. Huntingdon Life Science Ltd, UCB 709/003932, 23 May 2001, UCB, Brussels, Belgium, Elf Atochem Agri, Plaisir Cedex, France, FMC Foret, Barcelona, Spain, unpublished report. Cited in Ziram [MAK Value Documentation, 2015], Volume 1, Issue 4, October 2016.													
				雌雄Beagle犬各群6匹に0, 0.2, 1.0, 5.0 mg/kg bw/dayのジラムを7日/週、ゼラチンカゼインで2年間経口投与した結果、雌1.0 mg/kg bw/day以上投与群でALPの有意な増加を認め、雌雄5.0 mg/kg bw/day投与群で持続性的下痢や粘液便、総コレステロールの有意な増加を認めた1,2)。																
				雌雄SDラット各群5匹に、空気力学的質量中央径 (MMAD) 1.8~2.0 μmのジラム0, 0.1, 0.3, 1.0, 3.0 mg/m ³ を6時間/日、5日/週、28日間鼻部吸入ばく露した結果、0.3 mg/m ³ 以上ばく露群で喉頭の扁平上皮化生、腺側上皮の過形成、軟骨壊死、1.0 mg/m ³ 以上ばく露群で肺の重量の増加、線維症、肉芽腫性炎症、細気管支過形成、細気管支炎等が観察されたが、全身的な影響は観察されなかつた3)。																
2-メチルブタノール	137-32-6	10ppm	-	雌雄SDラット各群10匹に0, 30, 100, 300, 1,000mg/kg bw/dの2-メチルブタノール90日間強制経口投与したところ、300mg投与群以上の雌でASTの上昇が認められ、1,000mg投与群の雌雄全例で投与期間中涎が継続的に認められ、雄ではヘモグロビン量の増加とLDHの低下が認められた。一方、ALTを始めとする他の逸脱酵素の変化、病理組織学的な変化は認められなかつた。また、眼科学的検査では300mg投与群の雌1例、1,000mg投与群の雌2例において眼底の血柱反射の亢進、1,000mg投与群の雌で心臓の相対重量の増加が認められた1)。	眼底の血柱反射の亢進およびASTの上昇	ラット	01 財団法人食品農医薬品安全性評価センター：2-メチルブタノールのラットにおける90日間反復経口投与毒性試験、2004. 引用先：食品安全委員会添加物評価書 2-メチルブタノール (2006年10月) .								球状活性炭管0.2 L/min 240 min	二硫化炭素5 mL	GC/FID	◎	できるだけ捕集後速やかに分析する。	
				以上より、動物実験の結果から、眼底の血柱反射の亢進およびASTの上昇を臨界影響としたNOAELを100mg/kg bw/dとし、不確実係数等を考慮した10 ppm (35 mg/m ³) を八時間濃度基準値として提案する。																
乳酸ノルマルブチル	138-22-7	10mg/m ³	-	雄ラット (系統不明) 6匹に0, 75, 200, 600 mg/m ³ の乳酸ノルマルブチルを6時間/日、5日/週で28日間吸入ばく露した結果、600 mg/m ³ 群では鼻腔の局所的な移行上皮過形成および呼吸上皮杯細胞の過形成が認められた。その他の影響は見られなかつた1)。	皮膚粘膜の刺激症状	ラット	01 Clary JJ, Feron VJ, van Velthuijsen JA. Safety assessment of lactate esters. Regul Toxicol Pharmacol. 1998 Apr;27(2):88-97.						ヤシ殻活性炭管0.20 L/min 50 min	ジクロロメタン/メタノール (95/5) 1 mL	GC/FID	◎				

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果						捕集法/分析法										
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価	備考					
p-メトキシフェノール	150-76-5	10mg/m ³	-	雌雄Wistarラット各群10匹に0、50、150、300 mg/kg/dayのp-メトキシフェノールを、雄は28日、雌は約53日(交配前14日、交配期間14日(最長)、妊娠期間21日、出産後4日)経口投与した結果、雌雄の300mg/kg/day投与群で摂餌量の減少と体重増加抑制が認められた1)。生殖発生毒性については、各群露群で雌雄の親動物および雌雄の児動物に有害影響は認められなかった2)。	近年発がんに係る知見がみられるから、今後の知見の収集が必要である。 以上より、動物試験の結果から、摂餌量の減少と体重増加抑制を臨界影響としたNOAELを150 mg/kg/dayと判断し、不確実係数等を考慮した10 mg/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。	摂餌量の減少と体重増加抑制	ラット	01 02	ECHA REACH Toxicological information Repeated dose toxicity: oral study report, Unnamed, 2009, https://echa.europa.eu/registration-dossier/-/registered-dossier/16005/7/6/2 . ECHA REACH Toxicological information Toxicity to reproduction study report, Unnamed, 2009, https://echa.europa.eu/registration-dossier/-/registered-dossier/16005/7/9/2 .	固体捕集ガスクロマトグラフ分析方法	XAD-7捕集管 0.2 L/min 100 min	メタノール 1 mL	GC/FID	○							
2-ブロモ-2-クロロ-1,1,1-トリフルオロエタン(別名: ハロン)	151-67-7	0.1ppm	-	麻酔科医、看護師、手術室勤務の看護師/技師を対象としたアンケート調査によると、手術室勤務の看護師/技師の女性では自然流産、子どもの先天異常、がん、肝臓および腎臓病が増加することが認められた。しかし、麻酔薬のばく露量は不明である1)。	妊娠中のSDラット8匹に10 ppmのハロタンを8時間/日、5日/週で妊娠期間中、吸入ばく露した結果、児の肝臓に、肺軸形成、局所的細胞質分解、脂肪変化、細胞壞死などが観察された2)。	ICRマウス16匹、SDラット16匹、モルモット48匹(系統、性別不明)に15、50、150、3,000 ppmのハロタンを35日間連続吸入ばく露(ばく露時間不明)した結果、全種で体重増加抑制が認められ、特にラットでは150、3,000 ppmばく露群で有意差が認められた。また、肝臓で過形成などの所見が用量依存的に認められた3)。	雌雄SDラット各群5匹に0、10、500 ppmのハロタンを8時間/日、5日/週、8週間(10 ppmばく露群)、4週間(500 ppmばく露群)吸入ばく露した結果、10ppmばく露群以上で神経細胞に粗面小胞体が観察され、皮質ニューロンではアルジ体の拡張と局所的な細胞質空胞化が観察された4)。	雄F344ラット24匹に20 ppmのハロタンを24時間/日、7日/週、30週間、吸入ばく露した結果、肝細胞壊死は認められなかつたが、血清アラニンアノラニンスルター活性のわずかな上昇、肝臓肥大、肝ミクロソームP450含有量の増加、および肝臓の脂肪変化が認められた5)。	雌雄SDラット各群8匹に0、10、500 ppmのハロタンを8時間/日、5日/週、8週間(10 ppmばく露群)、4週間(500 ppmばく露群)吸入ばく露した結果、10ppmばく露群以上で一部の肝細胞に細胞線維が蓄積した。また、局所的な細胞質分解、毛細胆管の拡張なども認められた6)。	雌雄SDラット各群8匹に0、10、500 ppmのハロタンを8時間/日、5日/週、8週間(10 ppmばく露群)、4週間(500 ppmばく露群)吸入ばく露した結果、10ppmばく露群以上で、近位尿細管の変化などが認められ、その程度は用量依存的であった7)。	以上より、動物試験の結果から肝臓、腎臓、神経系、胎児への影響を臨界影響としたLOAELを10ppm/dayと判断し、不確実係数等を考慮した0.1ppmを八時間濃度基準値として提案する。	肝臓、腎臓、神経系、胎児への影響	ラット	01 02 03 04 05 06 07	Anasorb CMSまたはAnasorb 747(140 mg/70mg) 50 mL/min	脱着溶媒：二硫化炭素	GC/FID	○			
ジチオリン酸O,O-ジエチル-S-エチルチオメチル(別名: ホレート)	298-02-2	0.05. mg/m ³	-	ラット(系統不明)にホレートを0.011、0.033、0.1、0.3、0.6、0.9 mg/kg/dayで90日摂餌投与した。0.1mg/kg/dayで雌に赤血球コレステラーゼ(RBC-ChE)活性阻害が認められた1)。	雌雄ラット(系統不明)各群50匹に0.05、0.15、0.3mg/kg/dayのホレートを24ヶ月摂餌投与した結果、0.3 mg/kg/day投与群でRBC-ChE活性阻害が認められ、0.15 mg/kg/day以上投与群で雌にChE活性阻害が認められた。また、ラットの腫瘍発生については変化なく、この試験条件下では発がん性があるとは考えられなかつた2)。	雌雄CD-1マウス各群50匹0、0.15、0.45、0.9 mg/kg/dayのホレートを78週摂餌投与した結果、25週目で0.9 mg/kg/day投与群の雌に軽度の体重増加抑制が認められた。また、マウスの腫瘍発生については変化なく、この試験条件下では発がん性があるとは考えられなかつた3)。	雌雄ビーグル犬各群6匹に0、0.005、0.01、0.05、0.25 mg/kg/dayのホレートをカゼルで12ヶ月経口投与した結果、0.25 mg/kg/day投与群の雌雄でわずかな体重の震えを認め、雄では体重増加抑制が認められた。赤血球および脳のChE活性抑制は雌雄ともに0.25 mg/kg/day投与群で認められた4)。	以上より、動物試験の結果から、赤血球ChE活性阻害を臨界影響としたNOAELを0.05mg/kg/dayと判断し、不確実係数等を考慮した0.05 mg/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。	赤血球ChE活性阻害	ラット	01 02 03 04	Tusing, T.W. (1956) Progress Report: Repeated Oral Administration--Dogs. Manus, A.; Goldsmith, L.; Maloney, D.; et al. (1981) 24-month Chronic Toxicity and Potential Carcinogenicity Study in rats: Phorate: LBI Project No. 20821. Final rept. Manus, A.; Goldsmith, L.; Sekerke, H.; et al. (1981) 18-month Chronic Toxicity and Potential Carcinogenicity Study in Mice: Phorate: LBI Project No. 20820. Final rept. Shellenberger, T.; Tegeris, A. (1987) One-year Oral Toxicity Study in Purebred Beagle Dogs with AC 35,024: Laboratory Project Id: 85015. Unpublished study prepared by Tegeris Laboratories, Inc. 881 p.	(ろ過+固体)捕集-ガスクロマトグラフ分析方法	OVS-2(石英フィルター+XAD-2) 0.2~1 L/min 12~1200 min	トルエン/アセトン(9/1) 2 mL	GC/FPD	○	・IFV評価：210 ・農業であり噴霧を想定してろ過捕集と固体捕集とする			

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果					捕集法/分析法								
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価	備考		
ジスルホトン	298-04-4	0.02mg/m ³	-	<p>雌雄Wistarラット各群10匹に0.1、0.5、3.7 mg/m³のジスルホトンを6時間/日、5日/週、3週間吸入ばく露した結果、3.7 mg/m³ばく露群では、雌雄共に1週目に筋振戻、痙攣、唾液分泌増加、呼吸困難が認められ、赤血球アセチルコリニンエラーゼ(AChE)活性阻害は雌雄それぞれ24-28%、27-32%であり、脳AChE活性阻害は雌雄それぞれ48%、58%であった。また0.5 mg/m³ばく露群での脳AChE活性阻害は雌30%であつた。また、雌0.5 mg/m³ばく露群で気道の炎症性変化(喉頭、気管)および気腫性変化等を認めた。</p> <p>雌雄F344ラット各群12匹にジスルホトン(純度97.8%)0.018、0.16、1.4 mg/m³を6時間/日、5日/週、13週間吸入ばく露(鼻部ばく露)した結果、1.4 mg/m³ばく露の雌雄において4-31%の血清AChE活性阻害、22-34%の赤血球AChE活性阻害、28-29%の脳AChE活性阻害が認められ、また雌では1.4 mg/m³ばく露群で鼻甲介の炎症性所見を認め。一方、他のばく露濃度においては、いずれも臨床症状、死亡率の増加、臨床化学検査、血液検査および尿検査では、有害性影響は認められず、肉眼的な病理検査および臓器重量もまた関連する有害影響を示さなかった。</p> <p>F344ラット雌雄各50匹に雄:0、0.05、0.18、0.75; 雌: 0、0.06、0.21、1.02 mg/kg/dのジスルホトンを2年間混餌投与した結果、雌ラットの0.06mg/kg/d投与群で赤血球AChE活性24%抑制、0.21mg/kg/d投与群で赤血球AChE活性57-77%抑制、脳AChE活性53%抑制および椎骨神経の変性が認められた。</p> <p>雌雄ビーグル犬各群4匹に雄: 0.015、0.121、0.321; 雌: 0.013、0.094、0.283 mg/kg/dのジスルホトンを1年間混餌投与した結果、雌の0.094 mg/kg/d以上の群で脳AChE活性の22%抑制が見られ、またばく露1日目に雌の0.283 mg/kg/dばく露群で60%以上の赤血球AChE活性阻害がみられた。</p> <p>以上より、ラット動物試験の結果から、AChE活性阻害および気道の炎症性所見を臨界影響としたNOAELを0.16mg/m³と判断し、不確実係数等を考慮した八時間濃度基準0.02 mg/m³を提案する。</p>	AChE活性阻害および気道の炎症性所見	ラット	01	Thyssen JT. 1980. Disulfoton (S 276). The active ingredient of di-syston subacute inhalation study on rats. Wuppertal-Ellerfeld, Germany: Bayer AG, Institute of Toxicology. 83-T-80. Bayer Report No. 9065. Mobay ACD Report No. 69361. cited in ATSDR.2022.										
							02	Shiotsuka RN. 1989. Subchronic inhalation toxicity study of technical grade disulfoton (Di-SYTON) in rats. Study No. 88-141-UA. Report No. 99648. Stilwell, KS: Mobay Corporation, Corporate Toxicology Department. cited in ATSDR 2022 and IPCS INCHEM, https://inchem.org/documents/jmpr/jmpmono/v91pr10.htm, (参照2023/12/01) .										
							03	Hayes RH. 1985. Chronic feeding/oncogenicity study of technical disulfoton (Di-Syston) with rats. Study no. 82-271-01. Stilwell, KS: Mobay Chemical Corporation, Corporate Toxicology Department. cited in ATSDR and EPA-IRIS.										
							04	Jones, R.D. and T.F. Hastings (1997): Technical grade Disulfoton: A chronic toxicity feeding study in the Beagle dog. Bayer Corporation, Stilwell, KS. Study Number 94-276-XZ. Report No. 107499, February 5, 1997. MRID No. 44248002. cited in: U.S.EPA (1998): Reregistration Eligibility Decision (RED). Disulfoton and ATSDR.										
チオリン酸O-ジメチル-O-(2,4,5-トリクロロフェニル)(別名:ロンネル)	299-84-3	5mg/m ³	-	<p>雌ビーグル犬各群1匹に0.3、1、3、10mg/kg bw/day(対照群なし)のロンネルを1年間混餌投与した結果、臨床症状は認められなかったが、コリンエステラーゼの活性は10mg/kg投与群において血漿で55%、赤血球で36%阻害された。また、雌雄ラット(系統不明)各群20匹に0.5、1.5、5、15、50 mg/kg bw/dayのロンネルを2年間混餌投与した結果、成長速度、摂食量、死亡率、造血器への影響は見られなかったが、赤血球および脳のアセチルコリニンエラーゼ活性は雌雄とも15mg/kg以上投与群有意に阻害(20%以上阻害)された。</p> <p>ヒトの皮膚爬行症の治療のため10mg/kgのロンネルを経口投与した結果、21例中5例で可逆的な作用性の毒性兆候が認められた。なお、コリンエステラーゼ活性阻害が起る濃度以下では、他の影響の発生は見られなかった。</p> <p>雌Wistarラット20匹C0, 400, 600, 800mg/kg bw/dayのロンネルを妊娠6日目から15日目までの経口投与したところ妊娠22日目の母体および胎児を剖検した結果、母体の用量依存的な体重増加抑制がみられ、胎児では600mg/kg bw/day以上投与群で過剰肋骨発生率の有意な増加が認められた。なお、著者らはこの変化については解釈が困難であるとしている。</p> <p>妊娠ワサギ11-16匹C0, 12.5, 25, 50 mg/kg bw/dayのロンネルを妊娠6日目から18日目まで経口投与したところ妊娠29日目の母体および胎児の剖検を行った結果、着床効率、生存胎児数、胎児体重への影響は認められず、母体の赤血球コリンエステラーゼ活性も臨床的に有意な阻害は示されなかつた。胎児では50 mg/kg投与群で心血管奇形が、25 mg/kg bw/day以上投与群で小脳低形成が有意に認められた。主要な骨格の大奇形は棄物投与群で頻度が高かつたが、骨格の小奇形は全群でほぼ同じであった。</p> <p>以上より、動物試験の結果から、赤血球及び脳のコリンエステラーゼ活性阻害を臨界影響としたNOAELを5 mg/kg bw/dayと判断し、不確実係数等を考慮した5 mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>	赤血球及び脳のコリンエステラーゼ活性阻害	ラット	01	McCollister, D. D., Fritz Oyen, and V. K. Rowe. "Insecticide Toxicity to Animals, Toxicological Studies of O, O-Dimethyl-O-(2, 4, 5-trichlorophenyl) Phosphorothioate (Ronnel) in Laboratory Animals." Journal of Agricultural and Food Chemistry 7.10 (1959): 689-693.						(ろ過+固体) 捕集 - ガスクロマグラフ分析方法	OV/S-2 (石英フィルター + XAD-2) 1L/min 120 min	トルエン/アセトン (9/1) 2 mL	GC/MS ○	IFV評価値：2.8 ・検量線の直線範囲は、推奨条件でOELの0.003 ~0.3倍である。流量調整と試料溶液の希釈で高濃度を測定できる。 ・捕集後、できるだけ速やかに分析する。
							02	Balthrop JE. Ronnel in creeping eruption. J Fla Med Assoc. 1966 Sep;53(9):820-1.										
							03	Khera KS, Whalen C, Angers G. Teratogenicity study on pyrethrum and rotenone (natural origin) and ronnel in pregnant rats. J Toxicol Environ Health. 1982 Jul;10(1):111-9.										
							04	Nafstad I, Berge G, Sannes E, Lyngset A. Teratogenic effects of the organophosphorus compound fenchlorphos in rabbits. Acta Vet Scand. 1983;24(3):295-304.										
N-メチルアミノホスホン酸O-(4-ターシヤリーブチル-2-クロロフェニル)-O-メチル(別名:クルホメート)	299-86-5	1mg/m ³	-	<p>雌雄成熟SDラット各群25匹に0、1、10、100、1,000ppmのクルホメートを最長2年間混餌投与した。また、血液および脳内コリンエステラーゼ活性の無影響レベルをより敏敏に検討したため、雌雄Wistarラット各群4匹に0、20、40、60、80ppmのクルホメートを最長20日間混餌投与し、両結果併せて評価した結果、1,000ppm投与群では雌雄とともに投与開始から2週目に成長の遅れが認められた。また、2週後の剖検して後肢の筋萎縮と坐骨神経の軽度の変性および精巢重量の減少(約50%)が認められた。脳内コリンエステラーゼ活性は1,000ppm投与群では対照群の38-50%にまで低下したが、それ以下の投与群では正常範囲内であった。血漿コリンエ斯特ラーゼ活性は雌では40ppm(2mg/kg体重/日)以下、雄では60ppm以下でほとんど影響を認めなかつた。</p> <p>雌雄ビーグル犬各群4匹に0、10、20、200、2,000ppmのクルホメート最長2年間混餌投与した結果、2,000ppm投与群では4週目までは外見や行動に異常は見られず、食欲の減退と体重減少が観察されたが、最終的にはこの投与群全てのビーグル犬で活動性が低下し、歩行は遅くごちなく、後ろ足に硬直が見られ、屈筋反射および伸筋反射の消失と後ろ足の握りが見られた。赤血球および血漿コリンエ斯特ラーゼ活性は雌雄ともに200ppm投与群以下で有意な低下が認められ、20ppm投与群以下では有意な影響が認められなかつた。</p> <p>以上より、動物試験の結果からラットでの赤血球コリンエ斯特ラーゼ活性に対する阻害作用を臨界影響としたNOAELを40ppm(2mg/kg bw/day)と判断し、不確実係数等を考慮した1.0mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>	赤血球コリンエ斯特ラーゼ活性に対する阻害作用	ラット	01	McCollister, D.D.; Olsen,K.J.;Rowe,V.K.;et al.:Toxicology of 4 tert-Butyl-2-chlorophenyl Methyl Methylphosphoramidoate (Ruelene) in Laboratory Animals. Food Cosmet. Toxicol. 6: 185-198.(1968).					(ろ過+固体) - ガスクロマグラフ分析方法	OV/S-2 (ガラスファイバーフィルター + XAD-2) 1 L/min 60 min	トルエン 2 mL	GC/FPD ○	・1 L/minで480分の通気添加回収試験がOELの1倍相当濃度で実施されており、破過が無いことが確認されている。	

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値		提案理由	その他コメント	標的健 康影響	対象	文献番号	文献調査結果		捕集法/分析法								
		八時間濃度 基準値	短時間濃度 基準値						根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評 価				
炭化けい素(繊維状*1炭化 ケイ素に限る)	409-21-2	0.1繊維 /ml	-	<p>雄Wistarラット42匹に空気力学径、繊維直径、繊維長(各幾何平均)がそれぞれ2.4、0.5、2.8μmの炭化けい素繊維(SICW) 2.6±0.4 mg/m³ (98±19繊維/ml)で6h/d, 5d/w、12h時間吸入ばく露した結果、ばく露終了後12か月の肺病理所見で繊維束周囲の肺胞壁の線維化肥厚とマクロファージを主体とする炎症細胞の浸潤が認められ、また気管支肺胞上皮細胞の過形成(bronchoalveolar hyperplasia)が認められた。</p> <p>ノルウェーのSiC産業で1913年から2003年の間に雇用された1,687人の長期雇用労働者について、1953-2008年に追跡調査を行った肺がんの標準化罹患率(SIR)について、全粉じん、吸入性粉じん、吸入性石英、クリストパライ、SiC粒子およびSiC繊維への累積ばく露を3分位に層化して評価した結果、SIRは各ばく露因子共に高濃度ばく露群に1.9-2.3%あがが、ばく露後のリスクが無く評価において、低濃度ばく露群に比べて高濃度ばく露群で有効な発生率は増加(IRR)の増加が認められたのは全粉じん(IRR:1.9)およびクリストパライ(IRR:2.0)のみであった。また、多変量解析では、クリストパライが最も関連性を示し、次いでSiC繊維であった。なお、この事業場でのばく露濃度の幾何平均値は、1960年以前および以降、粉じんとはされ0.22-12mg/m³および11.5-12.2 mg/m³、SICWは0.0072-0.33繊維/cm³および0.0044±0.2繊維/cm³であった。</p> <p>以上のことより、動物実験の肺の線維化をエンドポイントとしてLOAELを98繊維/ml相当と判断し、不確実係数等を考慮した0.1繊維/mlを濃度基準値として提案する。</p> <p>*1:概ね長さが5μm超、幅が3μm未満、長さが幅の3倍を超える繊維</p>	<p>炭化けい素 (SiC) の粒子状物質での有害性は低いと考えられており、non-fiberとしての炭化けい素の濃度基準値は設定せずに、粉じんとしてまとめて設定をすることが望ましい。なお各文献での濃度の単位は原典に準拠して記載した。</p>	肺の線維化	ラット	01	Akiyama I, Ogami A, Oyabu T, Yamato H, Morimoto Y, Tanaka I. Pulmonary effects and biopersistence of deposited silicon carbide whisker after 1-year inhalation in rats. <i>Inhal Toxicol.</i> 2007 Feb;19(2):141-7.										
								02	Bugge MD, Kjaerheim K, Føreland S, Eduard W, Kjuus H. Lung cancer incidence among Norwegian silicon carbide industry workers: associations with particulate exposure factors. <i>Occup Environ Med.</i> 2012 Aug;69(8):527-33.										
ジアセチル	431-03-8	0.01ppm	-	<p>電子レンジ用ポップコーン製造工場に以前勤務していた8人が重度の閉塞性細気管支炎を患っていることが報告された。しかし、工場内では特定されず、現在の勤務している従業員を医学的に検査し、職業上のばく露を評価した。工場内の作業環境測定および従業員の肺の機能検査(肺活量、1秒量率等)を実施し、ジアセチルばく露作業者と、それ以外の作業者で比較している。ばく露レベルは、混合作業では32.27ppm(1.34~97.94 ppm)、包装作業では、1.88 ppm(0.26~6.8 ppm)、品質管理保守作業では、0.56 ppm(0.33~0.89 ppm)、それ以外の作業では、0.04ppm(0~0.25ppm)であり、これを基に個人の累積ばく露量(平均ばく露量×勤務年数)を求めた。累積ばく露レベル(0~126ppm·yr)に応じて作業者を4群に分けた(境界値0.65、4.5、11 ppm·yr)。FEV1%を比較したところ、0.65ppm·yr以下の群と比較して各ばく露群は、濃度依存的に4.5、8.9、12.5 %低下が認められ1)。</p> <p>ポップコーン製造工場の作業者に関する調査を実施した。累積ばく露量から作業者を2群(境界値0.8 ppm·yr)に分けた。累積ばく露NOAELは0.8ppm·yrを下回ると推察される2)。</p> <p>雌雄CrI:WI(Han)ラット各群50匹に0、12.5、25、50ppmのジアセチルを6時間/day、5日/週、105時間吸入ばく露(全身、蒸気)した結果、12.5 ppmばく露群以上の雄で喉上皮の萎縮が有意に認められた。腫瘍病変は、雄の50ppmばく露群で扁平上皮乳頭腫が1/50匹、扁平上皮癌が3/50匹、雌の50ppmばく露群で扁平上皮癌が3/50匹認められた(对照群はそれ0/50匹)。マウスでも同じ条件で試験を実施したが、同様の結果があつた3)。</p> <p>以上より、ヒトの研究結果から、FEV1%の低下を臨界影響として、0.65 ppm·yrを累積ばく露のNOAELと判断し、労働者のばく露期間(40年)で除した0.01 ppmを八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>電子レンジ用ポップコーン製造工場に以前勤務していた8人が重度の閉塞性細気管支炎を患っていることが報告された。しかし、工場内では特定されず、現在の勤務している従業員を医学的に検査し、職業上のばく露を評価した。工場内の作業環境測定および従業員の肺の機能検査(肺活量、1秒量率等)を実施し、ジアセチルばく露作業者と、それ以外の作業者で比較している。ばく露レベルは、混合作業では32.27ppm(1.34~97.94 ppm)、包装作業では、1.88 ppm(0.26~6.8 ppm)、品質管理保守作業では、0.56 ppm(0.33~0.89 ppm)、それ以外の作業では、0.04ppm(0~0.25ppm)であり、これを基に個人の累積ばく露量(平均ばく露量×勤務年数)を求めた。累積ばく露レベル(0~126ppm·yr)に応じて作業者を4群に分けた(境界値0.65、4.5、11 ppm·yr)。FEV1%を比較したところ、0.65ppm·yr以下の群と比較して各ばく露群は、濃度依存的に4.5、8.9、12.5 %低下が認められ1)。</p> <p>ポップコーン製造工場の作業者に関する調査を実施した。累積ばく露量から作業者を2群(境界値0.8 ppm·yr)に分けた。累積ばく露NOAELは0.8ppm·yrを下回ると推察される2)。</p> <p>雌雄CrI:WI(Han)ラット各群50匹に0、12.5、25、50ppmのジアセチルを6時間/day、5日/週、105時間吸入ばく露(全身、蒸気)した結果、12.5 ppmばく露群以上の雄で喉上皮の萎縮が有意に認められた。腫瘍病変は、雄の50ppmばく露群で扁平上皮乳頭腫が1/50匹、扁平上皮癌が3/50匹、雌の50ppmばく露群で扁平上皮癌が3/50匹認められた(对照群はそれ0/50匹)。マウスでも同じ条件で試験を実施したが、同様の結果があつた3)。</p> <p>以上より、ヒトの研究結果から、FEV1%の低下を臨界影響として、0.65 ppm·yrを累積ばく露のNOAELと判断し、労働者のばく露期間(40年)で除した0.01 ppmを八時間濃度基準値として提案する。</p>	FEV1%の低下	ヒト	01	Kreiss K, Gomaa A, Kullman G, Fedan K, Simoes EJ, Enright PL. Clinical bronchiolitis obliterans in workers at a microwave-popcorn plant. <i>N Engl J Med.</i> 2002 Aug 1;347(5):330-8.		固体捕集 - ガスクロマトグラフ分析方法	シリカゲル管(600 mg)2本を連結する 0.2 L/min又は0.05 L/min 15 min (0.2 L/minの時), 180 min (0.05 L/minの時)	溶媒脱着 : エチアルコール/水(95/5) ガスクロマトグラフ-水素炎イオン化検出器(GC-FID)	○					・捕集後、速やかに分析する
								02	Lockey JE, Hilbert TJ, Levin LP, Ryan PH, White KL, Borton EK, Rice CH, McKay RT, LeMasters GK. Airway obstruction related to diacetyl exposure at microwave popcorn production facilities. <i>Eur Respir J.</i> 2009 Jul;34(1):63-71.										
								03	National Toxicology Program. Toxicology and carcinogenesis studies of 2,3-butanedione in Wistar Han [CrI:WI(Han)] rats and B6C3F1/N mice (inhalation studies). <i>Natl Toxicol Program Tech Rep Ser.</i> 2018 Aug;(593):NTP-TR-593.										
								04	Diacetyl [MAK Value Documentation, 2015], Volume 1, Issue 4. October 2016. A. Hartwig, MAK Commission.										
オキサロトリル(別名:ジシア ン)	460-19-5	5ppm	-	<p>雄アカゲザル15匹、雄SDラット90匹を対象に、0、1、25ppmのオキサロトリルを6 hr/day、5 day/week、6ヶ月間、吸入ばく露した結果、どのばく露群でも血液学的、生化学的变化はみられず、心電図、組織病理学的な所見も認められなかった。体重增加抑制はラット0.25ppmばく露群において観察されたが、著者らはこれをわずかな毒性としており、NOAELを11pmと結論づけている1)。</p> <p>男性4名、女性3名のヒトボランティアに、1.6ppmのオキサロトリルを6分間または8分間ばく露したところ、ほぼ全員に目・鼻の炎症が観察された。8ppmで6分間ばく露した男性3名と女性1名では刺激は観察されず、8ppmのNOAELと考案される2)。</p> <p>以上より、動物試験から体重增加抑制が臨界影響として、NOAELを11 ppmと判断し、不確実係数を考慮した。八時間濃度基準値5ppmを提案する。なお、ヒトの知見でのばく露時間が短いことから、短時間濃度基準値は設定できないと判断する。</p>	<p>雄アカゲザル15匹、雄SDラット90匹を対象に、0、1、25ppmのオキサロトリルを6 hr/day、5 day/week、6ヶ月間、吸入ばく露した結果、どのばく露群でも血液学的、生化学的变化はみられず、心電図、組織病理学的な所見も認められなかった。体重增加抑制はラット0.25ppmばく露群において観察されたが、著者らはこれをわずかな毒性としており、NOAELを11pmと結論づけている1)。</p> <p>男性4名、女性3名のヒトボランティアに、1.6ppmのオキサロトリルを6分間または8分間ばく露したところ、ほぼ全員に目・鼻の炎症が観察された。8ppmで6分間ばく露した男性3名と女性1名では刺激は観察されず、8ppmのNOAELと考案される2)。</p> <p>以上より、動物試験から体重增加抑制が臨界影響として、NOAELを11 ppmと判断し、不確実係数を考慮した。八時間濃度基準値5ppmを提案する。なお、ヒトの知見でのばく露時間が短いことから、短時間濃度基準値は設定できないと判断する。</p>	体重增加抑制	アカゲザル 及びラット	01	Lewis TR, Anger WK, Te Vault RK. Toxicity evaluation of sub-chronic exposures to cyanogen in monkeys and rats. <i>J Environ Pathol Toxicol Oncol.</i> 1984 Jul;5(4-5):151-63.	固体(反応) 捕集 - ガスクロマトグラフ分析方法	2-(ヒドロキシメチル)ビペリジン含浸XAD-2 0.1~0.2 L/min 15~60 min	トルエン 1 mL	GC/NPD	○					・捕集剤は輸入品だが入手可能。
								02	McNerney, James M., and H. H. Schrenk. "The acute toxicity of cyanogen." <i>American Industrial Hygiene Association Journal</i> 21.2 (1960): 121-124.										
塩化シアン	506-77-4	-	0.3ppm	<p>塩化シアンは眼や気道刺激とシアンの内呼吸障害が有害影響である。ヒトでは、159 ppm/10分、48 ppm/30分で致死、20 ppm/1分、2 ppm/10分で耐えられない刺激、1 ppm/10分が最低刺激濃度とされている1)。</p> <p>塩化シアン独自の長時間ばく露試験の知見ない。ラットのアインヘルツ100、300 ppm (4.3, 10.8 CN mg/kg bw/d) の2年間混餌投与試験での有害影響が認められたかった2)ことより、このNOAELを10.8 CN mg/kg bw/dとして塩化シアンに換算すると、25.3 mg/kg bw/d(約5 ppm)となる。</p> <p>以上より、ヒトの最低刺激濃度1 ppmをLOAELとして、不確実係数を考慮した短時間濃度基準値0.3 ppmを提案する。この値は、シアンによる内呼吸障害の予防にも資すると考えられる。</p> <p>なお、塩化シアン単独による慢性影響に係る知見に乏しいことから、八時間濃度基準値は「設定できない」を提案する。</p>	<p>塩化シアンは眼や気道刺激とシアンの内呼吸障害が有害影響である。ヒトでは、159 ppm/10分、48 ppm/30分で致死、20 ppm/1分、2 ppm/10分で耐えられない刺激、1 ppm/10分が最低刺激濃度とされている1)。</p> <p>塩化シアン独自の長時間ばく露試験の知見ない。ラットのアインヘルツ100、300 ppm (4.3, 10.8 CN mg/kg bw/d) の2年間混餌投与試験での有害影響が認められたかった2)ことより、このNOAELを10.8 CN mg/kg bw/dとして塩化シアンに換算すると、25.3 mg/kg bw/d(約5 ppm)となる。</p> <p>以上より、ヒトの最低刺激濃度1 ppmをLOAELとして、不確実係数を考慮した短時間濃度基準値0.3 ppmを提案する。この値は、シアンによる内呼吸障害の予防にも資すると考えられる。</p> <p>なお、塩化シアン単独による慢性影響に係る知見に乏しいことから、八時間濃度基準値は「設定できない」を提案する。</p>	-	ヒト	01	Clayton GD, Clayton FE (Eds): Cyanogen. In: Patty's Industrial Hygiene and Toxicology 4th ed; Vol II, Part D, pp 3130-3132, John Wiley & Sons, New York (1994)	固体(反応) 捕集 - ガスクロマトグラフ分析方法	2-(ヒドロキシメチル)ビペリジン含浸XAD-2 0.2 L/min 15~120 min	トルエン 1 mL	GC/NPD	○					・捕集剤は輸入品だが入手可能。 ・捕集後できるだけ速やかに測定すること。
								02	Howard, J. W., and R. F. Hanzal. "Pesticide toxicity, chronic toxicity for rats of food treated with hydrogen cyanide." <i>Journal of agricultural and food chemistry</i> 3.4 (1955): 325-329.										
テトラニトロメタン	509-14-8	0.005ppm	-	<p>雌雄F344/Nラット各群10匹および雌性B6C3F1マウス各群10匹に0、0.2、0.7、2、5、10 ppmのテトラニトロメタンの蒸気を6時間/day、5日/週で104週間全身吸入ばく露した結果、生存率は雄18/50、17/50、4/50匹(有差あり)、雌31/50、28/50、15/50匹であり、雌雄2ppm以上ばく露群では、肺胞/気管支の腺腫またはがんが有意に増加(雄1/50、33/50、46/50、雌0/50、22/50、50/50)した1)。</p> <p>雌雄B6C3F1マウス50匹に0、0.5、2ppmのテトラニトロメタンの蒸気を6時間/day、5日/週で104週間全身吸入ばく露した結果、生存率は雄37/50、26/50、15/50匹(有差あり)、雌31/50、28/50、24/50匹であり、雌雄0.5 ppm以上ばく露群では、肺胞/気管支の腺腫またはがんが有意に増加(雄12/50、27</p>															

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果					捕集法/分析法							
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価		
1,2,3-トリメチルベンゼン	526-73-8	10ppm	-	雄のWistarラットに1,2,3-TMBを25、100、250 ppmの濃度で6時間/日、5日/週、3ヶ月間吸入ば露（蒸気）した。全ば露群の臨床所見に異常はみられず、体重も对照群と有意差がなかった。100、250ppmでは一例も試験での行動影響が、250 ppmで疼痛感受性の低下が、有意に認められた1)。 雌雄のWistarラットに1,2,3-TMBの123、492、1,230mg/m ³ (25, 100, 250 ppm)を1日6時間吸入ば露したところ、雌では25ppm以上で赤血球系の異常、雄では250ppmで赤血球系の異常、赤血球数が減少したが、ヘモグロビン量、ヘトクリット値には影響がなかった2)。 以上より、動物試験の結果から神経毒性（行動影響および疼痛感受性の低下）及び赤血球系の異常を臨界影響としたNOAELを25ppmと判断し、不確実係数等を考慮した八時間濃度基準として10 ppmを提案する。	トリメチルベンゼンは、令和5年度に異性体混合物として濃度基準値を提案しているが、1,2,3-トリメチルベンゼン単独の試験結果があることから、それに基づき濃度基準値を導出した。	神経毒性（行動影響および疼痛感受性の低下）	ラット	01	Korsak Z, Rydzyński K. Neurotoxic effects of acute and subchronic inhalation exposure to trimethylbenzene isomers (pseudocumene, mesitylene, hemimellitene) in rats. Int J Occup Med Environ Health. 1996;9(4):341-9.			活性炭管 (Anasorb CSC) 50 mL/min 240 min	二硫化炭素/N,N-ジメチルホルムアミド (99/1) 1 mL	GC/FID	○		
								02	Korsak Z, Stetkiewicz J, Majcherek W, Stetkiewicz I, Jajte J, Rydzyński K. Subchronic inhalation toxicity of 1,2,3-trimethylbenzene (hemimellitene) in rats. Int J Occup Med Environ Health. 2000;13(3): 223-32.								
m-ジクロロベンゼン	541-73-1	2ppm	-	雌雄SDラット各群10匹C0、37、147、368、735 mg/kg bw/dayのm-ジクロロベンゼンを1回/日、10日間連続強制経口投与した結果、368mg/kg bw/day以上投与群において、雌雄で肝臓小葉中心帶の変性が認められ、735 mg /kg bw/day投与群の雌雄において、10%以上の体重増加抑制が有意に認められた1)。 雌雄SDラット各群10匹C0、9、37、147、588 mg/kg bw/dayのm-ジクロロベンゼンを、1回/日、90日間連続強制経口投与した結果、37 mg/kg bw/day以上投与群の雄において甲状腺滤胞内コロイド密度の中等度以上の減少および下垂体前葉の中等度以上の空胞化、147 mg/kg bw/day以上投与群の雄において肝臓の変性や壞死（軽度～中等度）が認められた。また588mg/kg bw/ day投与群の雌雄で、10%以上の体重増加抑制が有意に認められた1)。 以上より、動物試験の結果から、甲状腺及び下垂体への有害影響を臨界影響としたNOAELを9 mg/kg bw/dayと判断し、不確実係数等を考慮した2 ppmを八時間濃度基準として提案する。	甲状腺及び下垂体への有害影響	ラット	01	McCauley PT, Robinson M, Daniel FB, Olson GR. Toxicity studies of 1,3-dichlorobenzene in Sprague-Dawley rats. Drug Chem Toxicol. 1995 May-Aug;18(2-3):201-21.		Tenax TAが充填されたステンレス鋼チューブ 5 mL/min 40 min	固体捕集ガスクロマトグラフ分析方法 加熱脱着	GC/FID	○	・捕集流量が低いことに注意する			
シクロペニタジエン（1,3-シクロペニタジエン）	542-92-7	1ppm	-	B6C3F1雌雄マウス各群10匹に、244、714、2,558 ppmのシクロペニタジエンを6時間/日、11日前、吸入ば露（連結ば露5日後に2日ば露なし、その後連結ば露4日）した結果、714ppm以上ば露群では2日目までに雌雄ともに呼吸困難を伴い死亡した。244ppmでは個体の死には見られず、雌の肝臓重量（絶対および相対）の増加がみられたが、病理所見では肝臓には異常はみられなかった1)。 ヒトへの影響として、2人の男性の被験者に1 ppmと5.5 ppmのシクロペニタジエンを30分間吸入ば露した結果、被験者の人は1 ppm、7分間ば露後眼と喉に軽い刺激を感じ、もう1人45.5 ppm、10分間ば露後眼への刺激がみられた2)。 B6C3F1マウス（45匹/性/群）C0、1、5、50 ppmのシクロペニタジエンを13週間（6時間/日、5日/週、64回ば露）吸入ば露（蒸気）した結果、本物質に関連した死には、50 ppm雌雄でそれぞれ9/49匹、10/45匹が認められた。体重増加、臓器重量は、全ば露群において特に影響は認められなかった3)。 B6C3F1雌雄マウス各群10匹にシクロペニタジエン0、5.1、33.0、99.9 ppm（実測値）を5日間（6時間/日）吸入ば露した結果、99.9 ppm全例が4日以内に死亡し、33.0 ppmで雌雄に常同行動、また、雄は有意に疼痛反応の低下が認められた。5.1 ppmでも疼痛反応の低下が認められたが有意ではなかった4)。 以上より、本物質の2量体であるシクロペニタジエンの動物試験における常同行動および疼痛反応の低下を臨界影響としたNOAELを5.1 ppmと判断し、不確実係数等を考慮した1 ppmを八時間濃度基準として提案する。	・近年生殖毒性・発生毒性の知見があることから、今後早期に確認・検討が必要である。		01	Bushy Run Research Center: Cyclopentadiene: Six-Hour LC50 Vapor Inhalation Study & A Nine-Day Vapor Inhalation Study in Mice (Final Report). OTS0536197, HSE-81-0075 (1981). 8EHQ-0492-3361. Submitted under TSCA Section 8(e) to US EPA by Shell Oil Co, Houston, TX (1992).									
							02	Kinkead ER, Pozzani UC, Geary DL, Carpenter CP. The mammalian toxicity of dicyclopentadiene. Toxicol Appl Pharmacol. 1971 Dec; 20(4):552-61.									
							03	Kransler KM. Results of a 90-day inhalation study of dicyclopentadiene in B6C3F1 mice. Toxicol Ind Health. 2014 Jun;30(5):459-66.									
							04	Bushy Run Research Center: Acute and subacute inhalation toxicity of dicyclopentadiene in rats and mice. HSE-81-0117 (1981). OTS-0535718, 8EHQ-0292-2306. Submitted under TSCA Section 8(e) to US EPA by Shell Oil Co, Houston, TX (1992).									
トリ-3-トリル=ホスフート（別名：m-トリクロレルホスフェート）	563-04-2	設定できない	-	トリ-3-トリル=ホスフートを単独で用いた試験情報は認められなかった。なお、本物質の異性体であるo-体では強い神経毒性があるが、m、p-体では神経毒性原因となる環状ン酸エsterを発生しないと言われている1)。 以上より、本物質単独による有害性情報に乏しいことから、八時間濃度基準値は「設定できない」として提案する。	異性体混合物であるリン酸トリトリルには試験結果に基づく有害性情報はあるが、異性体間での有害性の差異に係る知見に乏しく、現時点では本物質単独での濃度基準値の設定に資する情報に乏しいと判断した。	-	-	01	環境省、化学物質の環境リスク評価 第4巻 [18] , 2005. https://www.env.go.jp/chemi/report/h17-21/pdf/chpt1/1-2-2-18.pdf (アクセス:2024/09/10).	-	-	-	-	-	-		

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値				文献調査結果					捕集法/分析法						
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価	備考	
ビス(ジオウルン酸) S,S'-メチレン-O,O',O'-テトラエチル(別名: エチオン)	563-12-2	0.05mg/m ³	-	男性ヒトボランティア6人に0.05, 0.075, 0.1mg/kgのエチオンを21日間、及び0.15mg/kgを3日間、カセリで経口投与した試験では、0.05 mg/kgばく露群ではコリンエステラーゼ阻害が正常値の85%、0.1 mg/kgばく露群では正常値の76%であった。なお赤血球コリンエステラーゼはこの投与量でも阻害されなかった。	25°Cの飽和蒸気圧における濃度換算値 0.03mg/m ³ と濃度基準値 0.05mg/m ³ との比が 0.6 であることから、粒子と蒸気の両方を捕集できる捕集方法が必要である。	赤血球コリンエステラーゼ阻害	ヒト	01	U.S. Environmental Protection Agency: Human Health Risk Assessment: Ethion. S. Knizner, Risk Advisor. U.S. EPA, OPPHED (7509C), Washington, DC (1999).		(ろ過+固体) 捕集-ガスクロマトグラフ分析法	OVS-2 (石英フィルター+XAD-2) 0.2~1 L/min 12~1200 min	トルエン/アセトン (9/1) 2 mL	GC/FPD	○	・IFV評価値: 0.6 ・参考文献がNIOSHの有機リーン農薬の測定法であるため、使用法を考慮してろ過捕集を組み合わせる。 ・測定範囲等について確認された濃度範囲: 0.8E-16E	
プロエチレン	593-60-2	設定できない	-	雄性SDラット(对照群144匹、ばく露各群: 120匹)に0.10, 50, 250, 1,250 ppm(実測値: 0.9, 7, 52, 247, 1,235 ppm)のプロエチレンの蒸気を、6時間/日、5日/週で2週間吸入ばく露した結果、体重増加抑制が全くばく露群で認められた。また、雌性の全ばく露群で肝血管内腫が用量依存的に認められた。	なお、本物質は遺伝毒性物質と評価されている(2-4)。	Benya TJ, Busey WM, Dorato MA, Berteaue PE. Inhalation carcinogenicity bioassay of vinyl bromide in rats. Toxicol Appl Pharmacol. 1982 Jul;64(3):367-79.	-	01	厚生労働省 化学物質のリスク評価検討会 プロエチレン	-	固体捕集-ガスクロマトグラフ分析方法	二硫化炭素1 L にn-ヘプタン0.1 mLを添加した溶媒 1 mL	GC/FID	○	・OELの0.4倍の濃度から定量可能。		
エチル-3-エキシプロパノート	763-69-9	100ppm	-	雄性SDラット(各群15匹)に、250, 500, 1,000 ppmのエチル-3-エキシプロパノートを6時間/日、5日/週で13週間吸入ばく露した結果、500ppm以上ばく露群で体重増加抑制および刺激症状(流延、流涙等)を認めた。1,000ppmばく露群の血液生化学検査等で雄性に有意な増加が確認され、500ppmばく露群で肝臓重量や組織学的検査では試験物質による異常は認められなかった。	経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある(皮膚吸収性有害物質)	体重増加抑制および刺激症状(流延、流涙)	ラット	01	90-Day Inhalation Toxicity Study of Ethyl-3-Ethoxypropionate in the Rat; Toxicological Sciences Section, Health and Environment Laboratories, Eastman Kodak Company, Rochester, NY; Experiment No.: 8500441I; June 30, 1986. Cited in HIGH PRODUCTION VOLUME (HPV) CHALLENGE PROGRAM TEST PLAN FOR 3-ETHOXYPROPIONIC ACID ETHYL ESTER (CAS NO.: 763-69-9) PREPARED BY: EASTMAN CHEMICAL COMPANY THE DOW CHEMICAL COMPANY, Cited in Status and Future Directions of the High Production Volume Challenge Program Office of Pollution Prevention and Toxics, US-EPA.		固体-ガスクロマトグラフ分析方法	活性炭チューブ 0.1 L/min 100 min	二硫化炭素/N,N-ジメチルホルムアミド(99/1) 1 mL	GC/FID	○	・推奨の10L捕集まで、OELの1倍相当の濃度で破過が認められない。	
N-メチル-2-ピロリドン(別名:N-メチルピロリドン)	872-50-4	1ppm	-	N-メチル-2-ピロリドンを用いている工場3事業場での作業者のばく露濃度は、時間加重平均値がそれぞれ0.14-0.69ppm(4名), 0.24-0.32 ppm(5名), 0.04-0.59ppm(8名)であり、作業者は血液検査(RBC, WBC, Hb)生化学検査(ALT, ALT, γ-GTP, 総コレステロール, HDL, TG), ECG, 胸部X-pf毎年受けていたが、いずれの検査でも異常所見は認められなかった。	雄性のCharles River CDラット(過齢不明) 各群120匹に0, 10ppm、100 ppmのN-メチル-2-ピロリドンのエプロリドと蒸気の混合気体を、6時間/日、週5日、2年間全身吸入ばく露した結果、生存率の減少および発がん性は認められなかった。100ppmばく露群で軽度の体重増加抑制(6%)が認められた。	Xiaofei E, Yasuhiro WADA, Jun-ichi NOZAKI, Hiroyuki MIYAUUCHI, Shigeru TANAKA, Yukio SEKI, Akio KOIZUMI A Linear Pharmacokinetic Model Predicts Usefulness of N-Methyl-2-Pyrrolidone (NMP) in Plasma or Urine as a Biomarker for Biological Monitoring for NMP Exposure. J Occup Med 2000; 42: 321-327.	-	01	発達毒性	ラット							
O-エチル-S-フェニル=エチルホスホノチオオナート(別名: ホノホス)	944-22-9	0.1mg/m ³	-	雄性のビーグル犬各群4匹に0. 0.2, 1.5, 12 mg/kg/dayのホノホスを2年間給餌した結果、0.2 mg/kg/dayでは影響はみられず、1.5 mg/kg/dayで赤血球コリンエステラーゼの中程度の阻害、肝重量の増加、震え、流涙、唾液分泌がみられた。12 mg/kg/dayでは、病理組織学的所見として、小腸、肝臓の病変がみられた。	経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある(皮膚吸収性有害物質)	コリンエステラーゼ活性阻害等	ビーグル	01	Stauffer Chemical Company: MRID 00082233; 1969, as cited in reference 7. Available from U.S. EPA, FOI, Washington, DC 20460.		(ろ過+固体) 捕集-ガスクロマトグラフ分析方法	OVS-2 (石英フィルター+XAD-2) 0.2~1 L/min 12~1200 min	トルエン/アセトン (9/1) 2 mL	GC/FPD	○	・IFV評価: 50 ・農業であり噴霧を想定してろ過捕集と固体捕集とする。	
アクリル酸2-ヒドロキシプロピル	999-61-1	0.5ppm	-	雄ビーグル犬各群2匹、雄SDラット各群10匹、雄ニュージーランド白ウサギ各群4匹および雄Swiss-Websterマウス各群20匹に0. 5, 10 ppm (0. 27, 53mg/m ³) のアクリル酸ヒドロキシプロピル(注1)の蒸気を1日6時間、週5日で1ヶ月間(総ばく露回数20-21回)全身吸入ばく露した結果、5ppmばく露群以上のイスとウサギでは鼻部および呼吸器の刺激症状を示した。マウスでは10ppmばく露群で20匹中3匹に目の刺激症状を認めだが、5ppmばく露群では見られなかった。ラットでは明らかな症状は見られなかったが、刺激による鼻腔の組織学的異常が5ppm以上ばく露群でわずかな増加があり、これの知見は5ppm以上ばく露群のイスおよびウサギでも見られた1)。	経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある(皮膚吸収性有害物質)	注1)濃度75-80%のアクリル酸2-ヒドロキシプロピル(CAS No 999-61-1)および濃度20-25%の2-ヒドロキシ-1-メチルエチル=アクリラート(CAS No 2918-23-2)の混合ばく露。	鼻腔および呼吸器の刺激症状	イス、ラット、ウサギ	01	Quast, J.F. and Rampy, L.W. (1983). Repeated Inhalation Toxicity of Hydroxypropyl Acrylate. Dow Chemical, USA; Final Report, July 7, 1983; 35p. cited in OECD-SIDS.		固体(反応) 捕集-ガスクロマトグラフ分析方法	4-tert-ブチルカーテコール含浸ヤシ活性炭素管 0.1 L/min 100 min	ジクロロメタン/メタノール(95/5) 1 mL	GC/FID	○	・捕集剤は輸入品だが購入可能。

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果						捕集法/分析法								
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価	備考			
ヒ化ガリウム	1303-0-00	-	-	雌雄F344ラット各群50匹に粒子状のヒ化ガリウム、0.01、0.1、1.0 mg/m ³ を、またB6C3F1マウス各群50匹にヒ化ガリウム、0.1、0.5、1.0 mg/m ³ 6時間/日、5日/週で2年間吸入ばく露した結果、ラットの生存率は対照群と含め雌雄とも半数以下となつた。雌のラット0.1 mg/m ³ ばく露群上では肺胞上皮膜腫および腺がんの有意な増加、および1.0 mg/m ³ ばく露群での副腎腫瘍の良悪性および肝細胞白血病の増加が物質に関する変化と考えられた。なお雄ラットおよび雌雄マウスでは腫瘍性変化は見られなかった。非腫瘍性変化としては、雌雄ラットで肺の慢性炎症が0.01mg/m ³ ばく露群以上で増加しており、過形成は0.1mg/m ³ から増加が認められた1)。本物質自体はヒトで発がん性の証拠は見られないが、体内で少量ヒ素を遊離させ、無機ヒ素として機能する。また同時に遊離するガリウムが雌ラットで観察された肺がんに関与している可能性があるといい2)。以上より、ヒ化ガリウムは体内で分離した無機ヒ素としての有害性が懸念されることから、本物質での濃度基準値は設定できないと判断する。	-	-	01	-	National Toxicology Program. NTP Toxicology and Carcinogenesis Studies of Gallium Arsenide (CAS No. 1303-00-0) in F344/N Rats and B6C3F1 Mice (Inhalation Studies). Natl Toxicol Program Tech Rep Ser. 2000 Sep;492:1-306.										
				-	-	02	IARC Working Group on the Evaluation of Carcinogenic Risks to Humans. Cobalt in hard metals and cobalt sulfate, gallium arsenide, indium phosphide and vanadium pentoxide. IARC Monogr Eval Carcinog Risks Hum. 2006;86:1-294..												
五硫化りん（五硫化二リン）	1314-80-3	1mg/m ³	-	雄SDラット各群12匹に0、10、30、80ppm (0、14、42.7、111 mg/m ³)の硫化水素を6時間/日、7日/週、10週間吸入ばく露した結果、30ppmばく露群以上で濃度依存的な鼻腔上皮の異常(多巣性、両側対称性の嗅神経細胞喪失、基底細胞過形成)が認められ、背側肉孔の内面と筋骨咀嚼部の背側および内側領域に影響を及ぼしていた。著者らはこれらの結果よりNOAELを10ppmとしている1)。雄SDラット各群12匹に父配2週間前から2週間後2回毎(42日)までSD雌ラットに交配2週間前から分娩後4日目(40~52日)まで、リ酸0.125、250および500mg/kg/日の用量で一日1回強制経口投与した結果、体重・摂餌量・尿検査・血液検査及び生化学検査の部分項目には若干の差異が認められたが、被験物質投与による変化は認められなかった。また、臓器重量においても被験物質投与による差は認められなかった。剖検および病理組織学的検査において自発的な変化が不定期に認められたが、被験物質による病理学的変化は認められなかった。しかし、500mg/kg投与群では2匹の雄が死亡し、消化管のガス張所見が観察された。また、500mg/kg投与群の雄1例に粘液便、軟便、鼻汚れの所見が認められた。以上の結果より、250mg/kg以下では雌雄とともに被験物質の影響は認められなかったことから、NOAELはすべての雌雄で250mg/kgとした2)。以上より、吸入試験によるラットの動物実験の結果から、五硫化二リンの水解物のうち有害性が高いと判断される硫化水素について、気道の炎症性所見を臨界影響としたNOAELを10ppm (14mg/m ³)と判断する。なお、五硫化二リンの水解物であるリン酸の刺激性に関する知見はヒトでは乏しいが動物試験で認められていること、また刺激性を含めたリン酸の有害性は硫化水素のそれを上回らないと考えられることから、臨界影響を同じ上気道の刺激症状として、硫化水素とリン酸の刺激性を同等として五硫化二リンに換算したNOAELは26.5mg/m ³ であり、不確実係数等を考慮した1mg/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。	気道の炎症性所見	ラット	01	Brenneman, KA; James, RA; Gross, EA; Dorman, DC. (2000) Olfactory neuron loss in adult male CD rats following subchronic inhalation exposure to hydrogen sulfide. Toxicol. Pathol. 28(2):326-333. Cited in TOXICOLOGICAL REVIEW OF HYDROGEN SULFIDE(CAS No. 7783-06-4) In Support of Summary Information on the Integrated Risk Information System (IRIS) June 2003, US-EPA.											
				-	-	02	NIER (National Institute of Environmental Research), Korea. 2008f. Combined repeated dose toxicity study with the reproduction /developmental toxicity screening test of Phosphoric acid in rats (Study No. B08008). Tested by Biotoxtech. cited in OECD-SIDS Initial Assessment Report For SIAM 28, 2009. PHOSPHORIC ACID.												
りん酸トリトリル（別名：トリクレジルホスフェート）（りん酸トリ（オルトトリル）を除く。）	1330-78-5	5mg/m ³	-	雌雄F344/Nラット各群50匹に79%のりん酸トリトリル異性体混合物（メタ体21%、パラ体4%、オルト体1%未満、未同定のトリクレジルリン酸エチル）を0、75、150、300 ppm（雄0、3、6、13mg/kg、雌0、4、7、15mg/kg）で104週間混餌投与した結果、雌の300ppmばく露群において、副腎皮質の細胞空胞化と卵巣間質細胞の過形成について、発生率と重症度が有意に増加した1)。雌雄B6C3F1マウス各群50匹に79%のりん酸トリトリル異性体混合物（メタ体21%、パラ体4%、オルト体1%未満、未同定のトリクレジルリン酸エチル）を0、60、125、250 ppm（雄0、7、13、27mg/kg、雌0、8、18、37mg/kg）で105週間混餌投与した結果、雄の125、250ppm投与群において、肝臓の淡明細胞病変、脂肪性変化、セロイド色沈着の発生率が有意に増加した2)。以上より、動物試験の結果から、副腎皮質、卵巣および肝臓の所見を臨界影響とした7mg/kgをNOAELと判断し、不確実係数等を考慮した5 mg/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。	副腎皮質、卵巣および肝臓の所見	ラット	01	National Toxicology Program. NTP Toxicology and Carcinogenesis Studies of Tricresyl Phosphate (CAS No. 1330-78-5) in F344/N Rats and B6C3F1 Mice (Gavage and Feed Studies). Natl Toxicol Program Tech Rep Ser. 1994 Sep;433:1-321.											
プロビレンギコールエチルエーテル（別名：1-エキシ-2-プロパノール）	1569-02-4	60ppm	-	雌雄SDラット各群15匹に0、100、300、2,000 ppmのプロビレンギコールエチルエーテル（2PG1EE）を6 時間/日、5 日/週、90 日間吸入ばく露した結果、2,000 ppmばく露群の雌で回復可能な眼と鼻の軽度の刺激性変化がみられた。また、雌で僅かな肝腫瘍重量の増加が認められたが、組織学的な異常は見られなかった。また、雌雄2,000ppmばく露群では1週目までに300ppm以上ばく露群では12週目までに尿量の増加が認められたが、組織学的な異常は見られなかったことより、毒性影響ではないと考えられた。2,000ppmばく露群では腫瘍とともに肺組織での局所的なクリアージュの凝集が観察された。精巢、造血組織または血漿、および脳と神経の組織学的变化はどのばく露群においても観察されなかった1)。妊娠SDラット各群25匹に0、100、450、2,000ppmの2PG1EE を6-15日ばく露した結果、2,000ppmばく露群では摂餌量の低下による体重増加抑制があり、450ppmばく露群ではわずかな体重の減少と刺激によると思われる兆候がみられた1)。以上より、動物試験の結果から刺激症状および肝重量の相対的な増加のNOAELを300ppmと判断し、不確実係数等を考慮した60ppmを八時間濃度基準値として提案する。また、短時間ばく露に係る知見に乏しいことから、短時間濃度基準値は「設定できない」と提案する。	経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある（皮膚吸収性有害物質）。	ラット	01	BP Chemicals: Ethoxypropanol 90-day inhalation study in rats, Report BPC 46/851294. Huntingdon Research Centre, BP Chemicals, UK (1986) cited in The Toxicology of Glycol Ethers and its Relevance to Man, Technical report No.64, pp201, August 1995, ECETOC.	文献1は亜慢性反復ばく露および生殖毒性に係る調査結果であり、後者については母体の高濃度ばく露の知見による体重増加抑制がみられること、また信頼性のある知見であると判断したことより論文候補とした。	ヤシ殻活性炭管 脱着溶媒：ジクロロエチレン ローメタン：メタノール 0.1 L/min	固体捕集－ガスクロマトグラフ分析方法	ガスクロマトグラフ-水素炎イオン化検出器(GC/FID)	○	100 mg/50 mg 100 min					

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果						捕集法/分析法									
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価	備考				
バラコートジクロリド(1,1'-ジメチル-4,4'-ビリジニウム=ジクロリド)	1910-42-5	0.001mg/m ³ (バラコートイオンとして)	-	<p>雌雄SDラット（8又は16匹／群）に0.01, 0.1, 0.5, 1.0mg/m³ (バラコートイオン換算値) のパラコートアエロゾルを6時間/日、5日/週、3週間吸入ばく露した結果、0.1mg/m³ばく露群では、喉頭（喉頭蓋及び披裂突起部）角化型扁平上皮化生/上皮過形成及び上皮潰瘍が、0.5mg/m³ばく露群では喉頭・喉死及び急性炎症性細胞浸潤、下部細気管支上皮内膿肥大、肺泡壁肥厚などが生じた。本報告書では本知見ONoAELは雌雄とも0.01 mg/m³としている1）。</p> <p>雌雄SDラット（4又は16匹／群）に0.01, 0.1mg/m³ (バラコートイオン換算値) のバラコートアエロゾルを6時間/日、5日/週、3週間（15回）吸入ばく露した結果、3回ばく露を含めた計4回（初回ばく露3日後（ばく露は1回のみ）、3回ばく露翌日、3週間のばく露期間終了後）の剖検検査の結果、初回ばく露3日後で1.0mg/m³ばく露群では喉頭蓋基部外側に扁平上皮化生/過形成が認められ、3回ばく露翌日（注：ばく露量の記載なし）では喉頭（喉頭蓋及び披裂突起部）に潰瘍、壞死及び急性炎症性細胞浸潤が認められ、隣接した上皮扁平上皮に再生/過形成を伴う場合もあつた。なお0.01 mg/m³ばく露群では毒性所見は見られず、本報告書ではこれをNOAELとしている2）。</p> <p>以上より、3週間試験で得られた動物試験の結果、上気道・肺への影響を臨界影響としたNOAELを0.01 mg/m³と判断し、不確実係数等を考慮して0.001 mg/m³ (バラコートイオンとして) を八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある（皮膚吸収性有害物質）。</p> <p>文献1および2の引用元は以下の文献による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業抄録 バラコート（除草剤）、平成24年11月15日改訂、シンジェンタジャパン株式会社（未公表） ・農業抄録 バラコート（除草剤）、平成28年6月20日改訂、シンジェンタジャパン株式会社（一部公表） 	<p>01 食品安全委員会：3週間亜急性吸入毒性試験（ラット）①, 農薬評価書バラコート（2022）, p66.</p> <p>02 上気道・肺への影響 ラット 食品安全委員会：3週間亜急性吸入毒性試験（ラット）②, 農薬評価書バラコート（2022）, p68.</p> <p>03 Grimshaw P et al. (1979): Three week inhalation study in rats exposed to an aerosol of paraquat (repeat study). Unpublished report no. CTI/C/810 from Huntingdon Research Centre, Alconbury Weston, England. Submitted to WHO by Syngenta. Pre-GLP. Cited in Marrs TC; Adjei A: In: Joint FAO/WHO Meeting on Pesticide Residues. Pesticide Residues in Food 2003. FAO, WHO, Food Standards Agency, London, England (2003).</p>														
1-エチルピロリジン-2-オン	2687-91-4	10mg/m ³	-	<p>雌雄Wistarラット各群10匹に0、30、60、200 mg/m³ (実測値：0、29.8、62.6、197.5 mg/m³) の1-エチルピロリジン-2-オブ（純度99.8%）の蒸気を、6時間/日、5日/週、13週間（65回ばく露）吸入ばく露（鼻/頭部）した結果、30 mg/m³ばく露群の雄において、精子の数や異常が認められたが、用量依存性はなく偶発的であると報告されている。一方、200 mg/m³ばく露群の雌雄において、嗅覚上皮の変性/再生が認められた1）。</p> <p>雌雄Wistarラット（雄：10匹/群、雌：5匹/群）に0、80、200、400 mg/m³の1-エチルピロリジン-2-オブ（純度99.8%）の蒸気およびアエロゾルを、6時間/日、5日/週で28日間（20回ばく露）吸入ばく露（鼻/頭部）した結果、鼻腔の嗅上皮の変性/再生が200 mg/m³以上ばく露群の全雌雄で認められた。また、400 mg/m³ばく露群の雄（7/10匹）と雌（5/5匹）に喉頭蓋の底部に局所的な上皮変化が認められた2）。</p> <p>以上より、動物試験の結果から、嗅覚上皮の変性/再生を臨界影響としたNOAECを62.6 mg/m³と判断し、不確実係数等を考慮した10 mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>近年生殖毒性・発生毒性の知見があることから、今後早期に確認・検討が必要である。</p>	<p>嗅覚上皮の変性/再生 ラット</p>	<p>01 BASF SE (2013) N-Ethyl-2-pyrrolidone - 90-day inhalation study in Wistar rats - vapor. Report No. 5010033/, BASF SE, Ludwigshafen, unpublished cited in REACH 2013.</p> <p>02 BASF SE (2011) N-Ethyl-2-pyrrolidone - Subacute 28-day inhalation lung toxicity in Wistar rats - liquid aerosol with vapor fraction. Report No. 4010033/041021, BASF SE, Ludwigshafen, unpublished. Cited in REACH 2011.</p>													
フッ化スルフル	2699-79-8	1ppm	-																	
テメホス	3383-96-8	0.5mg/m ³	-	<p>各群雌各10匹ずつのラット（系統不明）に0、30、100、300ppmのフッ化スルフルを6時間/日、5日/週で13週間吸入ばく露を行ったところ、300ppmばく露群の雄では肺開始から45日後、雌では24日後に体重増加の抑制が認められた。また100ppmでは300ppmばく露群は上下の切端に斑点が出現した。また300ppmばく露群のラットではすべてに脳の軟核-被膜空胞化、ほとんどの肺と胸膜下組織病変（ラグエルソン細胞組織球球）、全ての雌ラットとほとんどの雄ラットの鼻粘膜に垂れ性の炎症反応、ほとんどの雄ラットに腎集合管の輕微な過形成が出現した。30ppmばく露群では神経学的あるいは他の影響が認められなかった。</p> <p>以上より、動物試験の結果から、歯、脳、肺、腎における変化を臨界影響として30ppmをNOAELと判断し、不確実係数等を考慮した1ppmを八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>歯、脳、肺、腎における変化 ラット</p>	<p>01 Eisenbrandt DL, Nitschke KD. Inhalation toxicity of sulfuryl fluoride in rats and rabbits. Fundam Appl Toxicol. 1989 Apr;12(3):540-57.</p>	<p>固体-IC</p>	<p>ヤシ殻活性炭管 0.05~0.1 L/min 100~200min 40mL 水酸化ナトリウム溶液 20 mL</p>	<p>IC/電気伝導度検出器</p>	<p>○</p>	<p>・10L捕集では濃度基準値の0.2倍の濃度から定量可能 ・1段目と2段目を分けて測定し、破過のないことを確認する。</p>									
1,2-エポキシ-3-イソプロピルエーテル	4016-14-2	1ppm	-	<p>雌雄Long-Evansラット10匹に0、400ppm の1,2-エポキシ-3-イソプロピルエーテルの蒸気を1日7時間、5日/週、10周間吸入ばく露した結果、ばく露群での軽度の眼刺激および呼吸困難が観察された。また有意な体重増加抑制およびヘモグロビンの増加を認め、剖検では腹膜脂肪の減少、肺気腫(n=4)、肝臓の斑点(n=2)が認められた。</p> <p>雌雄Wistarラット各群12匹に0、100、300, 600mg/kg bw/dayと1,2-エポキシ-3-イソプロピルエーテルを強制経口投与する反復生物学的・生殖発生スクリーニング併合試験を実施した。雌は交配14日前、交配中および妊娠中、および交配後4日まで投与し、雄は1日目から毎日投与して、投与43-44日目に剖検した。その結果、雌雄600 mg/kg bw/day投与群で流涎の増加がばく露18-25日間に見られた。300 mg/kg bw/day以上投与群では全例が交尾したにもかかわらず、全例が不妊であった（对照群:12/12匹妊娠）。100 mg/kg bw/dayでも妊娠率は对照群に比べて67%と著しく低下した。これらの雌では黄体の増加が見られ、また中間排卵期および発情期にあたるごとに、生産サイクルの乱れが示唆された。雄600 mg/kg bw/day投与群において、精巢の絶対/相対重量がそれほど有意に減少(9%/7%)したが、ヒストリカルコトールの範囲内であった。雄600 mg/kg bw/day投与群において、右側精巢および左側精巢と精巢上体の絶対の萎縮が各1匹で認められたが、精細胞周期を考慮した病理学的検査では被膜物質による毒性所見は認められなかつた。また見つけた影響が認められなかつた2-3）。</p> <p>以上より、動物試験の結果から、性機能および生殖能に対する有害影響を臨界影響としたLOAELを100mg/kg bw/dayと判断し、不確実係数等を考慮した1 ppm (5mg/m³) を八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>性機能および生殖能に対する有害影響 ラット</p>	<p>01 Hine CH, Kodama JK, Wellington JS, et al. The Toxicology of Glycidol and Some Glycidyl Ethers. AMA Arch Ind Health. 1956 Sep;14(3):250-64.</p> <p>02 CLH REPORT FOR 2,3-EPOXYPROPYL ISOPROPYL ETHER. ECHA, 2022.</p> <p>03 Committee for Risk Assessment RAC Opinion. 2,3-epoxypropyl isopropyl ether. Adopted 8 June 2023, ECHA.</p>	<p>ガラス纖維フィルター 1.0 L/min 60 min ろ過-高速液体クロマトグラフ分析法</p>	<p>アセトニトリル 4 mL HPLC/UV</p>	<p>P</p>	<p>濃度基準値が測定検討時のO.E.Lと比較して非常に小さい値であるため、検証が必要。</p>										

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果					捕集法/分析法							
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価		
パラコート (1,1'-ジメチル-4,4'-ビリジニウム塩)	4685-14-7	0.001mg/m ³ (パラコートとして)	-	雌雄SDラット (♂又は16匹/群) [0.0, 0.01, 0.1, 0.5, 1.0mg/m ³] (パラコートイオン換算値) のパラコートエアロゾル6時間間日、5日/週、3週間吸入ばく露した結果、0.1mg/m ³ ばく露群では、喉頭(喉頭蓋及び披裂突起部)・角化型扁平上皮化生/上皮形成及び上皮潰瘍が、0.5mg/m ³ ばく露群では喉頭の潰瘍・壞死及び急性炎症性細胞浸潤、下部細支管上皮内層肥大、肺胞壁肥厚などが生じた。本報告書では本知見NOAELは雌雄とも0.01 mg/m ³ といしている1)。 雌雄SDラット (4-16匹/群) [0.0, 0.01, 0.1mg/m ³] (パラコートイオン換算値) のパラコートエアロゾルを6時間間日、5日/週、3週間 (15回) 吸入ばく露した試験において、ばく露途中を含めて計4回(初回ばく露は1回のみ)、3回ばく露(3日後)、3回ばく露(3日後)の回復期間後) の剖検後した結果、初回ばく露3日後で0.1mg/m ³ ばく露群で喉頭蓋基部肺外側に扁平上皮化生/過形成が認められ、3回ばく露翌日 (注:ばく露量の記載なし) では喉頭(喉頭蓋及び披裂突起部)に潰瘍・壞死及び急性炎症性細胞浸潤が認められ、隣接した上皮扁平上皮化生/過形成を伴う場合もあつた。なほ0.01 mg/m ³ ばく露群では毒性所見は見られず、本報告書ではこれをNOAELとしている2) 3)。 以上より、3週間試験で得られた動物試験の結果、上気道・肺への影響を臨界影響としたNOAELを0.01 mg/m ³ と判断し、不確実係数等を考慮した0.001 mg/m ³ (パラコートイオンとして) を八時間濃度基準値として提案する。	経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある(皮膚吸収性有害物質)。 文献1および2の引用元は以下の文献による。 ・農業抄録パラコート(除草剤)、平成24年11月15日改訂、シンジェンタシバ(株式会社)(未公表)、 ・農業抄録パラコート(除草剤)、平成28年6月20日改訂、シンジェンタシバ(株式会社)(一部公表)	上気道・肺への影響	ラット	01	食品安全委員会: 3週間亜急性吸入毒性試験(ラット)①, 農業評価書パラコート(2022), p66.								
02	食品安全委員会: 3週間亜急性吸入毒性試験(ラット)②, 農業評価書パラコート(2022), p68.																
03	Grimshaw P et al. (1979): Three week inhalation study in rats exposed to an aerosol of paraquat (repeat study). Unpublished report no. CTL/C/810 from Huntingdon Research Centre, Alconbury Weston, England. Submitted to WHO by Syngenta. Pre-GLP. Cited in Marrs TC; Adjei A: In: Joint FAO/WHO Meeting on Pesticide Residues. Pesticide Residues in Food 2003. FAO, WHO, Food Standards Agency, London, England (2003).																
(4R)-バラ-メント-1,8-ジエン(別名:d-リモンエン)	5989-27-5	20mg/m ³	-	雄F344ラット各群10匹に0.2, 5, 10, 30, 75 mg/kg bw/dayのd-リモンエンを週5日、13週間強制経口投与した試験で、75 mg/kg bw/day群において、有意な相対肝重量の増加、相対腎重量の増加がみられた1)。 以上より、動物試験の結果から、肝、腎の重量増加を臨界影響として30 mg/kg/dayをNOAELと判断し、不確実係数等を考慮した20 mg/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。		肝、腎の重量増加	ラット	01	Webb DR, Ridder GM, Alden CL. Acute and subchronic nephrotoxicity of d-limonene in Fischer 344 rats. Food Chem Toxicol. 1989 Oct;27(10):639-49.								
りん酸ジメチル=(E)-1-メチル-2-(N-メチルカルバミル)ビニル(別名:モノクロトホス)	6923-22-4	0.05mg/m ³	-	6人の学生ボランティアに3.6、5.7µg/kg bw/dayのモノクロトホスを1ヶ月間経口投与したところ、血漿コレステロールはばく露前と比べてそれ平均で15%および24%減少したが、赤血球コレステロール活性は変わらなかった。コンアクト活性の兆候や症状は報告されなかつた。同報告のDiscussionでバロット試験の結果を記述しており、学生ボランティア8人中5人5µg/kg bw/dayを7日投与、3日休業、4日投与11日間の非連続経口投与したところ、血漿コレステロール活性が51%低下したが、赤血球コレステロール活性に対する影響はなく、コレアクト活性もなかった2)。 ビーグル犬(雌雄各3頭)对照群として雌雄各4匹に0.16, 0.16 ppm (0.004, 0.04, 0.4 mg/kg bw/day) のモノクロトホスを2年間経口投与した結果、どの濃度でも死亡率・全般的な健康状態、または体重増加に影響はなかつた。コレステロール活性は、1.6 ppm (0.04 mg/kg bw/day)までは、生物学的に意味のある影響は観察されなかつた。赤血球アセチルコレステロール活性は16 ppm (0.4 mg/kg bw/day)で大幅に減少し、NOAELは1.6ppm (0.04 mg/kg bw/day)であつた2)。 以上より、動物試験での赤血球アセチルコレステロール活性低下を臨界影響としたNOAELを0.04mg/kg bw/dayと判断し、不確実係数等を考慮した0.05mg/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。	20°Cの飽和蒸気圧における濃度換算値 0.027 mg/m ³ と濃度基準値 0.05 mg/m ³ との比が 0.54であることから、粒子と蒸気の両方を捕集できる捕集方法が必要である。 経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある(皮膚吸収性有害物質)。	赤血球アセチルコレステロール活性低下	イス	01	Verberk MM. Incipient cholinesterase inhibition in volunteers ingesting monocrotaphos or mevinphos for one month. Toxicol Appl Pharmacol. 1977 Nov;42(2):345-50.								
2-シアノアクリル酸エチル	7085-85-0	0.2ppm	1ppm	男女計14名のボランティアに、2-シアノアクリル酸メチル(MCA)を約1-60 ppm、60分間にばく露した試験 (5分ごとに濃度測定と自覚症状を調査) で、嗅覚閾値(1-3 ppm、鼻腔の刺激開始は約3ppm、眼刺激は5ppm、流涙・鼻汁は20ppm以上の濃度で認められた)、50-60ppmでは眼や鼻腔への強い刺激(ばく露後にも遅発性(ばく露後数時間後に発症、約2時間継続)の一過性の視覚への影響(眼のかすみ)が2名の被験者に認められた)。 シアノアクリル酸による職業性喘息(閉塞性肺機能障害)等に係る多数の症例報告に基づき計画された疫学研究として、接着剤製造工場で、MCAと2-シアノアクリル酸エチル(ECA)の双方にばく露した作業者450名(平均従事期間9.4年、男性72%、女性28%)を対象とした17年間のコホー研究では、ボトルグリッパーで作業に従事する116人の個人ばく露測定値(480分)は幾何平均値0.05ppmおよび最大値0.5ppm、またミキシング・保管作業に従事する3人の個人ばく露測定値(15-30分)は幾何平均値0.2ppmおよび最大値1.5ppmであった。両群を含めばく露群126人と非ばく露群との比較において閉塞性肺機能障害(一秒率<70%)の発生リスクは認めず、症例対照研究でもばく露と閉塞性肺機能障害および鼻炎・結膜炎との関連は認めなかつた2)。 なおMCA、ECA単独全般毒性として知見に乏しいこと、刺激性にかかる知見は両物質の類似性が高いと考えられることから、両物質を同等と見なして評価した。 以上より、ヒトの知見から閉塞性肺機能障害を臨界影響とした八時間濃度基準値0.2 ppm、眼および上気道刺激を臨界影響とした短時間濃度基準値1ppmを提案する。	GHS区分の呼吸器感作性について、ECAは「分類できない(2015年)(#1)」である一方、MCA(シアノアクリル酸メチル)は「区分(2018年)(#2)」にされていることについて、分類年度の違いによる相違と判断し、本検討会では新たに知見(根拠論文2)に基づき評価した。 #1,https://www.nite.go.jp/chem/ghs/m-nite-137-05-3.html #2,https://www.nite.go.jp/chem/ghs/m-nite-7085-85-0.html	閉塞性肺機能障害、眼および上気道刺激	ヒト	01	McGee WA, Oglesby FL, Raleigh RL, Fassett DW. The determination of a sensory response to alkyl 2-cyanoacrylate vapor in air. Am Ind Hyg Assoc J. 1968 Nov-Dec;29(6):558-61.								
02	Goodman M, Paustenbach D, Sipe K, Malloy CD, Chapman P, Burke ML, Figueroa R, Zhao K, Exuzides KA. Epidemiologic study of pulmonary obstruction in workers occupationally exposed to ethyl and methyl cyanoacrylate. J Toxicol Environ Health A. 2000 Feb 11;59(3):135-63.																

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果					捕集法/分析法				
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法
モリブデン	7439-98-7	水溶性化合物： 0.5mg/m ³ (モリブデンとして) 金属および 不溶性化合物：設定できない	-	ヒトへのばく露の知見は、高濃度の土壤地帯における食品摂取の知見およびモリブデン鉱山労働者の疫学研究があり、痛風に似た臨床症状（痛風様症候群）を示すものの、ばく露に関する情報が十分ではないなど、その因果関係は明確ではなく、また毒性発現は他の重金属の場合と同様に非特異的である（1, 2）。コロドームのモリブデン鉱焙燒工場で平均モリブデン濃度9.5mg/m ³ （全粉塵中の可能性モリブデン化合物）に4年間ばく露された25人の労働者について、尿中のモリブデン濃度は対照群で20~230 µg/Lに対してばく露群では120~11,000 µg/Lであった（痛風様症候群は観察されなかつた）（3）。可溶性である三酸化モリブデンについて、F344ラットおよびB6C3F1マウス各群50匹に0.10, 30, 100mg/m ³ の三酸化モリブデンを6時間/日、5日/週、2年間吸入ばく露した結果、雌雄ラット30mg/m ³ ばく露群以上で慢性の肺胞の炎症性変化、呼吸上皮のアリ変性および喉頭蓋の扁平上皮過形成の増加等がみられた。なお発がん性については、雌雄マウスの肺胞および気管支の腫瘍性変化が用量依存的に増加したが（some evidence of carcinogenic activity）、ラットでは腫瘍性変化は認められなかつた（4）。Fischer 344ラットおよびB6C3F1マウス雌雄各10匹に0.1, 3, 10, 30, 100mg/m ³ 三酸化モリブデンを13週間（6.5時間/日、5日/週）吸入させた結果、両種の雌雄の生産器の重量や組織、雄で精子の数や運動性に影響はないが、Sprague-Dawleyラット雄では1群にモリブデン酸アソニウム水和物を用いて0.40, 80µg/kg/dayのモリブデン8週間強制経口投与した結果、80mg/kg/day群で体重増加の有意な抑制を認めた。引き続きばく露群の雄と未処置群の雄を交尾させた結果、雌の受胎能力への影響はなかったが未処置群の雄のすべてでは80pmg以上の群で受胎率の著明な低下を認め、受胎しなかったアメノミと未処置の雌を交尾させたところ、受胎した雌はいなかつた。このため、80pmg以上の群での不妊は雌に原因があると考えられるが、組織検査の結果、これらの雄の精巢で精細管の変性が認められ、1%未満ばく露群では正常であった（5）。なお、モリブデンはヒトの体内ではキサンチオキシダーゼ、アルデヒドオキシダーゼ、亜硫酸オキシダーゼの補酵素（モリブデン補欠因子）として機能する必須元素であり、我が国モリブデンの平均的摂取量は225 µg/day、耐容上限量は米国人0.24日摂取試験（1,500µg/dayで影響は見られない、平均体重82kg）および日本人の食食主導者の献立分析による平均量（540µg/dayで影響は見られない）を基に、男性600 µg/day、女性 500 µg/dayとされている（7）。以上より、動物実験の結果から、呼吸器系の炎症を臨界影響としたNOAELを10mg/m ³ と判断し、不確実係数等を考慮して0.5mg/m ³ を水溶性のモリブデン化合物における八時間濃度基準値として提案する。なお難溶性である金属モリブデンおよび不溶性化合物については粉じんばく露以外の特異的な所見がわからぬことから、濃度基準値は設定しないことを提案する。	呼吸器系の炎症	ラットおよびマウス	01	Lener J, Bibr B. Effects of molybdenum on the organism (a review). <i>J Hyg Epidemiol Microbiol Immunol.</i> 1984;28(4):405-19.	ろ過-ICP-AES	混合セルロースエステルメンブレンフィルター(MCE)(酢酸セルロース内部カバセルと共に2Pホルダーカセットに収納)	NIOSH7301、7302、7303のいずれかにより酸分解を行う	ICP-AES	○	・溶解法については、粒子の状態に依存するので一つのみを提案できないが、安全性を考慮するとNIOSH7302（マイクロウェーブ、硝酸）を基本に検討することが望ましい。 ・SAMPLE STABILITY: Stableと記載されているため保存安定性については問題無いと判断できる。 ・固体であるため波通についでは問題無い
二酸化セレン	7446-08-4	0.02mg/m ³ (セレンとして)	-	米国のセレン濃度が高い農場地域に居住し、セレン摂取量が最大724 µg Se/日、最低68µg Se/日、平均239µg Se/日（約半数以上の対象者が200µg Se/日以上の摂取との記載あり）であった住民142名には、爪の疾患を含めた、臨床症状及び生化学指標に有意な影響は認められなかつた（1）。Yangは、中国の環境中セレン濃度が非常に高い地域に居住する400名に関し、食事からのセレンの摂取量や体内濃度等を調べ、また臨床症状調査と生化学的検査を行った。5名の対象者がセレン中毒症状が認められ、この5名のセレン摂取量は平均1,270 µg Se/日程度であった。また、850µg Se/日相当程度までは明確な症状は見られなかつたとしている。当初の調査から6年後に再調査を行っており、上記の対象者がセレン中毒から回復していることを報告し、食事によるセレン摂取量が減少してあり、約800µg Se (819 ± 126 µgSe)/日と推定される。この800µg Se/日をNOAELとして、また中毒症状が認められた時点での有症者の推定セレン摂取量は最低値13µg Se/日をLOAELとする（3-4）。令和5年度にセレン化合物およびセレン化水素について濃度基準値（それぞれ0.02 (Se) mg/m ³ , 0.006ppm (Se)）が設定された。なお、セレン化合物はいずれもセレンの日本人成人の耐容上限量に基づいた提案である。 ・二酸化セレン固有の有害性にかかる知見に乏しいことから、令和5年度のセレン化合物の根拠に順じて濃度基準値を設定した。	セレン中毒	ヒト	01	Longnecker MP, Taylor PR, Levander OA, Howe SM, Veillon HC, McAdam PA, et al. Selenium in diet, blood, and toenails in relation to human health in a seleniferous area. <i>Am J Clin Nutr</i> 1991; 53 (5) : 1288-1294.						
三フッ化ほう素	7637-07-2	0.1 ppm	-	雌雄ラット（n=43）、雌雄ウサギ（n=6）、雌雄モルモット（n=40）【すべて種別の記載なし、実験は3回実施、n=3回実施の合計匹数】に三フッ化ほう素3.0、7.7、12.8ppm(8.2, 21, 35mg/m ³)を7時間/日、5日/週で最長6ヶ月間反復吸入ばく露したところ、3.0ppm（実測濃度1.5ppm）でモルモットおよびラットに肺炎の病理組織学的所見が認められた。著者らはこの結果を基に0.3ppmを職業ばく露における閾値として暫定的に提案している（1）。Fischer 344雌雄ラット（n=160）に三フッ化ほう素0.0, 2.0, 6.0, 17mg/m ³ （0.0, 0.7, 2.2, 6.1ppm）を6時間/日、5日/週で13週間反復吸入ばく露したところ、6.0mg/m ³ （2.2ppm）以上で原中カルシウム値の低下が認められたものの、毒性は示さなかつた（2）。また、17mg/m ³ で血中尿素窒素の増加があり中毒性尿細管ネローゼの兆候が認められた（2）。Sprague-Dawley雌雄ラット（n=20）に三フッ化ほう素0.8, 5.3, 24.6, 74.4mg/m ³ を4時間単回吸入ばく露したところ、24.6mg/m ³ 以上で気管分岐部での纖毛の喪失が認められた（3）。以上から、動物実験の結果より肺炎を臨界影響としたLOAELを1.5ppmと判断し、不確実係数を考慮した八時間濃度基準値0.1ppmを提案する。また、短時間濃度基準値に関しては情報が限られているため、設定は見送ることを提案する。	肺炎	モルモット、ラット	01	Torkelson TR, Sadek SE, Rowe VK. The toxicity of boron trifluoride when inhaled by laboratory animals. <i>Am Ind Hyg Assoc J</i> . 1961 Aug;22:263-70.						
							02	Rusch GM, Hoffman GM, McConnell RF, Rinehart WE. Inhalation toxicity studies with boron trifluoride. <i>Toxicol Appl Pharmacol</i> . 1986 Mar 30;83(1):69-78.						
							03	Rusch GM, Bowden AM, Muijser H, Arts J. Respiratory irritation associated with inhalation of boron trifluoride and fluorosulfonic acid. <i>Inhal Toxicol</i> . 2008 May;20(7):665-70.						

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果					捕集法/分析法								
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価	備考		
アジ化水素	7782-79-8	-	0.1ppm	<p>石油製品中の硫黄分析装置に隣接して作業する一部の研究員から頭痛や鼻づまりなどが報告された。調査の結果、二酸化硫黄の自動滴定の条件下で分析精度を上げるために滴定セル溶液にジ化ナトリウムを添加することと、希塩酸との反応による滴定セルでのアジ化水素の平均生成速度は11.9 mg/分であり、放出されたアジ化水素ガスによる研究室内の室内環境濃度（14-30分測定）は0.5-64ppm（発生装置からの距離は48-3インチ）であった。この結果より、著者らは愁訴の原因がアジ化水素0.5ppmのばく露によるものといい1。</p> <p>気中のアジ化水素濃度が0.3-3.9 ppmのアジ化鉛製造工場に従事する男性従業員10人（WG注：平均年齢：41.1歳、ばく露期間幾何平均2.3年（1か月-16年））の臨床検査結果を評価した結果、愁訴、心電図、視野、血液検査、肝機能、腎機能にはアジ化物による影響は見られなかったが、4名の作業者はシフト中の血圧測定の結果、作業直後に血圧は低下し、3時間のシフト4回の作業中断時およびシフト後には回復した2。</p> <p>以上より、ヒトの血管拡張効果に伴う血圧低下を臨界影響として0.3 ppmをLOELと判断し、不確実係数等を考慮した0.1 ppmを短時間濃度基準値として提案する。なお、慢性影響に資する試験に乏しいことより、八時間濃度基準値は「設定できない」を提案する。</p>				01	<p>Haas JM, Marsh WM Jr. Sodium azide: a potential hazard when used to eliminate interferences in the iodometric determination of sulfur. Am Ind Hyg Assoc J. 1970 May-Jun;31(3):318-21.</p>		02	<p>GRAHAM JD, ROGAN JM, ROBERTSON DG. Observations on hydrazoic acid. J Ind Hyg Toxicol. 1948 Mar;30(2):98-102.</p>						
フッ化亜鉛	7783-49-5	-	2.5ppm (フッ素として)	<p>フッ化物にはばく露した肥料工場の従業員74人と対照群67人の臨床検査結果を比較した結果、ばく露群の23%に骨密度の軽度の増加を認め、環境中フッ素濃度の平均値は有観者では3.38 mg/m³、無観者では2.64 mg/m³であった1。</p> <p>亜鉛焙焼行程に平均5.5±2.7 年間従事していた234 名の労働者に関する調査では、肺機能の障害および喘息の症状は発生しなかった。なお、亜鉛粉じんばく露量は2.5~4.5 mg/m³であり、90%が酸化亜鉛であった。粉じん粒子径3 μm未満のものを25%程度含有している2。</p> <p>フッ化亜鉛単独の有害影響の知見に乏しいため、フッ素の無機化合物の長期ばく露による影響として評価した。なお、本物質はフッ素と亜鉛双方の有害性情報から検討をした。</p> <p>以上より、無機のフッ化物によるヒトの骨変化（骨フッ素症）を標的影響としたNOAELを2.64 mg/m³と判断し、不確実係数等を考慮した2.5mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>			骨変化（骨フッ素症）	ヒト	01	<p>DERRYBERRY OM, BARTHOLEMEW MD, FLEMING RB. Fluoride exposure and worker health. The health status of workers in a fertilizer manufacturing plant in relation to fluoride exposure. Arch Environ Health. 1963 Apr;6:503-14.</p>		02	<p>Roto P. Asthma, symptoms of chronic bronchitis and ventilatory capacity among cobalt and zinc production workers. Scand J Work Environ Health. 1980;6 Suppl 1:1-49.</p>		ろ過+ろ過（反応）-イオンクロマトグラフ分析法 硝酸セロースろ紙 +炭酸ナトリウム処理ろ紙 1.0 L/min. 8.0 mmol/L炭酸ナトリウム+ 1.0mmol/L炭酸水素ナトリウム 10 mL	IC/電気化学検出器	○	<p>・過試験データがないが 固体のため問題ないと考 えられる。</p>
亜セレン酸	7783-00-8	セレンとして 0.02mg/ m ³	-	<p>米国のセレン濃度が高い農場地域に居住し、セレン摂取量が最大724 μg Se/日、最低68 μg Se/日、平均239 μg Se/日（約半数以上の対象者が200 μg Se/日以上の摂取との記載あり）であった住民142名には、爪の疾患を含めた、臨床症状及び生化学指標に有意な影響は認められなかった1。</p> <p>Yangは、中国の環境中セレン濃度が非常に高い地域に居住する400名に問し、食事からのセレンの摂取量や体内濃度等を調べ、また臨床症状調査と生化学的検査を行った。5名の対象者がセレン中毒症状が認められ、この5名のセレン摂取量は平均1,270 μg Se/日相当であった。また、850 μg Se/日相当程度までは明確な症状は見られなかっとしている3。</p> <p>当時の調査から6年後に再調査を行っており、上記の対象者がセレン中毒から回復していることを報告し、食事によるセレン摂取量が減少しており、約800 μg Se (819 ± 126 μg Se) /日と推定されるとし、この800 μg Se/日がNOAELとして、また中毒症状が認められた時点での有症者の推定セレン摂取量最低値913 μg Se/日をLOAELとするとともに、安全マージンを加味して400 μg Se/日をTDとしている3。</p> <p>なお、日本人におけるヒトの推奨摂取量について、成人のセレンの摂取量は平均約100 μg/dayと推定されている。また、成人及び高齢者の耐容上限量は、最低健康障害非発現量（800/60=13.3 μg/kg 体重/日）に不確実性因子2を適用した6.7 μg/kg/bw/dayとしている4。</p> <p>以上より、日本人成人的耐容上限量（6.7 μg/kg bw/d×50kg=335μg/d）と平均摂取量100 μg/dayとの差235μg /day を職業暴露によるセレン中毒を防ぐための最大許容量と判断し、呼吸量で補正した0.02 mg Se/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>			セレン中毒	ヒト	01	<p>Longnecker MP, Taylor PR, Levander OA, Howe SM, Veillon HC, McAdam PA, et al. Selenium in diet, blood, and toenails in relation to human health in a seleniferous area. Ann J Clin Nutr 1991; 53 (5) : 1288-1294.</p>		02	<p>Yang G, Zhou R. Further observations on the human maximum safe dietary selenium intake in a seleniferous area of China. J Trace Elem Electrolytes Health Dis. 1994 Dec;8(4):159-65.</p>		論文1)は比較的高レベルのばく露を受けたものの症状の認められなかった集団についての報告で、論文2)3)は、高レベルのばく露を受け中毒症状を発したものを含む対象者についての報告であり、これらからNOAELを設定可能である。また、これらの知見を基に日本人の耐容上限量が文献4)で提案されており、これから日本人としてマージンを推定することが可能であることからキー論文として採用した。			

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果					捕集法/分析法									
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価	備考			
セレン化水素	7783-07-5	セレンとして0.006ppm	-	セレン化水素の短期ばく露した化学者に咳、眼・鼻に強い刺激があり、2-3時間以内に呼吸困難となった。実験中の事故にセレン化水素にばく露した白人男性の頭に強い刺激、咳、呼吸困難と認めた。セレン化水素に長期ばく露されたセレン整流工場の作業員25人に、吐き気、嘔吐、めまい、極度の疲労感を感じた。いずれの知見もばく露量および期間等の記載はない。 モルモット群16頭に1、4、6、7、42 mg/m ³ のセレン化水素を8時間単回ばく露した結果、1 mg/m ³ 以上の動物が呼吸器の炎症と肝臓の損傷の症状を示して死亡した。ばく露後5日経過以降に死亡したケースでは急性所見はほとんどないが重急性気管支肺炎が認められた。ヒトにおいて5 mg/m ³ の事例がばく露により眼・鼻の刺激性を認め、また1mg/m ³ のばく露では数分間のばく露では悲劇を認めなかったとの記載がある ²⁾ 。 米国でのセレン濃度が高い農場地域に居住し、セレン摂取量が最大724 µg Se/日、最低68 µg Se/日、平均239 µg Se/日（約半数以上の対象者が200 µg Se/日以上の摂取との記載あり）であった住民142名には、爪の疾患を含めた、臨床症状及び生化学指標に有意な影響は認められなかっただ ³⁾ 。 Yangらは、中国の環境中セレン濃度が非常に高い地域に居住する400名に聞き、食事からのセレンの摂取量や体内濃度等を調べ、また臨床症状調査と生化学的検査を行った。5名の対象者でセレン中毒症状が認められ、この5名のセレン摂取量は平均1,270 µg Se/日相当であった。また、850 µg Se/日相当程度までは明確な症状は見られなかっただとしている ⁴⁾ 。 当初の調査から6年後に再調査を行つており、上記の対象者がセレン中毒から回復していることを報告し、食事によるセレンの摂取量が減少しており、約800 µg Se (819 ± 126 µg Se) /日と推定された ⁵⁾ 。この800 µg Se/日をNOAELとして、また中毒症状が認められた時点での有症者の推定セレン摂取量最低913 µg Se/日をLOAELとするとともに、安全マージンを考慮して400 µg Se/日をTDIとしている ⁶⁾ 。 なお、日本人におけるセレンの推奨摂取量について、成人セレンの摂取量は、最低健康障害非発現量（800/60=13.3 µg/kg 体重/日）に不確実性因子2を適用した 6.7 µg/kg bw/dayとしている ⁶⁾ 。 以上より、日本人成人の耐容上限量（6.7 µg/kg bw/day×50kg=335µg/d）と平均摂取量100 µg/dayとの差である235µg /day を職業ばく露によるセレン中毒を防ぐための最大許容量と判断し、呼吸量で補正した0.02 mg Se/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。	セレン化合物はいずれもセレンの摂取量にもとづいた提案であり、根拠論文など記載内容は全て同一とした。	セレン中毒	ヒト	01	有害性評価書Ver.1.0 No.128セレン及びその化合物（新エネルギー・産業技術総合開発機構）										
セレン酸	7783-08-6	セレンとして0.02mg/m ³	-	米国でのセレン濃度が高い農場地域に居住し、セレン摂取量が最大724 µg Se/日、最低68 µg Se/日、平均239 µg Se/日（約半数以上の対象者が200 µg Se/日以上の摂取との記載あり）であった住民142名には、爪の疾患を含めた、臨床症状及び生化学指標に有意な影響は認められなかっただ ³⁾ 。 Yangらは、中国の環境中セレン濃度が非常に高い地域に居住する400名に聞き、食事からのセレンの摂取量や体内濃度等を調べ、また臨床症状調査と生化学的検査を行った。5名の対象者でセレン中毒症状が認められ、この5名のセレン摂取量は平均1,270 µg Se/日相当であった。また、850 µg Se/日相当程度までは明確な症状は見られなかっただとしている ⁴⁾ 。 当初の調査から6年後に再調査を行つており、上記の対象者がセレン中毒から回復していることを報告し、食事によるセレンの摂取量が減少しており、約800 µg Se (819 ± 126 µg Se) /日と推定された ⁵⁾ 。この800 µg Se/日をNOAELとして、また中毒症状が認められた時点での有症者の推定セレン摂取量最低913 µg Se/日をLOAELとするとともに、安全マージンを考慮して400 µg Se/日をTDIとしている ⁶⁾ 。 なお、日本人におけるセレンの推奨摂取量について、成人セレンの摂取量は、最低健康障害非発現量（800/60=13.3 µg/kg 体重/日）に不確実性因子2を適用した 6.7 µg/kg bw/dayとしている ⁶⁾ 。 以上より、日本人成人の耐容上限量（6.7 µg/kg bw/day×50kg=335µg/d）と平均摂取量100 µg/dayとの差である235µg /day を職業ばく露によるセレン中毒を防ぐための最大許容量と判断し、呼吸量で補正した0.02 mg Se/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。	セレン化合物はいずれもセレンの摂取量にもとづいた提案であり、根拠論文など記載内容は全て同一とした。	セレン中毒	ヒト	01	Longnecker MP, Taylor PR, Levander OA, Howe SM, Veillon HC, McAdam PA, et al. Selenium in diet, blood, and toenails in relation to human health in a seleniferous area. Am J Clin Nutr 1991; 53 (5) : 1288-1294.		論文1）2）は本物質にかかる刺激性にかかる知見である。論文3）は比較的高レベルのばく露を受けたものの症状の認められなかっただ集団についての報告で、論文4）5）は、高レベルのばく露を受け中毒症状を発したものを含む対象者についての報告であり、これらからNOAELを設定可能である。また、これらの知見を基にした日本人の耐容上限量が文献6）で提案されており、これらから日本人としてのマージンを推定することが可能であることがからキー論文として採用した。								
弗化カリウム	7789-23-3	2.5ppm (フッ素として)	-	フッ化物にはばく露される肥料工場の従業員74人と对照群67人の臨床検査結果を比較した結果、ばく露群の23%に骨密度の軽度の増加を認め、環境中フッ素濃度の平均値は有所見者では3.38 mg/m ³ 、無所見者では2.64 mg/m ³ であった ¹⁾ 。 以上より、無機のフッ化物によるヒトの骨変化（骨フッ素症）を臨界影響としたNOAELを2.64 mg/m ³ と判断し、不確実係数等を考慮した2.5mg /m ³ を八時間濃度基準値として提案する。	弗化カリウム単独の有害影響の知見に乏しかつて、フッ素の無機化合物の長期ばく露による影響として評価した。	骨変化（骨フッ素症）	ヒト	01	DERRYBERRY OM, BARTHOLOMEW MD, FLEMING RB. Fluoride exposure and worker health. The health status of workers in a fertilizer manufacturing plant in relation to fluoride exposure. Arch Environ Health. 1963 Apr;6:503-14.			ろ過+ろ過(反応)-イオンクロマトグラフ分析法	硝酸セルロースろ紙+炭酸ナトリウム処理ろ紙 1.0 L/min.	8.0 mmol/L炭酸ナトリウム+1.0mmol/L炭酸水素ナトリウム 10 mL	IC/電気化学検出器	○	・破過試験データがないが固体のため問題無いと考えられる。		
亜硝酸パラフィン	8002-74-2	設定できない	-	吸入ばく露によるヒトおよび動物の全身影響および局所影響にかかる知見に乏しい。 以上より、八時間濃度基準値は設定できないと判断する。	経口投与試験での知見は散見されるが高用量投与で有害性が確認されておらず、また本物質の物理化学的性状（融点46-88°C、不溶性、等）から、ヒュームや粉じんとして経気道ばく露されても全身に移行する可能性は極めて低いと考えられる。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果					捕集法/分析法									
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価				
ピレトラム	8003-34-7	2mg/m ³	-	<p>雌雄CDラット各群15匹C0, 11, 30, 100, 356mg/m³ビレトラム抽出物（ピレスル量として）のエタノール（平均粒径2.7μm）を6時間/日、5日/週、13時間吸入ばく露した結果、30 mg/m³以上ばく露群で呼吸器刺激症状は100 mg/m³以上ばく露群で体重増加抑制および貧血が、356mg/m³ばく露群で全身影響の所見（呼吸困難、過活動および痙攣）が認められた。顕微鏡的検査では呼吸器の刺激所見は対照群を含むすべての群で観察され、356mg/m³ではより顕著であった。</p> <p>雌雄CD-1マウス各群60匹C0, 100, 2,500, 5,000ppm（雄：0, 13.8, 346, 686mg/kg/day, 雌：0, 16.6, 413, 834mg/kg/day）のビレトラム抽出物を18×2時間混餌投与した結果、雄2,500ppm以上投与群で肝臓の相対・絶対重量増加が認められたが、細胞内脂肪変性は見られずミクロソーム酵素誘導によるものと考えられ、NOELは100ppmと考えられた。</p> <p>雌雄CDラット各群60匹C0, 100, 1,000, 3,000ppm（雄：0, 4.37, 42.9, 130mg/kg bw/day, 雌：0, 5.39, 55.5, 173mg/kg bw/day）のビレトラム抽出物（ピレスル量として）を104週間混餌投与した結果、雄3,000ppmばく露群で体重増加抑制、SGOTおよびSGPTの上昇を認めた。なお、雄1,000ppmばく露群以上より雄3,000ppmばく露群では甲状腺組織の過形成および虚脱性甲状腺の程度の増加を認めだが、これらの頻度はオストリカルコトロールの範囲内であった（1,2）。</p> <p>CDラット雌雄各群28匹C0, 100, 1,000, 3,000ppm（換算値：0, 5, 50, 150mg/kg bw/d）のビレトラム抽出物（ピレスル量として）をF0世代は交配前に77-95日間、F1世代は雌雄各群28匹に同様の混餌投与した二世代生殖毒性試験の結果、F0世代には毒性影響は認められず、F1世代は1,000ppm以上投与群で親動物としての毒性影響（体重増加抑制）が認められた。見はF1, F2世代共に1,000ppm以上投与群で体重増加抑制が認められた。100ppmばく露群では投与による影響を認めなかつた。</p> <p>以上より、動物試験の結果から、呼吸器刺激症状を臨界影響としたNOAELを11mg/m³と判断し、不確実係数等を考慮した2 mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>呼吸器刺激症状 ラット</p> <p>01 Schoenig GP (1995) Mammalian toxicology of pyrethrum extract. In: Casida JE, Quistad GB (Eds) Pyrethrum flowers: production, chemistry, toxicology and uses, Oxford University Press, New York, Oxford, 249-257.</p> <p>02 Memorandum. Pyrethrum extract: Review of rat chronic feeding/ carcinogenicity study (IRDC 1990) and mouse carcinogenicity study (IRDC 1990). U.S. Environmental Protection Agency, Office of Pesticides and Toxic Substances. Tox Review 01079, 1994. Cited in ATSDR.</p>	<p>（ろ過+固体 ファイバーフィ ルター+XAD- 2） 1 L/min 60 min</p>	<p>OVS-2（グラス ガスクロマトグラフ分 析方法</p> <p>トルエン 4 mL</p>	<p>GC/ECD</p> <p>○</p>	<p>・IFV評価：蒸気圧不明で計算できます ・水溶液として噴霧使用する農薬であるため、ろ過捕集と固体捕集が必要</p>										
ジメトン	8065-48-3	0.05mg/m ³	-	<p>シメトンを毎日カプセルで経口投与したヒトボランティアの試験では、0.06 mg/kgで5人中1人の血漿コリンエステラーゼ値が24日後に減少した。</p> <p>雌のアルビノラット各群12-18匹に0, 1, 3, 10, 20, 50 ppm (ACGIH換算：0.05, 0.16, 0.5, 1.1, 2.6 mg/kg/d) のジメトンを11-16時間混餌投与した結果、50 ppmばく露群でコリン活性の毒性所見を示し、全血および脳コリンエステラーゼ活性はコントロール群の5%程度であった。20ppm及び10ppmばく露群では、全血と脳のコリンエステラーゼ活性はコントロール群のそれより15%程度、27%程度であった。3及び1ppmばく露群では、脳、全血、血漿、赤血球のコリンエステラーゼ活性はコントロール群のそれより66%、69%、70%、80%並に93%、90%、95%とあつた。</p> <p>イソイ、1, 2, 5 ppm (0.025, 0.047, 0.149 mg/kg) のジメトンを24時間反復ばく露投与した結果、1ppmばく露群では赤血球コリンエステラーゼ阻害作用は認められず、3)、ヒボラティア試験を支持する結果であった。</p> <p>以上より、動物試験の結果からコリンエステラーゼ活性を臨界影響として、NOAELを0.05 mg/kg/dと判断し、不確実係数等を考慮した0.05 mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>コリンエステラーゼ活性 アルビノラット</p> <p>01 Rider JA, Moeller HC, Puletti EJ, Swader JI. Toxicity of parathion, systox, octamethyl pyrophosphamide, and methyl parathion in man. <i>Toxicol Appl Pharmacol</i>. 1969 May;14(3):603-11.</p> <p>02 Barnes JM, Denz FA. The reaction of rats to diets containing octamethyl pyrophosphamide (schradan) and OO-diethyl-Sethylmercaptoethanol thiophosphate (systox). <i>Br J Ind Med</i>. 1954 Jan;11(1):11-9.</p> <p>03 Frawley, J. P., and H. N. Fuyat. "Pesticide Toxicity, Effect of Low Dietary Levels of Parathion and Systox on Blood Cholinesterase of Dogs." <i>Journal of Agricultural and Food Chemistry</i> 5.5 (1957): 346-348.</p>														
亜セレン酸ナトリウム	10102-18-8	セレンとして0.02mg/m ³	-	<p>米国のセレン濃度が高い農場地域に居住し、セレン摂取量が最大724 μg Se/日、最低68 μg Se/日、平均239 μg Se/日（約半数以上の対象者）200 μg Se/日以上の摂取との記載あり）であつた住民142名には、爪の疾患を含めた、臨床症状及び生化学指標に有意な影響が認められなかった。</p> <p>Yangは、中国の環境中セレン濃度が非常に高い地域に居住する2400名に食事からのセレンの摂取量や体内濃度等を調べ、また臨床症状調査と生化学的検査を行った。5名の対象者でセレン中毒症が認められ、この5名のセレン摂取量は平均1,270 μg Se/日相当であった。また、850 μg Se/日相当程度までは明確な症状は見られなかつたとしている。</p> <p>当初の調査から6年後に再調査を行っており、上記の対象者がセレンを経口していきることを報告し、食事によるセレン摂取量が減少しており、約800 μg Se (819 ± 126 μg Se)/日と推定された。この800 μg Se/日をNOELとして、中毐症発生率を認められた時点での有症者の推奨量を913 μg Se/日をLOAELとするとともに、安全マージンを考慮して400 μg Se/日をTDIとしている。</p> <p>なお、日本人におけるセレンの推奨摂取量について、成人セレンの摂取量は平均で約100 μg/dayと推定されている。また、成人及び高齢者の耐容上限量は、最低健康障害発現量 (800/60=13.3 μg/kg 体重/日) に不確実性因子2を適用した 6.7 μg/kg bw/dとされている。</p> <p>以上より、日本人成人の耐容上限量 (6.7 μg/kg bw/d×50kg=335μg/d) と平均摂取量100 μg/dayとの差235μg /day を職業ばく露によるセレン中毒を防ぐための最大許容量と判断し、呼吸量を補正した0.02 mg Se/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>セレン化合物はいずれもセレンの摂取量にもとづいた提案であり、根拠論文など記載内容は全て同一とした。</p> <p>セレン中毒 ヒト</p> <p>01 Longnecker MP, Taylor PR, Levander OA, Howe SM, Veillon HC, McAdam PA, et al. Selenium in diet, blood, and toenails in relation to human health in a seleniferous area. <i>Am J Clin Nutr</i> 1991; 53 (5) : 1288-1294.</p> <p>02 Yang G, Zhou R. Further observations on the human maximum safe dietary selenium intake in a seleniferous area of China. <i>J Trace Elem Electrolytes Health Dis</i>. 1994 Dec;8(3-4):159-65.</p> <p>03 Yang G, Yin S, Zhou R, Gu L, Yan B, Liu Y, Liu Y. Studies of safe maximal daily dietary Se-intake in a seleniferous area in China. Part II: Relation between Se-intake and the manifestation of clinical signs and certain biochemical alterations in blood and urine. <i>J Trace Elelctrolytes Health Dis</i>. 1989 Sep;3(3):123-30. Erratum in: <i>J Trace Elelctrolytes Health Dis</i> 1989 Dec;3(4):250.</p> <p>04 日本人の食事摂取基準（2020年版）</p>														
一酸化窒素	10102-43-9	0.5ppm	-	<p>NOは容易に酸化されてNO₂になり、その後過酸化が起こる。NO₂ばく露ではNO₂にも同時にばく露されるため、NOの作用(NO2の作用を区別することは難しい)。</p> <p>1974年から1979年の間に2つの炭鉱（坑内労働を開始した炭鉱労働者1,369人（平均3,017シフト、坑内労働）について実施されたコホート研究で、平均吸入性粉じん濃度は1.89mg/m³（うち石炭：0.067 mg/m³）、窒素酸化物濃度は0.58ppm(NO)と0.007ppm(NO₂)であった。露山労働者一人当たり平均9回の肺機能測定値が入手可能であり、基準値と比較すると、肺機能測定値は平均10%, 101, 99%と良好であった。GEE（一般化指定方程式）回帰モデルでは、粉じんばく露による害の影響は明らかにされなかつた。窒素酸化物 (NO+NO₂) の累積ばく露濃度は、肺機能に対して小さく明らかに有意な影響を示した (ΔFVC = -0.0008 ml/(220 ppmS (S:シフトの回数)); p = 0.86, ΔFEV1 = -0.003 ml/(220 ppmS); p = 0.50, ΔFEV1%FVC = -0.07%/ (220 ppmS); p = 0.22)。なお、先行研究で示されている肺機能に対する粉塵ばく露の影響が証明されなかつたことは粉塵レベルが低いことで一部説明できる。</p> <p>NO₂ばく露は肺機能に関連した影響を示さなかつた。</p> <p>以上より、ヒトの疫学研究の知見から、呼吸器障害を臨界影響としたNOAELを0.58 ppmと判断し、八時間濃度基準値0.5 ppmを提案する。</p>	<p>呼吸器障害 ヒト</p> <p>01 ENVIRONMENTAL HEALTH CRITERIA 188. Nitrogen Oxides (Second Edition). World Health Organization Geneva, 1997.</p> <p>02 Morfeld P, Noll B, Büchte SF, Derwall R, Schenk V, Bicker HJ, Lenaerts H, Schrader N, Dahmann D. Effect of dust exposure and nitrogen oxides on lung function parameters of German coalminers: a longitudinal study applying GEE regression 1974-1998. <i>Int Arch Occup Environ Health</i>. 2010 Apr;83(4):357-71.</p>	<p>・詳細調査の結果、八時間時間加重平均値に値する一酸化窒素 (NO) 単独ばく露の知見に乏しい。 ・ヒトの知見ではNOと二酸化窒素 (NO₂) の混合ばく露評価が多く、別々の評価は困難。NO₂の有害性がNOよりも高いことから、NOとNO₂の混合ばく露の知見で判断することは、安全側に評価できると判断した。 ・上記判断により、コホート研究である文献2)を採用した。</p> <p>固体（反応）捕集－イオン化レリキヨーシップ管(400 mg)の順の連結する溶媒脱着：1.5%トリアルコールアミン溶液脱着法</p>	<p>トリエタノールアミン含 浸レリキヨーシップ管(400 mg), 反応 管(酸化剤含有), ト リエタノールアミン含 浸レリキヨーシップ管(400 mg)の順の連 結する</p> <p>0.025 L/min</p> <p>240 min</p>	<p>イオンクロマトグラフ-電気伝導度検出器(IC-CD)</p> <p>○⇒P</p>	<p>当初検討していたOEL 25ppmよりも濃度基準値が低く設定されたため、再度検証が必要。</p>										

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果						捕集法/分析法										
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価	備考					
テルブロス	13071-79-9	0.01mg/m ³	-	<p>Long-Evansラット（個体数不明）に0、0.0125、0.05、0.1（6週、12週後に0.2、0.4に増加）mg/kg/dayテルブロスを2年間経口投与した試験では、0.0125mg/kg/day投与群赤血球のコリンエステラーゼ活性阻害作用が見られ（阻害率は不明）、NOAELはそれよりも低いと考えられた。</p> <p>テルブロスを含有する殺虫剤を使用する農業従事者11人（平均推定ばく露量：経皮72μg/hr、経気道11μg/hr、平均ばく露時間：7.4時間）を対象に、尿中のアルキルリビドの量および赤血球・血漿コリンエステラーゼ活性阻害を測定した結果、ばく露した農業従事者に影響は見られなかった。</p> <p>以上より、ヒトの経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある（皮膚吸収性有害物質）。</p> <p>以上より、ヒトの赤血球コリンエステラーゼ活性の阻害を臨界影響としたNOAEL（経気道ばく露）を11μg/hr (0.008mg/m³)と判断し、0.01 mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>		ヒト	01	U.S. Environmental Protection Agency: The Revised HED Chapter of the Reregistration Eligibility Decision Document (RED) for Terbufos, Case #0109 (PC Code 105001).				(ろ過+固体) 捕集ガスクロマトグラフ分析方法	OVS-2 (石英フィルター+XAD-2) 0.2~1 L/min, 12~2400 min	トルエン/アセトン (9/1) 2 mL	GC/FPD	○	<p>・IFV評価：497</p> <p>・農薬として噴霧して使用されるため、ろ過捕集と固体捕集が必要</p>				
セレン酸ナトリウム	13410-01-0	セレンとして0.02mg/m ³	-	<p>米国のセレン濃度が高い農場地域に居住し、セレン摂取量が最大724 μg Se/日、最低68 μg Se/日、平均239 μg Se/日（約半数以上の対象者が200 μg Se/日以上の摂取）の記載あり。また住民142名には、爪の疾患を含めた、臨床症状及び生化学指標に有意な影響は認められなかった。</p> <p>Yangは、中国の環境中セレン濃度が非常に高い地域に居住す400名に關し、食事からのセレンの摂取量や体内濃度等を調べ、また臨床症状調査と生化学的検査を行った。5名の対象者がセレン中毒症状が認められ、この5名のセレン摂取量は平均1,270 μg Se/日相当であった。また、850 μg Se/日相当程度までは明確な症状は見られなかったとしている。</p> <p>当初の調査から6年後には再調査を行っており、上記の対象者がセレン中毒から回復していることを報告している。この800 μg Se/日をNOAELとして、また中毒症状が認められた時点での有症者の推定セレン摂取量は13 μg Se/日をLOAELとするなどに、安全マージンを加算して400 μg Se/日をTDIとしている。</p> <p>なお、日本人におけるセレンの推奨摂取量について、成人のセレンの摂取量は平均で約100 μg/dayと推定されている。また、成人及び高齢者の耐容上限量は、最低健康障害非発現量 (800/60=13.3 μg/kg 体重/日) に不確実性因子2を適用した 6.7 μg/kg bw/dayである。</p> <p>以上より、日本人成人の耐容上限量 (6.7 μg/kg bw/day×5kg=33.5μg/d) と平均摂取量100 μg/dayとの差23.5μg/dayを職業ばく露によるセレン中毒を防ぐため最大許容量と判断し、呼吸量で補正した0.02 mg Se/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>		セレン中毒	ヒト	01	Longnecker MP, Taylor PR, Levander OA, Howe SM, Veillon HC, McAdam PA, et al. Selenium in diet, blood, and toenails in relation to human health in a seleniferous area. <i>Am J Clin Nutr</i> 1991; 53 (5) : 1288-1294.		論文1）は比較的高レベルのばく露を受けたものの症状の認められなかった集団についての報告で、論文2）3）は、高レベルのばく露を受け中毒症状を発したものを中心とした対象者についての報告であり、これらからNOAELを設定可能である。また、これらの知見を基にして日本人の耐容上限量が文献4）で提案されており、これらから日本人としてのマージンを推定することが可能であることがキー論文として採用した。										
							02	Yang G, Zhou R. Further observations on the human maximum safe dietary selenium intake in a seleniferous area of China. <i>J Trace Elem Electrolytes Health Dis.</i> 1994 Dec;8(3-4):159-65.													
酸化チタン	13463-67-7	レスピラブル粒子：1.5mg/m ³	-	<p>ヒトの影響として、米国の酸化チタン製造工場にて1935年から2006年までばく露された労働者3,607人のホート研究において、833名の死亡が観察された。全米の人口統計と比較した場合の死因毎の相対リスクには有意な関連はみられなかたが、累積ばく露量 (<5, 5-15, 15-35, 35-80, ≥80 mg/m³·year) と疾患のリスクの関連について10年のlag期間（時間的ずれ）を考慮した場合では、≥80 mg/m³·year群において、全死亡、全がん、心疾患の有意なリスク増加を示し、35-80mg/m³群（平均ばく露量52.42 mg/m³）がNOAELとして考えられた）。なお、他国において複数の酸化チタンばく露労働者における観察研究が報告されているが、何れも80mg/m³未満と疾患との有意な関連は報告されていない。</p> <p>動物試験において、トーピーばく露の陰性対照群として用いた雌雄のFischer 344ラットに6時間/日、SEI/週、最大24週間 TiO₂総粉じんとして5 mg/m³（吸入性粉じんとして3.87 mg/m³）吸入ばく露した結果、BALFから肺内のか竈や傷害を認めず、病理学的に肺の線維化や肺腫瘍の発生の有意な増加は認められず、NOAELと考えられた。</p> <p>上記から、動物実験の結果より5mg/m³をNOAELとし、吸入性粉塵の含有率および不確実係数を考慮した1.5mg/m³を吸入性粉塵の八時間濃度基準値として提案する。</p>		肺内の線維化や肺腫瘍	ラット	01	Ellis ED, Watkins JP, Tankersley WG, Phillips JA, Girardi DJ. Occupational exposure and mortality among workers at three titanium dioxide plants. <i>Am J Ind Med.</i> 2013 Mar;56(3):282-91.												
								02	Muhle H, Bellmann B, Creutzenberg O, Dasenbrock C, Ernst H, Kilpper R, Mackenzie JC, Morrow P, Mohr U, Takenaka S, et al. Pulmonary response to toner upon chronic inhalation exposure in rats. <i>Fundam Appl Toxicol.</i> 1991 Aug;17(2):280-99.												
2-クロロ-2',6'-ジエチル-N-(メトキシメチル)アセトニアリド(別名:アラクロール)	15972-60-8	1mg/m ³	-	<p>雌雄ビーグル犬各群6匹にアラクロールを原体で0、1、3、10 mg/kg/day、1年間経口投与（カゼル）した結果、全身毒性は、3 mg/kg/day投与群で1匹の雄の腎臓と別の雄の脾臓にヘモジデリン沈着症として認められ、高用量では雄 6匹中3匹の肝臓にヘモジデリン沈着症と溶血性貧血として認められた。また、3 mg/kg/day以上投与群の雌雄で下痢、粘血便、流涎が認められた1, 2）。</p> <p>雌雄Long-Evansラット各群50匹にアラクロールを原体で0.5、2.5、15 mg/kg/day、2年間混餌投与した結果、雄の15 mg/kg/day投与群にごく軽度の腎変性、雌雄の脾臓と別の雄の脾臓にヘモジデリン沈着症として認められ、高用量では雄 6匹中3匹の肝臓にヘモジデリン沈着症と溶血性貧血として認められた。また、126 mg/kg/dayのアラクロールを2年間混餌投与した結果、アラクロール投与群において腎臓、脾臓及び甲状腺における腫瘍の発生増加が認められた。なお、遺伝毒性試験、メカニズム試験等の結果から、腫瘍の発生メカニズムは遺伝毒性によるものではなく、間隔を設定することが可能である報告されている2）。</p> <p>以上より、動物試験の結果から、腎臓と脾臓へのヘモジデリン沈着、下痢、粘血便、流涎を臨界影響としたNOAELを1 mg/kg/dayと判断し、不確実係数等を考慮した1 mg/m³をアラクロールの八時間濃度基準値として提案する。</p>		腎臓と脾臓へのヘモジデリン沈着、下痢、粘血便、流涎	ビーグル犬	01	Naylor M.; Ribelin W.; Thake D.; et al.: Chronic study of alachlor administered by gelatin capsule to dogs; 1984. In: Reregistration Eligibility Decision (RED). Alachlor. EPA 738-R-98-020.												

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果						捕集法/分析法									
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価	備考				
N-イソプロピルアミノホスホン酸O-エチル-O-(3-メチル-4-メチオフュニル)（一般名：フェナミホス）	22224-92-6	0.05mg/m ³	-	<p>雄性ビーグル犬各群4匹に0、0.5、1、2、5、10ppm(雄:0, 0.015, 0.029, 0.063, 0.150, 0.311mg/kg/day, 雌:0, 0.014, 0.036, 0.060, 0.171, 0.338 mg/kg/day)ワニカミズ(50%フレッシュ)を2年間混餌投与した結果、0.5ppmの雌1匹は、重篤な肺炎で死亡したが、他の投与群では認められなかった(事務局注：投与関連による死亡ではないと考察)。眼底検査、血液検査で異常は認められなかった。</p> <p>雄性Wistarラット各群10匹に0, 0.03, 0.25, 3.5 µg/L(0, 0.03, 0.25, 3.5 mg/m³)のワニカミズ(純度22.2%、エチノール水溶液:フレグロー=1:1混合物)を3週間(6時間/日, 5日間/週)吸入(ばく露(粒子99%が3µm以下)した結果、雄の3.5mg/m³ばく露群において、赤血球アセチルコリニエステラーゼ活性は、わずかな減少(9~18%)認められた。脳セリウムエステラーゼ活性抑制は認められず、病理学的変化、臓器重量への影響も認められなかった2)。</p> <p>NZW^Wサギ留め皮膚(無傷)、3匹/性/群、有傷、3匹/性/群に0、2.5、10.0mg/kg bw/dayワニカミズ(純度 89.8%)を6時間/日、15日連続適用した結果、適用10日目から10.0 mg/kg bw/day適用の雄ラットに赤血球コリンエステラーゼ活性阻害(>20%)が認められた3)。</p> <p>以上より、動物実験の結果、赤血球コリンエステラーゼ活性阻害を臨界影響としたNOAELを3.5 mg/m³と判断し、不確実係数等を考慮した0.05 mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>	経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある(皮膚吸収性有害物質)	01 02 03	Löser E: BAY 68 138 chronic toxicological studies on dogs. Unpublished study. Bayer AG, Wuppertal, Germany; 1972. Submitted to U.S. Environmental Protection Agency, MRID 00037965. U.S. EPA, FOI, Washington, DC. Cited in The APVMA Review of Fenamiphos, Toxicology Assessment. Thyssen J: Nemacur active ingredient (SRA 3886) subacute inhalational toxicity study on rats. Report no. 8669. Unpublished study prepared by Bayer AG, Institut fuer Toxikologie, Germany; 1979. Submitted to U.S. Environmental Protection Agency, MRID 00154747. U.S. EPA, FOI, Washington, DC. Cited in IPCS INCHEM PESTICIDE RESIDUES IN FOOD-1997. Mihail F & Schilde B (1980) SRA 3886 (active ingredient of nemacur) subacute dermal toxicity study on rabbits. Report No. 9297. Study No's. SRA 3886/008 & 7847/002. Lab & Sponsor: Institute for Toxicology, Bayer AG, Wuppertal-Erlefeld, Germany. Unpublished. [Bayer; sub: CR68-1, Vol 19 of 23] [Bayer; sub: 11022, A3162/32, Box 21] Cited in The APVMA Review of Fenamiphos, Toxicology Assessment.	ラット	(ろ過+固体) ガスクロマトグラフ分析方法	OVS-2 (石英 フィルター+ XAD-2) 0.2~1 L/min 12~1200 min	トルエン/アセトン (9/1) 2 mL	GC/FPD	○	IFV評価 : 0.33						
2,2-ジメチル-1,3-ベンゾジオキソール-4-イル-N-メチルカルバート(別名:ベンダイオカルブ)	22781-23-3	0.2mg/m ³	-	<p>ベンダイオカルブを含むカルバメート系殺虫剤に対する最初の反応には、アセチルコリンエステラーゼ(AChE)の活性低下がある1)。</p> <p>CFYラット(対照群:雌雄各100匹/性/群、投与群:雌雄各50匹/性/群)にベンダイオカルブ(原体)を0, 2~10 (投与開始2週間後から2ppmから10ppmへ変更), 20, 200 ppm(雄:0, 0.35, 0.72, 7.04 mg/kg/day, 雌:0, 0.42, 0.86, 9.21 mg/kg/day)2年間混餌投与した。0.72 mg/kg/day以下の雌で水晶体混濁の増加、7.04 mg/kg/dayの雄および9.21 mg/kg/dayの雌で全血ChE活性阻害(20%以上)が認められた。発がん性は認められなかった2)。</p> <p>文献1)~4)はFood and Agriculture Organization (FAO)、World Health Organization (WHO): Bendiocarb. In: Pesticide Residues in Food: 1982 Evaluations. Proceedings of International Program on Chemical Safety's Joint Meeting on Pesticide Residues in Food, Rome, November 23 – December 2, 1982. Food and Agriculture Organization, Rome, Italy (1982).の2次引用。</p> <p>文献1)~4)はFood and Agriculture Organization (FAO)、World Health Organization (WHO): Bendiocarb. In: Pesticide Residues in Food: 1982 Evaluations. Proceedings of International Program on Chemical Safety's Joint Meeting on Pesticide Residues in Food, Rome, November 23 – December 2, 1982. Food and Agriculture Organization, Rome, Italy (1982).の2次引用。</p> <p>文献1)~4)はFood and Agriculture Organization (FAO)、World Health Organization (WHO): Bendiocarb. In: Pesticide Residues in Food: 1982 Evaluations. Proceedings of International Program on Chemical Safety's Joint Meeting on Pesticide Residues in Food, Rome, November 23 – December 2, 1982. Food and Agriculture Organization, Rome, Italy (1982).の2次引用。</p> <p>文献1)~4)はFood and Agriculture Organization (FAO)、World Health Organization (WHO): Bendiocarb. In: Pesticide Residues in Food: 1982 Evaluations. Proceedings of International Program on Chemical Safety's Joint Meeting on Pesticide Residues in Food, Rome, November 23 – December 2, 1982. Food and Agriculture Organization, Rome, Italy (1982).の2次引用。</p> <p>以上により、動物試験の結果から、水晶体混濁を臨界影響とした。0.35 mg/kg/dayをNOAELと判断し、不確実係数等を考慮した0.2 mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>	経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある(皮膚吸収性有害物質)	01 02 03 04	Kemp A; Hounsell IAG: Evidence for the Reversal of Cholinesterase Inhibition by NC 6897 in Laboratory Animals. Unpublished Report from FBC Limited, Essex, UK (1974). Hunter B; Watson M; Street AE; et al.: NC 6897 Toxicity and Tumorigenicity to Rats in Long-Term Dietary Administration. Unpublished Report Huntington Research Centre, London, UK (1981). Chesterman H; Heywood R; Allen T.R.; et al.: NC 6897 Toxicity study in beagle dogs (final report dietary intake for 104 weeks). Report from Huntingdon Research Centre, England, submitted to the World Health Organization by FBC Limited. (Unpublished). (1980). Li H-W; Lu D; Wu J; et al.: Study of toxicity of bendiocarb. Gongye Weisheng Yu Zhiyebing 35:332–335 (2009).	水晶体混濁 ラット												
アシ化ナトリウム	26628-22-8	0.2mg/m ³	-	<p>アシ化水素の塩であるアシ化ナトリウムは直接作用によって末梢血管を拡張する強力な血圧降下剤である1)。</p> <p>アシ化ナトリウム(濃度不明)を摂取した19歳女性に、1時間半後から視力障害および嘔吐が発生し、その後中枢神経症状、急性肺水腫、アシドーシス、低体温を伴い12時間後にシャックで死亡した。剖検では肺水腫、腹膜出血など多くの浮腫が認められ、組織学的には肺胞および肺間質の浮腫および多角細胞浸潤(polymorphonuclear infiltrate)、脳の点状出血および重度の非特異的変化がみられた2)。</p> <p>疾患の検査目的で誤って0.1%アシ化ナトリウムが混入した検査液を誤飲(アシ化ナトリウム量は50~60mg)した39歳男性が、5分後で突然昏倒し、一時的に意識を失った。10分後には熟睡、吐気、激しい頭痛を訴え、胃洗浄時点で血圧低下が認められ、その後回復した。頭痛のみ残存した翌日には頭痛も回復し肝障害も認められなかった。同じ検査液を誤飲(アシ化ナトリウム量は5~10mg)した18歳女性も5分後に頭痛、発汗および精神発作を起しが、すぐに回復した3)。</p> <p>ヒトの正常血圧患者(人)と高血圧患者(30人)C0.65, 1.3mg/kgのアシ化ナトリウムを水に溶かして単回経口投与した効果を比較した結果、高血圧患者では投与後急激な血圧低下が認められ、そのうち一部の対象者は投与後45~60秒で降圧が認められた。正常血圧者ではほとんど効果が見られなかった。また、高血圧患者(30人)C0.65, 1.3mg/kgのアシ化ナトリウムを一定期間投与した結果、正常血圧者(1.3 mg)を1日3回、10日間投与しても大きな変化は見られなかった。高血圧患者(30人)C0.65, 1.3mg/kgのアシ化ナトリウムを1年間以上毎日服用しているが、日常臨床試験で腎臓、心臓、肝臓などの臓器に障害は見られなかった4)。</p> <p>雌雄F344ラット各群10匹C0.1, 1.25, 2.5, 5, 10, 20 mg/kgのアシ化ナトリウムを13時間強制経口投与した結果、20 mg/kg投与群ではほぼすべてのラットが実験期間中に死亡し、その後5匹および8匹に認められた脳細胞壊死(特に尾状核と被蓋野の領域で特に顕著)が死亡の原因と考えられた。20 mg/kg投与群では雌雄各7匹に肺のう血及び出血が認められ、これらの所見は循環器系の破綻を介して二次的な脳の壊死の原因と考えられた。なお、10 mg/kg投与群では脳および肺の所見は見られなかった。また、1.25 mg/kg以上の投与群で肝臓の相対重量増加(最大14%)が認められたが、用量依存的ではないと考えられた5)。</p> <p>以上より、ヒトの知見から、血管拡張作用による毒性影響(循環器、中枢神経障害)の見られない3.9mg/dayをNOAELと判断し、不確実係数等を考慮した0.2mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。また、単回投与による毒性影響がみられるが、アシ化ナトリウム粉末の下および動物の経気道ばく露による知見に乏しいことから、短時間濃度基準値は「設定できない」として提案する。</p>	経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある(皮膚吸収性有害物質)	01 02 03 04 05	GRAHAM JD. Actions of sodium azide. Br J Pharmacol Chemother. 1949 Mar;4(1):1-6. Emmett EA, Ricking JA. Fatal self-administration of sodium azide. Ann Intern Med. 1975 Aug;83(2):224-6. Richardson SG, Giles C, Swan CH. Two cases of sodium azide poisoning by accidental ingestion of Isoton. J Clin Pathol. 1975 May;28(5):350-1. BLACK MM, ZWEIFACH BW, SPEER FD. Comparison of hypotensive action of sodium azide in normotensive and hypertensive patients. Proc Soc Exp Biol Med. 1954 Jan;85(1):11-6. National Toxicology Program. NTP Toxicology and Carcinogenesis Studies of Sodium Azide (CAS: 26628-22-8) in F344 Rats (Gavage Studies). Natl Toxicol Program Tech Rep Ser. 1991 Sep;389:1-165.	ヒト												

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果						捕集法/分析法					
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価	備考
イソオクタノール	26952-21-6	50ppm	-	イスマウス(10匹、系統及び雌雄不明)、Wistarラット(10匹、系統及び雌雄不明)、イングリッシュショットヘアモット(10匹、系統及び雌雄不明)にイソオクタノールを200ppm、6時間単回吸入ばく露(蒸気ばく露)した結果、眼、鼻、喉、呼吸器の粘膜に中程度の局所的な刺激がみられたが、全身毒性の兆候はなかった1)。以上より、動物試験の結果から、皮膚粘膜刺激を臨界影響としたLOAELを200ppmと判断し、不確実係数等を考慮した50ppm (266mg/m ³)を八時間濃度基準値として提案する。	経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある(皮膚吸収性有害物質)。	皮膚粘膜刺激	ラット及びモルモット	01	Scala RA, Burts EG. Acute toxicity of a homologous series of branched-chain primary alcohols. Am Ind Hyg Assoc J. 1973 Nov;34(11):493-9.		固体ーガスクロマトグラフ分析方法	活性炭管 0.2 L/min 50 min	N,N-ジメチルホルムアミド/二硫化炭素 (1/99) 1 mL	GC/FID	○	・IFV評価：7.9であるが、一般有機溶剤を考えれば、固体捕集のみで捕集できと言えられる。 ・測定範囲は10L捕集として、OELの0.3~1.3倍の濃度である。 ・破過試験時のOELの1倍相当濃度で10L捕集で実施されている。
ジチオルン酸O-エチル-O-(4-メチルチオフェニル)-S-n-プロピル (スルプロホス)	35400-43-2	0.1mg/m ³	-	雌雄Fischerラット各群50匹に0, 6, 60, 250 ppm (約0.0, 0.25, 2.5, 10 mg/kg bw/dayに相当) のスルプロホスを2年間混餌投与した結果、250 ppm投与群では赤血球(及び尿) コリンエステラーゼ活性が阻害され、60 ppm投与群でも赤血球コインエステラーゼ活性が有意に低下した。6ppm (0.25 mg/kg) では影響は見られず、腫瘍発生率の増加もなかった1)。 雌雄ICR系マウス各群60匹に0, 2.5, 25, 200, 400 ppm (約0.0, 0.3, 3, 20, 50 mg/kg bw/dayに相当) のスルプロホスを22ヶ月間混餌投与した結果、摂食量、体重、臨床症状、死亡率に変化はなく、赤血球コインエステラーゼ活性は25 ppm投与群以上で低下し、NOAELは2.5 ppm (0.3 mg/kg) であった。腫瘍の増加の証拠は見られなかった1)。 雌雄ビーグル犬各群4匹に0, 10, 100, 150 ppm (約0.0, 2, 3, 5 mg/kg bw/dayに相当) のスルプロホスを2年間混餌投与した結果、赤血球及び尿コインエステラーゼ活性は100 ppmで有意に阻害されたが、10 ppm (0.2 mg/kg) では阻害されなかった。他の反応は見られず、発がん性の証拠はなかった1)。 以上より、動物試験の結果からコインエステラーゼ活性阻害を臨界影響としてNOELを0.2 mg/kg bw/dayと判断し、不確実係数等を考慮した0.1 mg/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。	経皮吸収があることから、経皮ばく露防止対策に留意する必要がある(皮膚吸収性有害物質)。 25℃の飽和蒸気圧*1における濃度換算値 0.01 mg/m ³ と濃度基準値 0.1 mg/m ³ との比が 0.11 であることから、粒子と蒸気の両方を捕集できる捕集方法が必要である。 本文中の各動物種の系統について、文献1にはその明記がされておらず、また原典の収集は不可であったが、以下の文献情報*2を同じ知見と判断し、系統名を追記した。	コリンエステラーゼ活性阻害	ビーグル	01	Jones RD: Sulprofos: Toxicological assessment. Bayer Agriculture Division (1994). In: Patty's Toxicology, 5th ed., Vol. 7, pp.912-916. Eula Bingham, Barbara Cohnsson, Eds. John Wiley & Sons, Inc. (2001)		(ろ過+固体) 捕集ーガスクロマトグラフ分析法	OVS-2 (石英フィルター + XAD-2) 0.2~1 L/min 12~1200 min	トルエン/アセトン (9/1) 2 mL	GC/FPD	○	・IFV評価値：0.50 ・参考文献がNIOSHの有機リン系農薬の測定法であるため、使用法を考慮してろ過捕集を組合せること。